教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』(本願寺出	出版社)					
	オリエンテーショ	ンの栞					
副教材等	聖典聖歌						
	日々の糧						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育みます。自分自身を しっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習します。また、学校生活にお ける生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操 を育むことを目標とします。

1学年の宗教では、礼拝の作法や法要にまつわるオリエンテーションから入ります。その後、宗教とは何か、どのように宗教が生まれ、発展し、またどうして宗教を必要とするのかを総合的に学びます。次に仏教をひらかれた釈尊の生涯を学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りをひらき、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を学びます。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

毎時間日々の糧を通して、自分自身を振り返っていきます。「調身・調息・調心」。しっかりと心を落ち着けて参加してください。毎時間、みなさんにいろいろなことを考えていただきます。先生が授業で話したことや話を聞いて感じたことを自由にノートに控えるようにしてください。気づきを大切に、自らの築きにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	宗教の各分野について体系的、 系統的に理解しているととも に、礼拝の心を理解し、関連す る技能を身につけている。	実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について \bigcirc をつけている。

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
		オリエンテーション	0	\circ	\circ	I:教育理念を理解し、礼拝の作法につ	学期末に行
学期	オ	相愛高等学校の宗教教育				いての基礎知識を習得し、実践してい	う年 3 回の
中間	リエ	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	る。	試験。授業を
lH1	ーンテ	ことば・時事問題を交えな				Ⅱ:日々の糧の内容について自分の問題	受けるにあ
_	1	がら学習する。				として多面的・多角的に考察し,表現	たっての平
学期期	ショ					している。	常点。ノー
期末	ン					Ⅲ:宗教行事の内容を理解し、厳粛に受	ト、発表、課
714						止め、積極的に参加している。	題提出。板書
		宗教の起源について	\circ	0		I:宗教がどのように起こり、広まって	事項、説明
		世界の宗教とその分類	\circ	0		いったのか、その起源を知る。原始宗	等、きちんと
		原始宗教	\circ	0		教・民族宗教・世界宗教について学び、	ノートにま
		民族宗教	0	0		その種類や特徴を理解している。	とめられた
	宗	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	Ⅱ:それぞれの宗教に見られる課題を把	か。また、内
一学期中	宗教の	ことば・時事問題を交えな				握し複数の立場や意見を踏まえて公	容を理解し、
中間	起源	がら学習する。				正に選択・判断したり、思考・判断し	自己のあり
F]	你					たことを説明したり、それらを基に議	方を見つめ
						論したりしている。	直せたか。
						Ⅲ:よりよい社会の実現を視野にそこで	
						見られる宗教的な課題を主体的に追	
						究しようとしている。	
		世界宗教				I:世界三大宗教についての理解を深	
		キリスト教	0	0		め、身近にある宗教について理解して	
		イスラム教	0	0		いる。	
		仏教	0	0		Ⅱ:世界宗教に関わる事象の意味や意	
	-111-	まとめ			0	義、その特色などを多面的・多角的に	
学期	世界	期末考査	0	0		考察したり、それぞれの宗教に見られ	
学期期末	1界宗教	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	る課題を把握し複数の立場や意見を	
		ことば・時事問題を交えな				踏まえて公正に選択・判断したり、思	
		がら学習する。				考・判断したことを説明したり、それ	
						らを基に議論したりしている。	
						Ⅲ:よりよい社会の実現を視野にそこで	
						見られる宗教的な課題を主体的に追	

						究しようとしている。
		誕生	0	0		I:仏教を開かれた釈尊の生涯とその教
		出家	\circ	\circ		えについて学びます。釈尊の出家の動
		成道	\circ	\circ		機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、
		伝道	\circ	\circ		伝道の旅を続けられてから涅槃に至
		涅槃	\circ	\circ		るまでの足跡を求めながら釈尊の生
	釈	まとめ			\circ	き方を理解している。
三学期	尊の	学年末考査	\circ	\circ		Ⅱ:釈尊の五相について、それぞれのタ
朝	歩	※「日々の糧」・「聖典」の		\circ	0	ーニングポイントでどのようなきっ
	み	ことば・時事問題を交えな				かけがあったのか知り、自分の問題と
		がら学習する。				してとらえて表現しようとしている。
						Ⅲ:釈尊の生涯から生き方について学
						び、それを自分の問題として多面的・
						多角的に受け止め、積極的に取り組も
						うとしている。

2024 年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』(本願寺出	出版社)					
	オリエンテーショ	ンの栞					
副教材等	聖典聖歌						
	日々の糧						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育みます。自分自身を しっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習します。また、学校生活にお ける生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操 を育むことを目標とします。

1学年の宗教では、礼拝の作法や法要にまつわるオリエンテーションから入ります。その後、宗教とは何か、どのように宗教が生まれ、発展し、またどうして宗教を必要とするのかを総合的に学びます。次に仏教をひらかれた釈尊の生涯を学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りをひらき、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を学びます。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

毎時間日々の糧を通して、自分自身を振り返っていきます。「調身・調息・調心」。しっかりと心を落ち着けて参加してください。毎時間、みなさんにいろいろなことを考えていただきます。先生が授業で話したことや話を聞いて感じたことを自由にノートに控えるようにしてください。気づきを大切に、自らの築きにしましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	宗教の各分野について体系的、 系統的に理解しているととも に、礼拝の心を理解し、関連す る技能を身につけている。	実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について \bigcirc をつけている。

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
		オリエンテーション	0	\circ	\circ	I:教育理念を理解し、礼拝の作法につ	学期末に行
学期	オ	相愛高等学校の宗教教育				いての基礎知識を習得し、実践してい	う年 3 回の
中間	リエ	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	る。	試験。授業を
lH1	ーンテ	ことば・時事問題を交えな				Ⅱ:日々の糧の内容について自分の問題	受けるにあ
_	1	がら学習する。				として多面的・多角的に考察し,表現	たっての平
学期期	ショ					している。	常点。ノー
期末	ン					Ⅲ:宗教行事の内容を理解し、厳粛に受	ト、発表、課
714						止め、積極的に参加している。	題提出。板書
		宗教の起源について	\circ	0		I:宗教がどのように起こり、広まって	事項、説明
		世界の宗教とその分類	\circ	0		いったのか、その起源を知る。原始宗	等、きちんと
		原始宗教	\circ	0		教・民族宗教・世界宗教について学び、	ノートにま
		民族宗教	0	0		その種類や特徴を理解している。	とめられた
	宗	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	Ⅱ:それぞれの宗教に見られる課題を把	か。また、内
一学期中	宗教の	ことば・時事問題を交えな				握し複数の立場や意見を踏まえて公	容を理解し、
中間	起源	がら学習する。				正に選択・判断したり、思考・判断し	自己のあり
F]	你					たことを説明したり、それらを基に議	方を見つめ
						論したりしている。	直せたか。
						Ⅲ:よりよい社会の実現を視野にそこで	
						見られる宗教的な課題を主体的に追	
						究しようとしている。	
		世界宗教				I:世界三大宗教についての理解を深	
		キリスト教	0	0		め、身近にある宗教について理解して	
		イスラム教	0	0		いる。	
		仏教	0	0		Ⅱ:世界宗教に関わる事象の意味や意	
	-111-	まとめ			0	義、その特色などを多面的・多角的に	
学期	世界	期末考査	0	0		考察したり、それぞれの宗教に見られ	
学期期末	1界宗教	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	る課題を把握し複数の立場や意見を	
		ことば・時事問題を交えな				踏まえて公正に選択・判断したり、思	
		がら学習する。				考・判断したことを説明したり、それ	
						らを基に議論したりしている。	
						Ⅲ:よりよい社会の実現を視野にそこで	
						見られる宗教的な課題を主体的に追	

						究しようとしている。
		誕生	0	0		I:仏教を開かれた釈尊の生涯とその教
		出家	\circ	\circ		えについて学びます。釈尊の出家の動
		成道	\circ	\circ		機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、
		伝道	\circ	\circ		伝道の旅を続けられてから涅槃に至
		涅槃	\circ	\circ		るまでの足跡を求めながら釈尊の生
	釈	まとめ			\circ	き方を理解している。
三学期	尊の	学年末考査	\circ	\circ		Ⅱ:釈尊の五相について、それぞれのタ
朝	歩	※「日々の糧」・「聖典」の		\circ	0	ーニングポイントでどのようなきっ
	み	ことば・時事問題を交えな				かけがあったのか知り、自分の問題と
		がら学習する。				してとらえて表現しようとしている。
						Ⅲ:釈尊の生涯から生き方について学
						び、それを自分の問題として多面的・
						多角的に受け止め、積極的に取り組も
						うとしている。

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』(本願寺出	出版社)					
	オリエンテーショ	ンの栞					
副教材等	聖典聖歌						
	日々の糧						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育みます。自分自身を しっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習します。また、学校生活にお ける生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操 を育むことを目標とします。

1学年の宗教では、礼拝の作法や法要にまつわるオリエンテーションから入ります。その後、宗教とは何か、どのように宗教が生まれ、発展し、またどうして宗教を必要とするのかを総合的に学びます。次に仏教をひらかれた釈尊の生涯を学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りをひらき、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を学びます。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

毎時間日々の糧を通して、自分自身を振り返っていきます。「調身・調息・調心」。しっかりと心を落ち着けて参加してください。毎時間、みなさんにいろいろなことを考えていただきます。先生が授業で話したことや話を聞いて感じたことを自由にノートに控えるようにしてください。気づきを大切に、自らの築きにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	宗教の各分野について体系的、 系統的に理解しているととも に、礼拝の心を理解し、関連す る技能を身につけている。	実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について \bigcirc をつけている。

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
		オリエンテーション	0	\circ	\circ	I:教育理念を理解し、礼拝の作法につ	学期末に行
学期	オ	相愛高等学校の宗教教育				いての基礎知識を習得し、実践してい	う年 3 回の
中間	リエ	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	る。	試験。授業を
lH1	ーンテ	ことば・時事問題を交えな				Ⅱ:日々の糧の内容について自分の問題	受けるにあ
_	1	がら学習する。				として多面的・多角的に考察し,表現	たっての平
学期期	ショ					している。	常点。ノー
期末	ン					Ⅲ:宗教行事の内容を理解し、厳粛に受	ト、発表、課
714						止め、積極的に参加している。	題提出。板書
		宗教の起源について	\circ	0		I:宗教がどのように起こり、広まって	事項、説明
		世界の宗教とその分類	\circ	0		いったのか、その起源を知る。原始宗	等、きちんと
		原始宗教	\circ	0		教・民族宗教・世界宗教について学び、	ノートにま
		民族宗教	0	0		その種類や特徴を理解している。	とめられた
	宗	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	Ⅱ:それぞれの宗教に見られる課題を把	か。また、内
一学期中	宗教の	ことば・時事問題を交えな				握し複数の立場や意見を踏まえて公	容を理解し、
中間	起源	がら学習する。				正に選択・判断したり、思考・判断し	自己のあり
F]	你					たことを説明したり、それらを基に議	方を見つめ
						論したりしている。	直せたか。
						Ⅲ:よりよい社会の実現を視野にそこで	
						見られる宗教的な課題を主体的に追	
						究しようとしている。	
		世界宗教				I:世界三大宗教についての理解を深	
		キリスト教	0	0		め、身近にある宗教について理解して	
		イスラム教	0	0		いる。	
		仏教	0	0		Ⅱ:世界宗教に関わる事象の意味や意	
	-111-	まとめ			0	義、その特色などを多面的・多角的に	
学期	世界	期末考査	0	0		考察したり、それぞれの宗教に見られ	
学期期末	1界宗教	※「日々の糧」・「聖典」の		0	0	る課題を把握し複数の立場や意見を	
		ことば・時事問題を交えな				踏まえて公正に選択・判断したり、思	
		がら学習する。				考・判断したことを説明したり、それ	
						らを基に議論したりしている。	
						Ⅲ:よりよい社会の実現を視野にそこで	
						見られる宗教的な課題を主体的に追	

						究しようとしている。
		誕生	0	0		I:仏教を開かれた釈尊の生涯とその教
		出家	\circ	\circ		えについて学びます。釈尊の出家の動
		成道	\circ	\circ		機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、
		伝道	\circ	\circ		伝道の旅を続けられてから涅槃に至
		涅槃	\circ	\circ		るまでの足跡を求めながら釈尊の生
	釈	まとめ			\circ	き方を理解している。
三学期	尊の	学年末考査	\circ	\circ		Ⅱ:釈尊の五相について、それぞれのタ
朝	歩	※「日々の糧」・「聖典」の		\circ	0	ーニングポイントでどのようなきっ
	み	ことば・時事問題を交えな				かけがあったのか知り、自分の問題と
		がら学習する。				してとらえて表現しようとしている。
						Ⅲ:釈尊の生涯から生き方について学
						び、それを自分の問題として多面的・
						多角的に受け止め、積極的に取り組も
						うとしている。

教科	国語	科目	現代の国語	選択等	音楽科						
教科書	「現代の国語」(大修館書店)										
司山北十十六六	「常用国語便覧」(浜島書店)										
副教材等	「常用漢字必携パーフェクトクリア」(尚文出版)										

1 学習の到達目標

論理的な言語活動を通じて、思考力や判断力を実践的に高めていくことともに、自身の考えや主張を適切に表現しつつ、他者の意見を理解することで考えを深めていく態度を養っていく。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、

相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど,話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、 言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開 や表現の仕方などを評価しな がら読み、人間社会自然などに ついて自分の考えを持ってい る。	国語で伝え合う力を進んで高 めるとともに、国語に対する認 識を深め、読書を通して自己を 向上させようとする。
評価 方法	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・レポート・発問への応答・疑問の発露

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価		
期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
791	名		Ι	П	Ш		
1 学	学ぶ考える/	【明日をひらく】 教材: 「考える技術」		0	0	I:何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えようとしている。 II:何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。 III:話すこと・聞くことに必要な文の組立てについて理解している。	I,Ⅲ,Ⅲ: 行動の観察と 確認
期中間	言語と文化	【要点をつかむ】 教材: 「水の東西」	0	0		I:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III:正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,Ⅲ,Ⅲ: 行動の観察と 確認
1 学 期 期 末	生命と環境	【論理をとらえる】 教材: 「自然と人間の関係を とおして考える」	0	0		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 Ⅲ 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,Ⅲ,Ⅲ: 行動の観察と 確認
2 学期中間	自己他者	【情報を比較する】 教材:「空気を読む」	0	0		I:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III:正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,Ⅲ,Ⅲ: 行動の観察と 確認
2 学期期末	メディア情報	【要点をつかむ】 教材: 「「動」への変化」		0	0	I:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III:正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,Ⅲ,Ⅲ: 行動の観察と 確認

23	【主張を吟味する】 教材: 「贅沢を取り戻す」	0	0		I:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III:正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,Ⅱ,Ⅲ: 行動の観察と 確認
----	-------------------------------	---	---	--	--	------------------------

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2	選択等	必修					
教科書	『言語文化』 (大修館書店)											
副教材等	『解釈のための必携』 『重点整理 新・国立 『評解 新小倉百人- 『改訂版 常用国語の 『古文単語 300』(旺	文学史ノー 一首』(京者 更覧』(浜島	ト』(日栄社) 『書房)									

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、 人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高 めるとともに、国語に対する認 識を深め、読書を通して自己を 向上させようとする。
評価方法	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単一	24 JJ H v 는		に評		光一(昭計)の記げせ海	亚/工士/
期	元名	学習内容	I	る観 Ⅱ	屈	単元(題材)の評価基準	評価方法
1 学期中間	古文入門	【古典】 歴史的仮名遣い、品詞 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 『枕草子』「雪のいと高 う降りたるを」 用言の学習	0	0	0	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
1 学期期末	文学創作	【近代以降】 『羅生門』に基づいて 小説を書くことを学ぶ 【参考】『今昔物語集』	0	©	0	物事の様子や場面などを、読み手が言葉を通してありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
2 学期中間	物語を読む	【古典】 助動詞の学習 『伊勢物語』 「あづま下り」 俳句、短歌	0	0	0	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
2 学 期 期 末	漢文入門・小説	【古典】 教材: 故事成語「蛇足」 思想『論語』 訓点、再読文字 『論語』 【近代以降】 『城の崎にて』	0	0	0	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたことに気付いている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査

	短詩形文学を味わう	【近代以降】 〈俳句と短歌の代表的 な作品を鑑賞する〉 教材: 教科書に掲載された 俳句と短歌	0	0	0	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	
3 学 期	古文の和歌を味わい日記を読む	【古典】 教材:『万葉集』 『古今和歌集』 日記『土佐日記』「門出」	0	©	0	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	3	選択等	必修						
教科書	「現代の国語」(大修館書店)												
可以为十十分次	「重要頻出漢字リ	アルマス	ター」尚文出版「新訂版常	常用国語例	更覧」(浜	島書店)							
副教材等	ノート、プリント	ノート、プリント、国語辞典、iPad											

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

今年度から新たに始まったこの「現代の国語」は、論理的思考力、相互に交流する力、情報の適切な判断力といった実社会で求められる言語能力を身につけることを目的とした科目です。社会に出た際に通用する国語の力を伸ばしていきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開 や表現の仕方などを評価しな がら読み、人間社会自然などに ついて自分の考えを持ってい る。	国語で伝え合う力を進んで高 めるとともに、国語に対する認 識を深め、読書を通して自己を 向上させようとする。
評価方法	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・レポート・発問への応答・確認テスト・疑問の発露	・学習状況・レポート・発問への応答

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について \bigcirc をつけている。

学	単			に評			
期	元	学習内容		る観		単元(題材)の評価基準	評価方法
	名		I	П	Ш		
	3) &	【明日をひらく】		0	\circ	I:何のために、誰に向かって、どのよう	
	学	***				な条件で話すのかを考えようとしてい	Ι,Π,Π :
	ぶ考	教材:				る。	行動の観察
	Ů	「考える技術」				Ⅱ:何のために、誰に向かって、どのよう	と確認
1	えっ					な条件で話すのかを考えている。	
1 学	る					Ⅲ:話すこと・聞くことに必要な文の組立	
当期	/ 言					てについて理解している。	
中	語	【要点をつかむ】				I:考えの進め方や、情景や心情の推移な	I, II, III:
間	m と	【女点を フルゼ】	0	0		ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
lb1	文	教材:				ている。	と確認
	化	「水の東西」				Ⅲ:考えの進め方や、情景や心情の推移な	
	ΙL	がががは				ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
						Ⅲ:正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
						を増やしている。	
							I, II, III:
		【論理をとらえる】				I考えの進め方や、情景や心情の推移な	行動の観察
1	生		0	0		ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	と確認
学	命	教材:				ている。	
期	と	「自然と人間の関係をとお				Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
期	環	して考える」				ど、文章の筋道を的確にとらえている。	記述の確認
末	境					Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	及び定期考
						を増やしている。	查
		【情報を比較する】				I:考えの進め方や、情景や心情の推移な	I, II, III:
2			\circ	\circ		ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
学	自	教材:「空気を読む」				ている。	と確認
期	己					Ⅱ:考えの進め方や、情景や心情の推移な	
中	他					ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
'	者	【主張を吟味する】				Ⅲ:正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
,,,,,						を増やしている。	
		教材:					

		「感情とは何か」	0	0	0	I 考えの進め方や、情景や心情の推移な	I, II, III:
						ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
						ている。	と確認
						Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
						ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
						Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
						を増やしている。	
							I,II,III:
	伝					I考えの進め方や、情景や心情の推移な	行動の観察
	え	【他者を動かす】				ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	と確認
	る	let I I	0	0	0	ている。	
	表	教材:				 Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
	現	「どう伝えるか」				 ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
2	す					 Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
学	る					 を増やしている。	
期							
期		【要点をつかむ】				 Ⅰ考えの進め方や、情景や心情の推移な	І,П,Ш:
末	メ					 ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
	デ	教材:	0	0		ている。	と確認
	1	「「動」への変化」				Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	, _
	ア					ど、文章の筋道を的確にとらえている。	記述の確認
	情					Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
	報					を増やしている。	查
	,,,						
						I 考えの進め方や、情景や心情の推移な	І, П, Ш:
		【主張を吟味する】				 ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
	社					ている。	と確認
	会	教材:	0	0		 Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
		「贅沢を取り戻す」				 ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
						 Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
3	デ					を増やしている。	
学	イ	【聞く・話す】	0	0	0		
期	~`	〈ディベートを通して、互				 Ⅰ考えの進め方や、情景や心情の推移な	І, П, Ш:
	_	いの考えを深めながら、話				ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	, ,
	1	し方聞き方について学ぶ。〉				ている。	と確認
	を					I 考えの進め方や、情景や心情の推移な	
	行	教材:				ど、文章の筋道を的確にとらえている。	記述の確認
	う	「ディベートをしてみよ				Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
		う」、				を増やしている。	查
			<u> </u>	<u> </u>			

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3	選択等	必修					
教科書	『言語文化』 (大修館書店)											
副教材等		国文学史 人一首』 語便覧』										

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

古文・漢文にふれ、伝統文化を知る楽しさを追究してほしい。古典を自ら読む力を養うため、語彙力をつけ、文法、常識の習得にも積極的に取り組んでいこう。先人の「知」「生き方」「文化交流」に触れ、自らの視野を広げていってほしい。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高 めるとともに、国語に対する認 識を深め、読書を通して自己を 向上させようとする。
評価方法	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・レポート・発問への応答・疑問の発露

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において

I古典を読むために必要な文語の決まり、訓読の決まり、古文特有の表現などを理解している。

Ⅱ「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、特色について捉える。

Ⅲ当時のならわしについて知り、作者のものの見方、感じ方を読み味わう。特に重点的に評価を行う観点について©をつけている。

			Ι .				
学	単		主	に評	価		
期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
797	名		Ι	П	Ш		
1 学期中間	古文入門	【古典】 歴史的仮名遣 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 「絵仏師 良秀」 古文動詞の学習	0	0	0	I 古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現を理解している。 II「読むこと」において作品の内容や形式について、批判したり、討議したりしている。 III 説話文学に興味を持ち、登場人物の言動から多様な価値観を読み取る。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
1 学 期 期 末	文学創作	【近代以降】 『羅生門』 【参考】『今昔物語集』	0	0	0	I 作品の修辞技法など特徴的な技法と 効果について理解している。 II 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 III 作品に興味を持ち、作者の人物像をとらえる。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
2 学期中間	物語を読む	【古典】 『伊勢物語』「筒井筒」 古文形容詞・形容動詞	0	0	0	I 和歌の修辞技法など特徴的な技法と 効果について理解している。 II 「読むこと」において文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開を的確に捉えている。 III 文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品ごとの特色を理解する	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
2 学期期末	漢文入門・小説	【古典】 故事成語「蛇足」 訓点、再読文字 『論語』 【近代以降】 『城の崎にて』	0	0	0	I 我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 II 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの考え方、感じ方を深める。 III 作品に興味を持ち、作者の感覚や人物像を捉える。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査

	現代詩歌	【近代以降】 俳句と短歌	0	0	0	I 韻文、古典を読むために必要な口語、	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
3 学期	和歌・随筆	【古典】 『万葉集』 『古今和歌集』 『枕草子』 「雪のいと高う降りた るを」 古文助動詞	0	0	0	文語の決まり、詩歌、古文特有の表現などを理解している。 Ⅱ「読むこと」において、文章の構成や 展開、表現の仕方、特色について捉える。 Ⅲ当時のならわしについて知り、作者の ものの見方、感じ方を読み味わう。	

2024年度 相愛高等学校 02 1年 普通科特進コース シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	選択等	必須				
教科書	「現代の国語」(大修館書店)										
=1 *1.++ **	「常用国語便覧」(浜島書店)										
副教材等	「重要頻出漢字リアルマスター」(尚文出版)										

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかみ、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成・展開を工夫する能力を養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開 や表現の仕方などを評価しな がら読み、人間社会自然などに ついて自分の考えを持ってい る。	国語で伝え合う力を進んで高 めるとともに、国語に対する認 識を深め、読書を通して自己を 向上させようとする。
評価 方法	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価		
期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
291	名		I	П	Ш		
		【明日をひらく】		0		I:何のために、誰に向かって、どのよう	
	学					な条件で話すのかを考えようとしてい	І,П,Ш:
	ž	教材:				る。	1,11,111 : 行動の観察
	考	「考える技術」				Ⅱ:何のために、誰に向かって、どのよう	と確認
	え					な条件で話すのかを考えている。	○ 4年即0
1	る					Ⅲ:話すこと・聞くことに必要な文の組立	
学	/					てについて理解している。	
期	言						І,П,Ш:
中	語	【要点をつかむ】	0	0		I:考えの進め方や、情景や心情の推移な	1,11,111 : 行動の観察
間	と		0			ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	と確認
	文	教材:				ている。	○ 4年即0
	化	「水の東西」				Ⅱ:考えの進め方や、情景や心情の推移な	
						ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
						Ⅲ:正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
						を増やしている。	
	生	【論理をとらえる】					I,II,III:
	命	「開発とこうだる」	0	0		I考えの進め方や、情景や心情の推移な	行動の観察
1	と	教材:				ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	と確認
学	環	「自然と人間の関係を				ている。	
期	境	とおして考える				Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
期						ど、文章の筋道を的確にとらえている。	記述の確認
末						Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	及び定期考
						を増やしている。	查
2	自	【情報を比較する】				I:考えの進め方や、情景や心情の推移な	I,II,III:
学	己		\bigcirc	0		ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
期	他	教材:「空気を読む」				ている。	と確認
中	者					Ⅱ:考えの進め方や、情景や心情の推移な	
間						ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
		【主張を吟味する】				Ⅲ:正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
言						を増やしている。	
語		教材:					

文		「感情とは何か」	\circ	\circ	\circ	I 考えの進め方や、情景や心情の推移な	I,II,III:
化						ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
						ている。	と確認
						Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
						ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
						Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
						を増やしている。	
							I,II,III:
	伝	Friday and a set				I考えの進め方や、情景や心情の推移な	行動の観察
	え	【他者を動かす】				ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	と確認
	る		\circ	\circ	0	ている。	
	表	教材:				Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
	現	「どう伝えるか」				ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
2	す					Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
学	る					を増やしている。	
期		7					
期		【要点をつかむ】				I 考えの進め方や、情景や心情の推移な	I,II,III:
末	メ					ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
	デ	教材:	0	0		ている。	と確認
	イ	「「動」への変化」				Ⅱ考えの進め方や、情景や心情の推移な	
	ア					ど、文章の筋道を的確にとらえている。	記述の確認
	情					Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	及び定期考
	報					を増やしている。	查
		【主張を吟味する】				I 考えの進め方や、情景や心情の推移な	I , II , III :
	社					ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
	会	教材:				ている。	と確認
		「贅沢を取り戻す」	\circ	\circ		II考えの進め方や、情景や心情の推移な	
						ど、文章の筋道を的確にとらえている。	
						Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	
3	デ	【聞く・話す】				を増やしている。	
学	イ	〈ディベートを通し	\circ	\circ	\bigcirc		
期	7	て、互いの考えを深め				I 考えの進め方や、情景や心情の推移な	I , II , III :
	J	ながら、話し方聞き方				ど、文章の筋道を的確にとらえようとし	行動の観察
	٢	について学ぶ。〉				ている。	と確認
	を					II考えの進め方や、情景や心情の推移な	
	行	教材:				ど、文章の筋道を的確にとらえている。	記述の確認
	う	「ディベートをしてみ				Ⅲ正しく理解し、使いこなせる言葉の数	及び定期考
		よう」、				を増やしている。	査

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	言語文化	2	選択等	必修						
教科書	『言語文化』 (大修館書店)											
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』(啓隆社)、『改訂版 常用国語便覧』(浜島書店) 副教材等 『重点整理 新・国文学史ノート』(日栄社)、『古文単語 300』(旺文社)											
『評解 新小倉百人一首』(京都書房)												

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・ 能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を 高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題を掴むこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで 高めるとともに、国語に対する 認識を深め、読書を通して自己 を向上させようとする。
評価方法	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・確認テスト・レポート・発問への応答・疑問の発露	・学習状況・レポート・発問への応答・疑問の発露

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について@をつけている。

学	単		主	に評	価		
子期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
州	名		I	П	Ш		
1 学期中間	古文入門	【古典】 歴史的仮名遣い、品詞 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 『枕草子』「雪のいと高 う降りたるを」 用言の学習	©	0	0	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
1 学期期末	文学創作	【近代以降】 『羅生門』をもとに古 典と現代文学の繋がり を考える 【参考】『今昔物語集』	0	0	0	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 元となった古文と作品を比較し、作者の意図を理解している。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
2 学期中間	物語を読む	【古典】 助動詞の学習 『伊勢物語』 「あづま下り」 俳句、短歌	0	0	0	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や 状況を捉える手掛かりとしている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身 に付けている。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査
2 学 期 期 末	漢文入門・小説	【古典】 教材: 故事成語「蛇足」 思想『論語』 訓点、再読文字 『論語』 【近代以降】 『城の崎にて』	0	0	0	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外 国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築 かれてきたことに気付いている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身 に付けている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手が このように描いているのかを捉え、象徴、予兆 などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色につい て理解している。	・行動の観察・記述の確認・提出物・小テスト・定期考査

3	短詩系文学を味わう	【近代以降】 〈俳句と短歌の代表的 な作品を鑑賞する〉 教材: 教科書に掲載された 俳句と短歌	0	0	0	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について、理解している。	・行動の観察・記述の確認
学期	古文の和歌を味わい日記を読む	【古典】 教材:『万葉集』 『古今和歌集』 日記『土佐日記』「門出」	0		0	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・提出物・小テスト・定期考査

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	国語演習	単位数	2	選択等	特進				
教科書	指定なし	指定なし									
副教材等	現代文問題 古典問題										

1 学習の到達目標

さまざまな文章・資料に触れながら、各文章・資料の書き手の意図を正確に理解する。また自身の意図 を他者に正確に伝達できるようになる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

それぞれの文章の特徴をつかみ、読み解いていくため自発的に学ぶ姿勢を身につけよう。読み解いた ものを、他者に分かりやすく伝えるため、語彙力や基礎知識を増やし、表現技法を学び活用していこう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣	伝統的な言語文化に親しんだ り、言葉の特徴や決まり、漢字 などについて理解し使ったり する。目的や場面、意図に応じ、 文章の形態を選択し、論理の展	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、 人間社会自然などについて自	国語で伝え合う力を進んで高 めるとともに、国語に対する認 識を深め、読書を通して自己を 向上させようとする。
型 当	開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	分の考えを持っている。	
評価方法	・学習状況・定期考査・レポート・発問への応答	・学習状況・定期考査・レポート・発問への応答	・学習状況・レポート・発問への応答

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価		
子期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
州	名		Ι	П	Ш		

П						
	現代文読解の基本	0	0	0	I古典を読むために必要な文語のきま	・確認テスト
1					り、古典特有の表現を理解している。	・定期考査
学	文語文法導入	0	\circ		Ⅱ文章を的確に読もうとする。	・発問への応答
子 期	動詞の活用				キーワードやキーセンテンスを見つ	
. , .					け出すことができる。	
中					Ⅲ口語文法と文語文法の共通点や相違	
間					点を認識し、文語文法の知識を習得す	
					る。	
	ベネッセ総合学力テスト	0	0	0	I漢字や単語の知識を吸収しようとす	・学習状況
	7月過去問				る。	• 確認テスト
					Ⅱ文章を的確に読もうとする。	・レポート
	現代文読解の基本	0		0	各種文章の特性を知り、客観的に分析	・発問への応答
1	(論理的文章・				して読むことができる。	・定期考査
学	文学的文章)				Ⅲ自身の誤答の原因を明らかにしよう	
期					とする。	
期	文語文法				I 文語文法の知識を習得する。	
末	形容詞・形容動詞の活用				Ⅱ注と関連させて本文を読むことがで	
					きる。	
					Ⅲ既習の事項を活用して、文章を読み、	
					問題を解くことができる。	
	到達度テスト【秋】解説	0	0	0	I 既知の事実と新たな知識を連動して	・学習状況
					考えることができる。	・レポート
	現代文読解の基本				Ⅱ各文章・資料の特性を知り、読み比べ	発問への応答
	実用的文章	0	0	0	ができる。	・定期考査
2					Ⅲ自身の誤答の原因を明らかにしよう	, _,,,, ,
学	日本の伝統的な文化・習				とする。	
期	慣について学ぶ				I 文語文法の知識を習得する。	
中					Ⅱ伝統的な文化・習慣と現代の文化・習	
間	古典助動詞・漢文句形				慣との相違点と相似点を見つけるこ	
	H > () () () () () () () () () (とができる。	
					Ⅲ既習の事項を活用して、文章を読み、	
					問題を解くことができる。	
	 ベネッセ総合学力テスト	0	\bigcirc	\circ	- 「漢字や単語の知識を学び、運用しよう	・学習状況
2	11 月過去問解説				とする。	・確認テスト
学	TT /1 /四 ← 1H1/1上Mp				Ⅲ文章を的確に読もうとする。	・レポート
ガ期					文章全体構成を意識して読むことが	・発問への応答
期					できる。	・定期考査
末	古典助動詞・漢文句形	0	\bigcirc	0	Ⅲ自身の誤答の原因を明らかにしよう	<u>化列布</u> 县
*	口兴奶奶时,沃人们的					
					とする。	

					I 文語文法の知識を習得する。	
					Ⅱ伝統的な文化・習慣と現代の文化・習	
					慣の相違点と相似点を、他者と共有す	
					ることができる。	
					Ⅲ既習の事項を活用して、文章を読み、	
					問題を解くことができる。	
	ベネッセ総合学力テスト	0	0	0	I漢字や単語の知識を深め、運用しよう	• 学習状況
	1月過去問解説				とする。	・確認テスト
3					Ⅱ文章を的確に読もうとする。	・レポート
学					各文章について客観的に分析し、他者	・発問への応答
期					と共有することができる。	・定期考査
	古典問題演習	0	0	\circ	Ⅲ既習の事項を活用して、文章を読み、	
					問題を解くことができる。	

教科	地歴科	科目	地理総合	単位数	2	選択等	必修				
教科書	帝国書院『新地理総合』										
ロロギゲナナケゲ	帝国書院『新地理総合ノート』										
副教材等	帝国書院『新詳髙	等地図』									

1 学習の到達目標

地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って各地域の特色を考察・理解させることにより、地理的な見方や考え方の基礎を養う。また、地域の諸事情を空間的な広がりの中でとらえ、諸条件や人間の活動と関連づけて考察させる。地域の特色の特殊性と一般的な共通性、及びそれらが諸条件によって変容することを理解する。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

私たちが暮らす世界は、情報化・高齢化など日々変化していっています。その変化にうまく対応するために新しい環境を受け入れる意識が必要になります。そのため、世界の地域の特色をしっかりとらえ、さまざまな事柄を関連づけて学習できるようにしていきましょう。地理は日常生活に密接に関わっている教科なので、受験勉強だけでなく日常生活とつなげて勉強していきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
	現代の生活に関する諸事象に	地理に関する事象の意味や意	世界や日本の地理にかかわる
観	ついて、自然や人間の相互関係	義、特色や相互の関連を、位置	諸事情について、よりよい社会
観点	の視野から捉え、現代的な課題	や分布、場所、人間と自然環境	の実現を視野にそこで見られ
	について理解する。	との相互依存関係に着目して、	る課題を主体的に追及、解決し
(T)	諸資料から地理に関する様々	多面的に考察し地理的な課題	ようとしている。
趣	な情報を適切かつ効果的に調	解決に向けたなどを説明した	
計	べまとめる技能を身に付け	り、論議したりしている	
	る。		
評	定期考査	定期テスト	定期テスト
価	小テスト	レポート	レポート
方	宿題テスト	授業中の発表内容	授業中の取り組み
法			

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価		
期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
771	名		I	Π	Ш		
		地球上の位置と時差	0		0	地球上の位置の違いによって私達の生活にどのような影響があるか理解する。 時差と生活がどのように結びついているか理解する。	
1 学期中間	地図でとらえる現	地図の役割と種類	0		0	さまざまな地図や地理情報システムが 存在していることを理解する。	定期テスト 小テスト レポート
		現代世界の国家と領域	0	0	0	国家の領域や国境がどのように定まっているか理解する。 日本の位置や領土問題について自分の 考えを表現している。	グループ協 議 授業中の発 表
	代	グローバル化する世界	0		0	グローバル化に伴い貿易・交通・通信・ 観光など世界の国々を結びつける要素 やその変化などを理解する。	
1 学 期 期 末	国際理解と国際協力	世界の地形と人々の生活	0		0	世界の人々がさまざまな地形とどのように関わり合っているのかを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協 議 授業中の発 表

		世界の気候と人々の生活	0	0	0	世界の人々の生活が気候要因とどのように関わり合っているのかを理解する。 それぞれの気候帯の特徴や生活様式に ついて調べ、表現する。		
2 学期	国際理解	世界の言語・宗教と人々の生活	0	0	0	言語や宗教が人々の生活に与えている 影響について理解する。 宗教の特徴による生活様式の変化につ いて調べ、その違いをまとめて発表す る。	定期テスト 小テスト レポート グループ協	
中 間	と国際協力	歴史的背景と人々の生 活	0		0	生活文化というものは、その地域で起き た出来事の積み重ねによって変化して いることを理解する。 旧宗主国との関係について理解する。	議 授業中の発 表	
2 学	国際理	世界の産業と人々の生活	0	産業の発展が人々の生活にどのような 影響を与えたのかを理解する。		定期テスト 小テスト レポート		
期期末	解と国際協力	地球的課題と国際協力	0	0	0	現代の地域的な課題を理解し、その背景 に何があるのか、課題の解決に向けて何 ができるのか考え、表現する	グループ協議 授業中の発表	
3 学 期	持続可能な地域づくりと私たち	自然環境と防災	0	0	0	世界中で発生する自然災害は、その地域 の地形や気候といった自然環境と密接 に結びついていることを理解する。 日本で起きる災害の発生に備え各自で 行える取り組みについて考え発表する。	定期テスト ルポート が 議 授 素	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	地歴科	科目	地理総合	単位数	2	選択等	必修				
教科書	帝国書院『新地理総合』										
可山地小十十六六	帝国書院『新地理	総合ノー	F.]								
副教材等	帝国書院『新詳髙	等地図』									

1 学習の到達目標

地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って各地域の特色を考察・理解させることにより、地理的な見方や考え方の基礎を養う。また、地域の諸事情を空間的な広がりの中でとらえ、諸条件や人間の活動と関連づけて考察させる。地域の特色の特殊性と一般的な共通性、及びそれらが諸条件によって変容することを理解する。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

私たちが暮らす世界は、情報化・高齢化など日々変化していっています。その変化にうまく対応するために新しい環境を受け入れる意識が必要になります。そのため、世界の地域の特色をしっかりとらえ、さまざまな事柄を関連づけて学習できるようにしていきましょう。地理は日常生活に密接に関わっている教科なので、受験勉強だけでなく日常生活とつなげて勉強していきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 能度	
点観点	現代の生活に関する諸事象に ついて、自然や人間の相互関係 の視野から捉え、現代的な課題	地理に関する事象の意味や意 義、特色や相互の関連を、位置 や分布、場所、人間と自然環境	態度 世界や日本の地理にかかわる 諸事情について、よりよい社会 の実現を視野にそこで見られ	
の趣旨	について理解する。 諸資料から地理に関する様々 な情報を適切かつ効果的に調 べまとめる技能を身に付け	との相互依存関係に着目して、 多面的に考察し地理的な課題 解決に向けたなどを説明した り、論議したりしている	る課題を主体的に追及、解決し ようとしている。	
 評	る。 定期考査	定期テスト	定期テスト	
価	小テスト	レポート	レポート	
方	宿題テスト	授業中の発表内容	授業中の取り組み	
法				

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価			
子期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法	
刼	名		Ι	П	Ш			
		地球上の位置と時差	0		0	地球上の位置の違いによって私達の生活にどのような影響があるか理解する。 時差と生活がどのように結びついているか理解する。		
1 学期中間	地図でとらえる現	地図の役割と種類	0		0	さまざまな地図や地理情報システムが 存在していることを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協 議 乗中の発 表	
		現代世界の国家と領域	0	0	0	国家の領域や国境がどのように定まっているか理解する。 日本の位置や領土問題について自分の考えを表現している。		
	代	グローバル化する世界	0		0	グローバル化に伴い貿易・交通・通信・ 観光など世界の国々を結びつける要素 やその変化などを理解する。		
1 学 期 期 末	国際理解と国際協力	世界の地形と人々の生活	0		0	世界の人々がさまざまな地形とどのよ うに関わり合っているのかを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協 議 中の発 表	

		世界の気候と人々の生活	0	0	0	世界の人々の生活が気候要因とどのように関わり合っているのかを理解する。 それぞれの気候帯の特徴や生活様式に ついて調べ、表現する。	
2 学期中間	国際理解	世界の言語・宗教と人々の生活	0	0	0	言語や宗教が人々の生活に与えている 影響について理解する。 宗教の特徴による生活様式の変化につ いて調べ、その違いをまとめて発表す る。	定期テスト 小テスト レポート グループ協 議 授業中の発 表
	と国際協力	歴史的背景と人々の生活	0		0	生活文化というものは、その地域で起き た出来事の積み重ねによって変化して いることを理解する。 旧宗主国との関係について理解する。	
2 学 期 期 末	国際理解と国際協力	世界の産業と人々の生活	0		0	産業の発展が人々の生活にどのような 影響を与えたのかを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協 議 授業中の発 表
		地球的課題と国際協力	0	0	0	現代の地域的な課題を理解し、その背景 に何があるのか、課題の解決に向けて何 ができるのか考え、表現する	
3 学 期	持続可能な地域づくりと私たち	自然環境と防災	0	0	0	世界中で発生する自然災害は、その地域 の地形や気候といった自然環境と密接 に結びついていることを理解する。 日本で起きる災害の発生に備え各自で 行える取り組みについて考え発表する。	定期テスト ルポート が 議 授 素

2024年度 相愛高等学校 1年 音楽科 シラバス

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	選択等				
教科書	高等学校 新編数学 I (数研出版)									
副教材等	教科書傍用 3TRL	AL 数学 I	+A (数研出版)							

1 学習の到達目標

数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析においては、基本的な概念や原理・法則を体系的にに理解するとともに、事象を数学化し、数学的な解釈や表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

中学校での既習事項を確認しつつ、基礎から応用まで実力をつけましょう。

数学的な物の考え方や、身近な事柄を数学的事象と捉えて、論理的に考察する力を養いましょう。

数学を学ぶ上で、基礎を固めることが重要です。分からないまま先に進んでも、基礎が出来ていないと 思考力や正確な判断力が養えません。実力に合わせて、確実に理解を深めていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
	数と式, 図形と計量, 2 次関数及	命題の条件や結論に着目し,数や	数学のよさを認識し数学を活用
	びデータの分析についての基本	式を多面的にみたり目的に応じ	しようとする態度, 粘り強く考え
	的な概念や原理・法則を体系的に	て適切に変形したりする力,図形	数学的論拠に基づいて判断しよ
	理解するとともに,事象を数学化	の構成要素間の関係に着目し,図	うとする態度, 問題解決の過程を
	したり,数学的に解釈したり,数	形の性質や計量について論理的	振り返って考察を深めたり、評
	学的に表現・処理したりする技能	に考察し表現する力, 関数関係に	価・改善したりしようとする態度
観	を身に付けるようにする。	着目し,事象を的確に表現してそ	や創造性の基礎を養う。
点		の特徴を表, 式, グラフを相互に	
0		関連付けて考察する力, 社会の事	
趣		象などから設定した問題につい	
旨		て,データの散らばりや変量間の	
		関係などに着目し, 適切な手法を	
		選択して分析を行い,問題を解決	
		したり,解決の過程や結果を批判	
		的に考察し判断したりする力を	
		養う。	

評			
価	定期考査	定期考查	課題レポート
	小テスト	小テスト	授業中の発表や態度
方	課題考査	課題考査	
法			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学	単元	学習内容		に評 る観		単元(題材)の評価基準	評価方法			
期	名	上目1.1/L				十九(医初) 7月 岡岳平	印一四クテム			
1 学期中間	式の計算・実数	・多項式の四則演算・因数分解・実数・根号を含む式の計算	0	0	0	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	課題考査 定期考査 小テスト レポート			
1 学 期 期 末	1次不等式・2次関数とグラフ	 ・不等式の性質 ・1次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式 ・関数とグラフ ・2次関数とグラフ 	0	0	0	不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 2 次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2 次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	定期考査 小テスト 発表の様子			

2 学 期 中 間	2次関数の値の変化・ 2次方程式と 2次不等式	・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定 ・2次方程式 ・2次関数のグラフと ×軸の位置関係 ・2次不等式	0	0		2 次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2 次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 2 次方程式や2 次不等式の解と2 次関数のグラフとの関係について理解し、2 次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	課題 考 者 査 ト ト
2 学 期 期 末	三角比	・三角比・三角比の相互関係・三角比の拡張・正弦定理・余弦定理	0	0	0	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	定期考査 小テスト 発表の様子
3 学 期	三角形への応用・	・正弦定理と余弦定理の応用・三角形の面積・空間図形への応用・データの整理・データの代表値・データの散らばりと	0	0	0	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法な	課題考査 定期考査 レポート

デ	四分位数		どを選択して分析を行い, データの傾向を把握	
<u></u>	・分散と標準偏差		して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の	
タ	・2 つの変量の間の関		起こりやすさに着目し、主張の妥当性につい	
の	係		て,実験などを通して判断したり,批判的に考	
分			察したりする力などを養う。	
析				

2024年度 相愛高等学校1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	選択等				
教科書	高等学校 新編数学 I (数研出版)									
副教材等	教科書傍用 3TRL	AL 数学 I	+A (数研出版)							

1 学習の到達目標

数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析においては、基本的な概念や原理・法則を体系的にに理解するとともに、事象を数学化し、数学的な解釈や表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

中学校での既習事項を確認しつつ、基礎から応用まで実力をつけましょう。

数学的な物の考え方や、身近な事柄を数学的事象と捉えて、論理的に考察する力を養いましょう。

数学を学ぶ上で、基礎を固めることが重要です。分からないまま先に進んでも、基礎が出来ていないと 思考力や正確な判断力が養えません。実力に合わせて、確実に理解を深めていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
	数と式, 図形と計量, 2次関数及	命題の条件や結論に着目し、数や	数学のよさを認識し数学を活用
	びデータの分析についての基本	式を多面的にみたり目的に応じ	しようとする態度, 粘り強く考え
	的な概念や原理・法則を体系的に	て適切に変形したりする力,図形	数学的論拠に基づいて判断しよ
	理解するとともに,事象を数学化	の構成要素間の関係に着目し,図	うとする態度, 問題解決の過程を
	したり, 数学的に解釈したり, 数	形の性質や計量について論理的	振り返って考察を深めたり、評
	学的に表現・処理したりする技能	に考察し表現する力, 関数関係に	価・改善したりしようとする態度
観	を身に付けるようにする。	着目し,事象を的確に表現してそ	や創造性の基礎を養う。
点		の特徴を表, 式, グラフを相互に	
0		関連付けて考察する力, 社会の事	
趣		象などから設定した問題につい	
目		て, データの散らばりや変量間の	
		関係などに着目し, 適切な手法を	
		選択して分析を行い,問題を解決	
		したり,解決の過程や結果を批判	
		的に考察し判断したりする力を	
		養う。	

評	少	少	●用 目音 1 、ユル ・
価	定期考査	定期考查	課題レポート
方	小テスト	小テスト	授業中の発表や態度
	課題考査	課題考査	
法			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について〇をつけている。

学	単		主	に評	価		
一期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
刔	名		Ι	П	Ш		
1 学期中間	式の計算・実数	・多項式の四則演算・因数分解・実数・根号を含む式の計算	0	0	0	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	課題考査 定期考査 小テスト レポート
1 学 期 期 末	1次不等式・2次関数と	・不等式の性質・1次不等式・絶対値を含む方程式・不等式・関数とグラフ・2次関数とグラフ	0	0	0	不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 2 次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2 次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	定期考査 小テスト 発表の様子

2 学 期 中 間	グラフ2次関数の値の変化・2次方程式と2次	・2 次関数の最大・最小 ・2 次関数の決定 ・2 次方程式 ・2 次関数のグラフと ×軸の位置関係 ・2 次不等式	0	0	0	2 次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2 次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 2 次方程式や2 次不等式の解と2 次関数のグラフとの関係について理解し、2 次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	課題考査・カート
2 学期期末	不等式三角比	・三角比・三角比の相互関係・三角比の拡張・正弦定理・余弦定理	0	0	0	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力な	定期考査 小テスト 発表の様子
3 学 期	三角形への	・正弦定理と余弦定理の応用・三角形の面積・空間図形への応用	0	0	0	どを培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表 現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の 事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定 理などを活用して問題を解決したりする力な どを培う。	課題考査 定期考査 レポート

Гi	・データの整理		データの散らばり具合や傾向を数値化する方	
月	・データの代表値		法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデ	
	・データの散らばりと		ータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法な	
5	ご 四分位数		どを選択して分析を行い,データの傾向を把握	
_	・分散と標準偏差		して事象の特徴を表現する力,不確実な事象の	
3	・2 つの変量の間の関		起こりやすさに着目し、主張の妥当性につい	
0	係		て、実験などを通して判断したり、批判的に考	
5	े		察したりする力などを養う。	
札	Ť			

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	数学	科目	数学A	単位数	2	選択等	必修					
教科書	高等学校 新編数学 A (数研出版)											
可料壮华	教科書傍用 3TRL	AL 数学 I	+A (数研出版)									
副教材等	スタディサプリ											

1 学習の到達目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

授業の内容の理解を深めましょう。疑問点や分からないことがあれば、そのままにせず、質問しましょう。教科書をしっかり読むことを通じて、予習・復習することを習慣として身に付けてください。宿題に取り組む際には、理解できているかを意識しながら丁寧に解きましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
	図形の性質、場合の数と確率に	図形の構成要素間の関係など	数学のよさを認識し数学を活
	ついての基本的な概念や原理・	に着目し、図形の性質を見いだ	用しようとする態度、粘り強く
観	法則を体系的に理解するとと	し、論理的に考察する力、不確	考え数学的論拠に基づいて判
点	もに、数学と人間の活動の関係	実な事象に着目し、確率の性質	断しようとする態度、問題解決
0	について認識を深め、事象を数	などに基づいて事象の起こり	の過程を振り返って考察を深
趣	学化したり、数学的に解釈した	やすさを判断する力、数学と人	めたり、評価・改善したりしよ
山田	り、数学的に表現・処理したり	間の活動との関わりに着目し、	うとする態度や創造性の基礎
	する技能を身に付けるように	事象に数学の構造を見いだし、	を養う。
	する。	数理的に考察する力を養う。	
評価	定期考査	定期考査	課題レポート
力	小テスト	小テスト	授業中の発表や態度
法	課題考査	課題考査	

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学	単		主	に評	価		
子期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
刔	名		Ι	П	Ш		
	第	①場合の数	0	0	0	I	小テスト
	1	・集合の要素の個数				○和集合や補集合について理解し、その	定期考査
	章	・場合の数				要素の個数を求めることができる。	レポート課
						○和の法則、積の法則の利用場面を理解	題
	場					し,事象に応じて使い分けて場合の数を	提出物
	合					求めることができる。	
	\mathcal{O}					п	
1	数					○ベン図を利用して集合を図示するこ	
学	と					とで、集合の要素の個数を考察すること	
期	確					ができる。	
中	率					○場合の数を数える適切な方針を考察	
間						することができる。	
						ш	
						○集合を考えることで、日常的な事柄な	
						どを、集合の要素の個数として数学的に	
						数えようとする。	
						○道順の数え方に興味を示し、樹形図、	
						和の法則や対称性などによる場合の数	
						の数え方に関心をもつ。	
	第	①場合の数	\circ	0	0	I	小テスト
	1	・順列				○順列の総数、階乗を記号で表し、それ	定期考査
	章	・組み合わせ				を活用できる。	レポート課
						○順列、円順列、重複順列の公式を理解	題
1	場					し、利用することができる。	提出物
学	合					○組合せの総数を記号で表し、それを活	
期	の					用できる。また、組合せの公式を理解し、	
期	数					利用することができる。	
末	と					п	
	確					○既知の順列や積の法則をもとにして、	
	率					円順列、重複順列を考察することができ	
						る。	
						○既知である順列の総数をもとにして、	

	第	②確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質	0	0	0	組合せの総数を考察することができる。 Ⅲ ○既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。 ○順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 ○組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数が求められることに興味・関心をもつ。 Ⅰ ○確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 ○確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる Ⅱ ○試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ○集合の性質を用いて、確率の性質を免めに考察することができる。 ○集合の性質を用いて、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 Ⅰ	小テスト
2 学 期 中 間	1 章 場合の数と確率	・独立な試行と確率・条件付き確率・期待値				○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ○複雑な反復試行の確率を、公式や加法 定理などを用いて求めることができる。 □ ○独立な試行の確率を、具体的な例から 直観的に考えることができる。 ○既習の確率の知識を利用して、反復試行の確率について考察することができる。 □ ○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ○具体的事象について、反復試行の確率	定期考査 レポート課 題 提出物

						を、興味をもって調べようとする。	
						○条件付き確率や確率の乗法定理の考	
						えに興味・関心をもち、積極的に活用し	
	55	OTTOWN.				ようとする。	1571
	第	①平面図形	0		0		小テスト
	2	三角形の辺の比				○線分の内分・外分、平行線と比などの	定期考査
	章	・三角形の外心・内心・				基本事項を理解している。	レポート課
		重心				○三角形の外心、内心、重心の定義、性	題
	図	チェバの定理・メネラ				質を理解している。	提出物
	形	ウスの定理				○チェバの定理、メネラウスの定理を、	
	0)	・円に内接する四角形				三角形に現れる線分比を求める問題に	
	性	・円と直線				活用できる。	
	質					○円の基本的な性質を理解している。	
						○円の接線の性質を利用して、線分の長	
						さを求めることができる。	
						II	
						○図形の性質を証明するのに、既習事項	
						を用いて論理的に考察することができ	
2						る。また、適切な補助線を引いて考察す	
学						ることができる。	
力期						○チェバの定理、メネラウスの定理につ	
期						いて、論理的に考察し、証明することが	
末						できる。	
^						○円に内接する四角形の性質について、	
						論理的に考察することができる。	
						○円と直線を動的にとらえて、それらの	
						位置関係を考察することができる。	
						Ш	
						○線分を内分・外分する点や、三角形の	
						角の二等分線と比について調べようと	
						する態度がある。	
						○三角形の外心、内心、重心に関する性	
						質に興味を示し、積極的に考察しようと	
						する。	
						○チェバの定理、メネラウスの定理に興	
						味を示し、積極的に考察しようとする。	
						○相似を利用した方べきの定理の導き	
						方に興味・関心をもつ。	
学	第	①平面図形	0	0	0	I	小テスト
			1	1	l		

				1	1		
年	2	・2 つの円				$\bigcirc 2$ つの円が内接しているとき成り立つ	定期考査
末	章	・作図				性質を利用して角度を求めることがで	レポート課
						きる。	題
	図					○線分の内分点・外分点の作図や、b/a	提出物
	形					や ab の長さをもつ線分の作図ができ	
	0)					る。	
	性					П	
	質					$\bigcirc 2$ つの円を動的にとらえて、それらの	
						位置関係を考察することができる。	
						○平行線と線分の比の性質を利用して、	
						内分点・外分点の作図の方法や、b/a や	
						ab の長さをもつ線分の作図の方法を考	
						察することができる。	
						Ш	
						○2 つの円の位置関係と、中心間の距離	
						と半径の関係を積極的に考察しようと	
						する。	
						○数学で扱う作図と、日常において図形	
						をかくことでは、何が違うか考えてみよ	
						うとする。	
		②空間図形	0	0	0	I	
		・直線と平面				○空間における2直線の位置関係やなす	
		・空間図形と多面体				角を理解している。	
						○正多面体の特徴を理解し、それに基づ	
						いて面、頂点、辺の数を求めることがで	
						きる。	
						○正多面体どうしの関係を利用して、正	
						多面体の体積を求めることができる。	
						П	
						○空間における直線や平面が平行また	
						は垂直となるかどうかを、与えられた条	
						件から考察することができる。	
						○正多面体の満たす条件を理解し、正多	
						面体から切り取った立体がまた正多面	
						体であることを示すことができる。	
						ш	
						○空間における図形の位置関係につい	
						て、積極的に考えてみようとする。	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	数学	科目	数学 I	単位数	4	選択等	必修						
教科書	数研出版 高等学校数学 I 高等学校数学 II (数研出版)												
副教材等			対学Ⅱ+B(数研出版) 数学Ⅰ+A、数学Ⅱ+B(数研出版)								

1 学習の到達目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析、いろいろな式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

授業に集中して、授業中にわかる、できるようになりましょう。 自分で考えてもわからないところ、答えが合わないところはすぐに質問しましょう。 宿題は必ずしましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

 観点 II: 知識・技能(技術) III: 思考・判断・表現 施度 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に差し、図形の性質や計量について適速のに変形したり、数学のよさを認識し数学を活め、図ボータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を対してその特徴を表、を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したり、数学的に表現・処理したり、数学的に表現・処理したり、数学的に表現・処理したり、数学的に表現・処理したり、数学的に表現・処理したり、数学的に表現・処理したり、数学的に表現・処理したり、数学のようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようにする。 タの散らばりや変量間の関係を養う。 などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批問を確認を表しまります。 		・自叶岬(叶岬坐牛と叶岬カ仏)		
や式を多面的にみたり目的に 応じて適切に変形したりする 力、図形の構成要素間の関係に 数と式、図形と計量、2 次関数 及びデータの分析についての 基本的な概念や原理・法則を体 系的に理解するとともに、事象 を数学化したり、数学的に解釈 したり、数学的に表現・処理し たりする技能を身に付けるよ うにする。 や式を多面的にみたり目的に 応じて適切に変形したりする 着目し、図形の性質や計量につ かて論理的に考察し表現する 用しようとする態度、粘り強く 考え数学的論拠に基づいて判 断しようとする態度、問題解決 の過程を振り返って考察を深 めたり、評価・改善したりしよ ら設定した問題について、デー タの散らばりや変量間の関係 などに着目し、適切な手法を選 択して分析を行い、問題を解決 したり、解決の過程や結果を批	.,_	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	
	観点の趣	及びデータの分析についての 基本的な概念や原理・法則を体 系的に理解するとともに、事象 を数学化したり、数学的に解釈 したり、数学的に表現・処理し たりする技能を身に付けるよ	や式を多面的にみたり目的に 応じて適切に変形したりする 力、図形の構成要素間の関係に 着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する 力、関数関係に着目し、事象を 的確に表現してその特徴を表、 式、グラフを相互に関連付けて 考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係 などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決	数学のよさを認識し数学を活 用しようとする態度、粘り強く 考え数学的論拠に基づいて判 断しようとする態度、問題解決 の過程を振り返って考察を深 めたり、評価・改善したりしよ うとする態度や創造性の基礎

		力を養う。	
評価方法	授業中のテスト 定期考査	授業中のテスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

F							
学	単		主	に評	価		
期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
州	名		I	П	Ш		
1 学 期 中 間	数と式	式の計算実数	0			I○単項式や多項式、同類でいる。 ・例1~3、練習1~4 ○多項式についてきまとの順にをまとの順にできる。 ・例項式に文字に着とができる。 ・例4~5、練習5~6 ○多項式の加法、習7~8 ○指数ができる。 ・例4~5、練習10、練習9~11 ○展開の形できる。 ・例8~10、練習9~11 ○展開1~12、練習12~13 ○式の形の特徴用できる。 ・例の形のが適用の公式を見している。 ・例の形のが適用できる。 ・例知分解の公さきる。 ・例類分解を行うのに、表別の形のおき数ののにきる。 ・例類分解を行うができる。 ・例類分解を行うができる。 ・例類分解を表すことができる。 ・p.26 ○循環小数を表すことができる。	授ス定提レ題 対・大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、いきないでは、いきないでは、いきないでは、いきないでは、はいいでは、いきないでは、はいは、はいいでは、いきないでは、はいは、はいは、はいはいいでは、はいはないでは、はいはないでは、はいはないでは、はいはないでは、はいはないでは、はいはないではないでは、はいはないではないでは、はいはないでは、はいはないでは、はいはないでは、はいはないではないでは、はいはないでは、はいはないではないでは、はいはないではないでは、はいはないではないでは、はいはないではないでは、はいはないではないではないではないではないではないではないではないではないではな

練習 25 ○循環小数を分数で表すことができる。 ·例 16、練習 26 ○有理数、無理数、実数の定義を理解し、 それぞれの範囲での四則計算の可能 性について理解している。 ・小項目A、B、C ○絶対値の意味と記号表示を理解して いる。 · 例 18~19、練習 28~29 ○平方根の意味・性質を理解している。 例 20、練習 30 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計 算ができる。また、分母の有理化がで きる。 ·例 21~23、例題 6、練習 31~35 Ⅱ○式の展開は分配法則を用いると必 ずできることを理解している。 ・例 9~10、練習 10~11 ○式を1つの文字におき換えることに よって、式の計算を簡略化することが できる。 · 例題 1~2、練習 14~15 ○複雑な式についても、項を組み合わせ る、降べきの順に整理するなどして見 通しをよくすることで、因数分解をす ることができる。 ·応用例題 1~2、練習 22~23 ○式の形の特徴に着目して変形し、因数 分解の公式が適用できるようにする ことができる。 · 応用例題 3、練習 24 ○四則計算を可能にするために数が拡 張されてきたことを理解している。 · 小項目 B、C ○実数を数直線上の点の座標として捉 えられる。また、実数の大小関係と数 直線を関係づけて考察することがで きる。 ·小項目 D ○数直線上の2点間の距離を絶対値を用 いて考えることができる。 ·p.30 研究 ○根号を含む式の計算について、一般化 して考えられる。 • p.31, 32 ○対称式の値を求めるのに、分母の有理 化や、式の変形を利用することができ る。 ·応用例題 4、練習 36~37

Ⅲ○単項式、多項式とその整理の仕方に

						関心をもち、考察しようとする。	
						・小項目A、B	
						○多項式の乗法には、数の場合と同様に	
						分配法則が使えることに関心をもち、	
						考察しようとする。	
						小項目B	
						○式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。	
						・例題 5、応用例題 1~3、	
						練習 21~24	
						○展開と因数分解の関係に着目し、因数	
						分解の検算に展開を利用しようとす	
						る態度がある。	
						・小項目 A、B、C	
						○今まで学習してきた数の体系につい て整理し、表際したをした。	
						て整理し、考察しようとする。 ・小項目 A、B	
						・小頃日A、B ○根号を含む式の計算公式を証明しよ	
						うとする。	
						• p.32	
						○対称式の値の求め方に興味を示し、自	
						ら考察しようとする。	
						・応用例題 4、練習 36~37	
						Ⅰ○不等号の意味を理解し、数量の大小	
						関係を式で表すことができる。 ・例 24、練習 38	
						○不等式の性質を理解している。	
						・例 25、練習 39~41	
						○不等式における解の意味を理解し、1	
						次不等式を解くことができる。	
	数					•例 26~28、例題 7、練習 42~43	
	لح					○連立不等式の意味を理解し、連立1次 不等式を解くことができる。	
1	式					・例 29、例題 8、練習 44	授業内のテ
学	7	1 次不等式				○絶対値の意味から、絶対値を含む方程	スト
'	隹	1				式、不等式を解くことができる。	定期考査
期	集^	供入】入 耳	\circ	0	\circ	・例 30、例題 9、練習 50~51	提出物
期	合	集合と命題				○集合とその表し方を理解している。ま	レポート課
末	と					た、2 つの集合の関係を、記号を用い	題
	命					て表すことができる。	<i>√</i> ⊆
	題					・例 2~4、練習 2~3 ○空集合、共通部分、和集合、補集合に	
						ついて理解している。	
						·例 5~7、練習 4~7	
						○ド・モルガンの法則を理解している。	
						• p.57	
						○命題の真偽、反例の意味を理解し、集	
						合の包含関係や反例を調べることで、 命題の真偽を決定することができる。	
						ころくととととってったってる。	

・例 8、練習 9~11 ○必要条件、十分条件、必要十分条件、 同値の定義を理解している。 ・例 9~10、練習 12~14 ○条件の否定、ド・モルガンの法則を理 解しており、複雑な条件の否定が求め られる。 ・例 11~12、練習 15~16 ○命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理 解しており、それらの真偽を調べるこ とができる。 •例 13、練習 17 ○対偶による証明法や背理法のしくみ を理解している。 · 例題 1~2、練習 18~19、 p.68 研究 Ⅱ○条件を満たすものを集合の要素と してとらえることができる。 ·例 1、練習 1 ○ベン図などを用いて、集合を視覚的に 表現して考察することができる。 • p.54 \sim 57 ○命題の真偽を、集合の包含関係に結び 付けてとらえることによって考察す ることができる。 · 小項目 C ○命題が偽であることを示すには、反例 を1つあげればよいことが理解できて いる。 ・例8、練習11 ○命題の条件や結論に着目し、命題に応 じて対偶の利用や背理法の利用を適 切に判断することで、命題を証明する ことができる。 · 例題 1~2、練習 18~19、 p.68 研究 Ⅲ○集合について、それぞれの特徴や関 係に合った表現方法を考察しようと する。 ·小項目 A、B、C、D、E ○3 つの集合についても、和集合、共通 部分について考察しようとする。 ・p.57 研究 ○命題と条件の違いや、命題と集合との 関係について、積極的に理解しようと する。 ・小項目 A、B、C ○条件を満たすものの集合の包含関係 が、命題の真偽に関連していることに 着目し、命題について調べようとする 態度がある。 · 小項目 C

_			1			
					○命題とその対偶の真偽の関係につい	
					て考察しようとする。	
					・小項目 B	
					○直接証明法では難しい命題も、対偶を	
					用いた証明法や背理法を用いると鮮や	
					かに証明できることに興味・関心をも	
					ち、実際に証明しようとする。	
					・小項目 B、C	
2 学 期 中 間	2 次 関 数	2 次関数	0		○y = f(x) や f(a) の表記を理解しており、用いることができる。・例3、練習1 ○定義域に制限がある1次関数のグラフがかけて、値域が求められる。・例題1、練習4~5 ○y = ax²、y = ax² + q、 y = a(x - p)²、y = a(x - p)² + q の表記について、グラフの平行移動とともに理解している。・p.78~82 ○ax² + bx + c をa(x - p)² + q の形に変形できる。・例7、練習10 ○平方完成を利用して、2次関数 y = ax² + bx + c のグラフをからことができる。・例7を利用して、2次関数を利用して、2次関数を割割10 ○対方完成を利用して、2次関数を割割11 ○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を求めることができる。・p.86、87研究 ○2次関数が最大値をもつことを理解している。・p.89、練習13 ○2次関数をy = a(x - p)² + q の形に式変形できる。・p.89、練習13 ○2次関数をy = a(x - p)² + q の形に式変形できる。・p.89、練習13 ○2次関数をy = a(x - p)² + q の形に式変形できる。・p.89、練習13 ○2次関数を対して、最大値、最小値を求めることができる。・例題3、練習14 ○2次関数の定義域に制限がある場合に、より関数の決定に表現し、2次関数の決定に表現し、2次関数を決定することができる。・例の表記できる。・例を表述できる。・例を表述できる。・例を表述できる。・例を表述できる。・例を表述できる。・例を表述を理解とている。・例を表述を理解として、因数分解、解の公式を理解とている。・例9~11、練習23~25	授ス定提レ題業ト期出ポのの査ト

○2 次方程式において、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の個数 の関係を理解している。 ・例 12、練習 26 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の座 標が求められる。 ・例 13~14、練習 29 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個 数を求めることができる。 ・例 15、練習 30 ○2次不等式を解くことができる。 ・練習 33~38 ○2 次の連立不等式を解くことができ る。 · 例題 12、練習 41~42 ○2 次不等式を利用する応用問題を解く ことができる。 ·応用例題 9~10、練習 43~44 Ⅱ○2 つの数量の関係を関数式で表現で きる。 ·例 1、2、4、練習 2 ○2 次関数の特徴について、表、式、グ ラフを相互に関連付けて多面的に考 察することができる。 ・小項目B、C、D \bigcirc 2 次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフ ε 、 $y = ax^2$ のグラフをもとに考察す ることができる。 • p.83 \sim 84 ○放物線の平行移動を、頂点の移動に着 目して、考察することができる。 ・応用例題 1、練習 12 ○2 次関数の値の変化をグラフから考察 することができる。 • p.89 ○具体的な事象の最大・最小の問題を、 2 次関数を用いて表現し、処理するこ とができる。 ·応用例題 5、練習 19 ○定義域が変化するときや、グラフが動 くときの最大値や最小値について、考 察することができる。 · 応用例題 3~4、練習 17~18 ○2 次関数の決定において、条件を処理 するのに適した式の形を判断するこ とができる。 · 例題 5~6、練習 20、22 ○2 次方程式が実数解や重解をもつため の条件を式で示すことができる。 ・例題 7~8、練習 27~28 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個 数や位置関係を、 $D = b^2 - 4ac$ の符号 から考察することができる。

· 応用例題 6、練習 31 ○2 次関数の値の符号と2次不等式の解 を相互に関連させて考察することが できる。 ·例 17、19、20 ○2 次式が一定の符号をとるための条件 を、グラフと関連させて考察すること ができる。 · 応用例題 8、練習 40 Ⅲ○日常生活に見られる関数の具体例 を見つけて考察しようとする。 ·例 1、2、4 ○座標平面上の点と象限について、理解 を深めようとする。 • p.76 ○放物線のもつ性質に興味・関心を示 し、自ら調べようとする。 ·小項目A 〇一般の 2 次関数 $y = ax^2 + bx + c$ につ いて、頂点、軸の式を考察しようとす る。 · p.85 ○放物線の平行移動や対称移動の一般 公式を考察しようとする。 ·p.86、87 研究 ○日常生活における具体的な事象の考 察に、2次関数の最大・最小の考えを 活用しようとする。 · 応用例題 5、練習 19 ○2 次関数の決定条件に興味、関心をも ち、考察しようとする。 • p.96 \sim 98 ○2 次方程式がどんな場合でも解けるよ うに、解の公式を得て、それを積極的 に利用しようとする。 ・例 10、練習 24 ○1 次の係数が2b'である 2 次方程式の 解の公式を積極的に利用しようとす る。 ・例 11、練習 25 ○2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を 調べ、その意味を探ろうとする。 • p. $105 \sim 107$ ○1 次関数と 1 次不等式の関係から、2 次不等式の場合を考えようとする。 ·例 16~17 ○2 次不等式を解くときに、図を積極的 に利用する。 · p.113~114 ○身近な問題を2次不等式で解決しよう とする。 ・応用例題 9、練習 43

2 学 期 期 末		ジェータの分析				 【○直角三角形において、完弦、余弦、正接が求められる。・例1~2、練習1~2 ○三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を終することができる。・例3、練習4 ○直角三角形の辺の長さをある・角比で書籍に利用の量などの応用問題に利用側をなどの応用問題に利用側を変し、側面に変して、一個性ののではできる。・例は、本語のでは、本語の公式が利用られる。・例は、大きをできる。・例5、練習11 ○三角比のできる。・例5、練習11 ○前は(180°-θ)=sinθ などの公式が利用できる。・例5、練習12 ○0°≦度 180°において、三角比の値があるの値がらりを表対るの値がらりを表対のるにできる。・例を表対の公式が利用できる。・例を表対のるにとおいてできる。・例を表対のることがでの表別のできる。・例を表対のるにとおいてできる。・例のにはおいてできる。・例を表対のるによれできる。・例を表対のるのとがでの表別のできる。・例を表対のるによれが表別でで表別のできる。・例を表対にできる。・例を表対には、本語の辺のを表対には、表別によれる。・例の表別によれる。・例の表別によれる。・例の表別によれる。・例の表別によりの表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別には、表別による。・例の表別による。・例の表別には、表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別による。・例の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・の表別による。・を表別による。を表別による。	授ス定提レ題業ト期出ポの企業を対してある。
-----------	--	---------	--	--	--	--	-----------------------

○正弦定理、余弦定理を空間図形の計量 に応用できる。 · 応用例題 6、練習 34 ○三角比を利用して、正四面体などの体 積を求めることができる。 ·p.163 研究 ○度数分布表、ヒストグラムについて理 解している。 練習 1~2 ○平均値や中央値、最頻値の定義や意味 を理解し、それらを求めることができ る。 例 1~3、練習 3~5 ○範囲や四分位範囲の定義やその意味 を理解し、それらを求めることができ る。また、データの散らばりを比較す ることができる。 例 4~6、練習 6~7 ○箱ひげ図をかき、データの分布を比較 することができる。 · 例 7、練習 8 ○ヒストグラムと箱ひげ図の関係につ いて理解している。 · 小項目 D ○偏差の定義とその意味を理解してい · p.180 ○分散、標準偏差の定義とその意味を理 解し、それらに関する公式を用いて、 分散、標準偏差を求めることができ ・例 8~10、練習 10~11○相関係数の 定義とその意味を理解し、定義にした がって求めることができる。 ·p.187~188、例 11、練習 13~14 ○相関係数は散布図の特徴を数値化し たものであること、数値化して扱うこ とのよさを理解している。 · p.188 ○分割表の意味を理解し、数値の割合を 計算して新たな表を作成することが できる。 •例 12、練習 15 ○仮説検定の考え方を理解し、具体的な 事象に当てはめて考えることができ る。 ・例 12、練習 16 II〇三角比の表から $\sin\theta$ 、 $\cos\theta$ 、 $\tan\theta$ の 値を読み取ることができる。 練習3

- ○具体的な事象を三角比の問題として とらえることができる。 ・例題 1、応用例題 1、練習 5~6 ○三平方の定理をもとに三角比の相互 関係を考察することができる。 · p.134 ○既知である鋭角の三角比を、鈍角の場 合に拡張して考察することができる。 • p.137 \sim 139 ○直線と x 軸とのなす角を、三角比を 用いて考察することができる。 • 例 9、練習 17 ○三角形の辺と角、外接円の半径の間に 成り立つ関係式として、正弦定理を導く ことができる。 · p.147 ○正弦定理を測量に応用できる。 ・練習 21 ○三角形の辺と角の間に成り立つ関係 式として、余弦定理を導くことができ る。 ·p.150、練習 22 ○三角形の辺の長さや角の大きさと余 弦定理との関係を考察することができ る。 • p.155 ○正弦定理を a:b:c=sinA:sinB:sinC としてとら え、三角形の角の大きさについて考察す ることができる。 · 応用例題 2、練習 28 ○三角比と三角形の面積の関係を考察 することができる。 · p.156 ○三角形の面積を、決定条件である2辺 とその間の角または3辺から求めること ができる。
 - ○円に内接する四角形の面積を求める 方法を考察することができる。

•例 11、例題 9、練習 29~30

・応用例題3、練習31 ○空間図形への応用において、適当な三 角形に着目して考察することができる。 ・応用例題 5~6、練習 33~34 ○データの分布の仕方によっては、代表 値として平均値を用いることが必ずし も適切でないことを理解している。 · 小項目 C ○データの散らばりの度合いをどのよ うに数値化するかを考察することがで きる。 ·小項目 A、B ○データの中に他の値から極端にかけ 離れた外れ値が含まれる場合について、 外れ値の背景を探ることの利点を考察 することができる。 · 小項目 E ○外れ値を見出す意義を理解し、外れ値 の統計量への影響について考察するこ とができる。 · 小項目 E ○変量の変換によって、平均値や標準偏 差がどのように変化するかを考察する ことができる ・p.183~184 研究 ○散布図を作成し、2つの変量の間の相 関を考察することができる。 ·p.185~186、練習 12 ○データの相関について、散布図や相関 係数を利用してデータの相関を的確に とらえて説明することができる。 ・小項目 A~C ○複数のデータを、散らばりや変量間の 関係などに着目し、適切な手法を選択し て分析し、問題解決したり、解決の過程 や結果を批判的に考察し判断したりす ることができる。 ·小項目 A~E

○不確実な事象の起こりやすさに着目

し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批 判的に考察したりすることができる。

· 小項目 A

Ⅲ○日常の事象や社会の事象などに三 角比を活用しようとする。

- 例題 1、応用例題 1、練習 5~6
- ○三角比の相互関係を調べようとする。
 - · p.134
- ○これまでに学習している数や図形の 性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭 角から鈍角まで拡張して考察しようと する。
 - ·小項目A、B
- 〇三角比が与えられたときの θ を求める際に、図を積極的に利用しようとする。
 - ・例 7~8、練習 13~14
- ○正弦定理の図形的意味を考察する。また、三角形の外接円、円周角と中心角の 関係などから、正弦定理を導こうとする。
 - · p.147
- ○余弦定理の図形的意味を考察する。また、三平方の定理をもとに余弦定理を導 こうとする。
 - ·p.150、練習 22
- ○三角形の解法について興味を示し、 sin75°なども求めようとする。
 - · 例題 2、練習 27
- ○三角形の内接円と面積の関係を導こ うとする。
 - · p.159
- ○日常の事象や社会の事象などに正弦 定理や余弦定理を活用しようとする。
 - · 応用例題 5、練習 33
- ○データを整理して全体の傾向を考察 しようとする。
 - · 小項目 A、B
- ○身近な統計における代表値の意味に

ついて考察しようとする。 ・小項目 A~C	
・小項目 A、B	
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	
差がどのように変化するか、考察しよう	
とする。	
・p.183~184 研究	
○相関の強弱を数値化する方法を考察	
しようとする。	
・小項目 C	
○相関関係と因果関係の違いについて	
考察しようとする。	
・小項目 D	
○身近な事柄において、仮説検定の考え	
方を活用して判断しようとする態度が	
ある。	
・小項目 A	
Ⅰ○3次式の展開の公式を利用すること	
ができる。	
・例 1~2、練習 1、3	
○3 次式の因数分解の公式を利用するこ	
式とができる。	
・例 3、練習 4	
と ○式の形に着目して変形し、3 次式の因	
証	伝来中のこ
ができる。	授業内のテ
3 式と証明 ・例題 1、練習 5	スト
学 ^{**}	定期考査
期 複素数と方程式	提出物
	レポート課
・練習 6~7	題
方 ○二項定理を利用して、展開式やその項	
程しの係数を求めることができる。	
式 ・例 4、例題 2、練習 8~9	
○二項定理を3項の場合に適用すること	
で、展開式の係数を求めることができ	
・応用例題 1、練習 11	

○多項式の割り算の計算方法を理解し ている。 · 例題 3、練習 12 ○割り算で成り立つ等式を理解し、利用 することができる。 · 例題 4、練習 13 ○2 種類以上の文字を含む多項式の割り 算を行うことができる。 ・応用例題 2、練習 14 ○分数式の約分、四則計算ができる。 ・例 5~8、練習 15~18 ○分数式の計算の結果を、既約分数式ま たは多項式の形にして表現することが できる。 例 6~8、練習 16~18 ○繁分数式を簡単にすることができる。 • 例 9、練習 19 ○恒等式と方程式の違いを理解してい る。 ·例 10、練習 20 ○恒等式となるように、係数を決定する ことができる。 · 例題 5~6、練習 21~22 ○分数式の恒等式の分母を払った等式 が恒等式であることを利用できる。 · 例題 6、練習 22 ○恒等式 A=Bの証明を、適切な方法で 行うことができる。 · 例題 7、練習 23 ○A=B と A-B=0 が同値であること を利用して、等式を証明することができ る。 · 例題 8、練習 24 ○比例式を =k とおいて処理すること ができる。 ・応用例題3、練習26 ○実数の大小関係の基本性質に基づい

て、自明な不等式を証明することができ

る。

・例 11 ○平方の大小関係を利用して、不等式を 証明することができる。 ・例題 11、練習 30 ○絶対値の性質を利用して、絶対値を含 む不等式を証明することができる。 ・応用例題 4、練習 31 ○相加平均・相乗平均の大小関係を利用 して、不等式を証明することができる。 · 例題 12、練習 32 ○複素数、複素数の相等の定義を理解し ている。 •例1、例題1、練習1~2 ○複素数の四則計算ができる。 ·例 2、3、5、練習 3、4、6 ○負の数の平方根を理解している。 ·例6~7、練習7~8 ○負の数の平方根を含む式の計算を、i を用いて処理することができる。 ·例 6~7、練習 7~8 ○2次方程式の解の公式を利用して、2次 方程式を解くことができる。 例 9、練習 10 ○判別式を利用して、2次方程式の解の 種類を判別することができる。 · 例題 2~3、練習 11~12 ○解と係数の関係を使って、対称式の値 や2次方程式の係数を求めることができ る。 ·例 10、例題 4~5、練習 13~15 ○対称式を基本対称式で表して、式の値 を求めることができる。 · 例題 4、練習 14 ○2 次方程式の解を利用して、2 次式を 因数分解できる。 • 例題 6、練習 16 ○和と積が与えられた2数を、2次方程 式を解くことにより求めることができ る。 ・例 12、練習 18

- ○剰余の定理を利用して、多項式を1次 式や2次式で割ったときの余りを求める ことができる。
- 応用例題 3、練習 24
- $\bigcirc P(k)=0$ である k の値の見つけ方を 理解し、高次式を因数分解できる。
- ·例 15、練習 26
- ○因数分解や因数定理を利用して、高次 方程式を解くことができる。
- · 例題 8~10、練習 27~29
- ○高次方程式の2重解、3重解の意味を 理解している。
- p.62
- ○高次方程式の虚数解から、方程式の係 数を決定することができる。
- ・応用例題 4、練習 30
- ○高次方程式が虚数解 a+bi を解にも てば、a-bi を解にもつことを利用でき る。
- p.62

 Π 〇数学Iで既習の2次式の展開公式を 利用して、3次式の展開公式を導くこと ができる。

- p.8
- ○二項定理をパスカルの三角形と結び 付けて考えることができる。
- p.11∼13
- ○二項定理を等式の証明に活用することができる。
- ・練習 10
- ○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。
- ・例題 4、練習 13
- ○2 種類以上の文字を含む多項式の割り 算を、1 つの文字に着目することで、1 文 字の場合と同様に考えることができる。
- ・応用例題2、練習14
- ○分数式を分数と同じように約分、通分 して扱うことができる。

・p.19~21 ○恒等式における文字の役割の違いを	
○恒等式における文字の役割の違いを	
○恒等式における文字の役割の違いを	
認識できる。	
• p.23	
○与えられた条件式の利用方法を考え、	
等式を証明することができる。	
• 例題 8、練習 24~25	
○不等式 A > B を証明するとき、	
$oxed{A-B}>0$ を示してもよいことを利用	
して、不等式を証明することができる。	
・例 12、例題 9、練習 27~28	
○不等式の証明に実数の性質を利用で	
きるように、式変形を考えることができ	
・例 13、例題 10、練習 29	
○不等式の証明で、等号の成り立つ場合	
について考察できる。	
・例 13、例題 10、12、応用例題 4、	
練習 29、31~32	
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	
の不等式を証明することができる。	
• 例題 11、練習 30	
○複素数の表記を理解し、複素数	
a+0i を実数 a と同一視できる。	
・p.40	
あることを理解している。	
• p.43	
ても解の種類を判別できることを理解	
し、積極的に用いようとする。	
- 例題 2、練習 11	
が1つには定まらないことを理解してい	

- ○異なる2つの実数α、8が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。
 ・小項目D
 ○2次方程式の解の符号に関する問題
- ○2 次方程式の解の符号に関する問題 を、解と係数の関係を利用して解くこと ができる。
- 応用例題 2、練習 20
- ○多項式を1次式で割ったときの余りに ついて、剰余の定理で考察することがで きる。
- ·例 13、例題 7、練習 21~23
- ○多項式 P(x) が x-k で割り切れることを式で表現することができる。
- · p.58
- ○高次方程式を1次方程式や2次方程式 に帰着させることができる。
- ・例題 8~10、練習 27~29
- ○高次方程式が解 α をもつことを、式 を用いて表現できる。
 - · 応用例題 4、練習 30
- **Ⅲ**○因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。
- p.10
- 【 (a+b+c)】^n を展開したときの 【 a】^p 【 b】^q 【 c】^r の係数 がどうなるかを、興味・関心をもって調 べようとする。
- ・p.15 研究
- ○2 種類の文字を含む多項式の割り算に 興味を示し、具体的な問題に取り組もう とする。
- ・応用例題2、練習14
- ○繁分数式を分数式の性質を用いて処理することに意欲を示す。
- · 例 9、練習 19
- ○恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。

・p.24 研究 練習 1
○比例式を含む等式の証明を通じて、加
比の理に興味をもち、考察しようとす
る。
• p.28
○不等式の証明を通じて、三角不等式に
興味・関心をもち、それを利用しようと
する。
・応用例題 4、練習 31
○2 次方程式が常に解をもつように考え
られた複素数に興味・関心を示し、考察
しようとする。
• p.40
○2 次方程式の解が虚数になる場合もあ
ることに興味を示し、2次方程式の解を
考察しようとする。
・例 8~9、練習 9~10
○2 次式を複素数の範囲で因数分解する
ことに興味をもち、問題に取り組もうと
する。
・例題 6、練習 16
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
・p.59 研究 例 1、練習 1
○1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち、
具体的な問題に取り組もうとする。
• p.60
1 1 2

2024年度 相愛高等学校1年 普通科 特進コース シラバス

教科	数学	科目		数学 A		単位数	3	選択等	必修
教科書	高等学校 数学 A (数研出版)								
可料壮华	教科書傍用 4プロ	セス数学	: I +A	(数研出版)					
副教材等	スタディサプリ								

1 学習の到達目標

数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。図形分野や場合の数と確率の分野においては、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

中学校での既習事項を確認しつつ、基礎から応用まで実力をつけましょう。

数学的な物の考え方や、身近な事柄を数学的事象と捉えて、論理的に考察する力を養いましょう。

数学を学ぶ上で、基礎を固めることが重要です。分からないまま先に進んでも、基礎が出来ていないと 思考力や正確な判断力が養えません。実力に合わせて、確実に理解を深めていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	従来の評価の観点とする。個別の知識や技能の習得状況に応じて評価し、様々な学習に関連づけたり活用する力を測る。	知識・技能を活用して、課題を 解決するために必要な思考力、 判断力、表現力を身につけてい るかを測る。	観点別評価を踏まえて、粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしているかも含めて評価する。
評価方法	定期考査 小テスト 課題考査	定期考査 小テスト 課題考査	課題レポート 授業中の発表や態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学	単		主	に評	価		
期	元	学習内容		る観		単元(題材)の評価基準	評価方法
1 学期中間	名集合・場合の数	・集合の基本事項・集合の要素の個数・場合の数・和の法則・積の法則				 ・和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 ・ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 ・集合を用いて、日常の事柄を数学的に捉えることができる。 	課題考査 定期考査 小テスト レポート
1 学 期 期 末	順列・組合せ・確率	・順列 ・組合せ ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・条件付き確率 ・期待値	0	0	0	 ・樹形図などをもちいて、順列や組合せの総数をもれなく、重複なく求めることができる。 ・条件が付く順列や組合せの総数を求めることができる。 ・1個のサイコロを繰り返し投げる実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに感心をもつ。 	定期考査 小テスト 発表の様子
2 学期中間	図形の性質数	・三角形の辺の比・外心、内心、重心・円に内接する四角形・チェバ、メネラウスの定理	0	0	0	・内分、外分、比などの基本事項が理解できる。・既習事項を用いて、論理的に考察することができる。・円の性質について、取り扱いができる	課題考査 定期考査 小テスト レポート
2 学 期 期 末	数学と人間の活動	・約数と倍数 ・素数と素因数分解 ・一次不定方程式 ・記数法	0	0	0	・倍数の判定法や、素数についての考察ができる。・身近な事象を数学的に捉え、その仕組みを論理的に考察できる。	定期考査 小テスト 発表の様子
3 学 期	指数·対数	・指数の拡張・指数関数・対数とその性質・対数方程式	0	0	0	・指数、対数の基本的な計算ができる。・指数や対数の方程式、不等式を解くことができる。・日常の減少を関数として捉えて、既習事項との関係に興味をもつ。	課題考査 定期考査 レポート

2024年度 相愛高等学校 1年 音楽科 シラバス

教科	理科 科目		生物基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 生物基礎	:物基礎」(数研出版)					
コロギケナナケケ	「新編 生物基礎	サポー	トノート」(数研出版)				
副教材等	「学習ノート 生	物基礎」	(数研出版)				

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。 生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

	百百四 (日四至中〇日四万五)		
観 点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則など を理解し、身につける。観察、 実験の基本操作を習得し、計画 的な実施、結果の記録や整理、 資料の活用の仕方を身につけ る。	自然の事物・現象の中に問題を 見出し、見通しを持って観察、 実験などを行い、その結果を解 釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評価方法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポ ートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートや レポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	する観点		単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
		第1節					
		生物の多様性と共通性	\circ	\circ	\circ	I:系統樹を正しく読み取ることができ	
		さまざまな哺乳類の				る。	
		比較に基づいて、生物				生物が「細胞からできている」,「遺伝情	
		が生息環境に適した形				報として DNA をもっている」,「生命活	
		態や機能をもっている				動にはエネルギーが必要」などの共通性	
		ことを理解する。				をもつことを理解している。	
		・生物が「細胞からでき				生物のもつ共通性は共通の祖先に由来	
		ている」,「遺伝情報と				することを理解している。	
		して DNA をもってい				原核細胞と真核細胞の違いを理解して	
		る」,「生命活動にはエ				いる。	
1	生	ネルギーが必要」など				顕微鏡が扱える。	定期考査
学	物	の共通性をもつことを				Ⅱ:教科書などを用いて、生物の多様性	小テスト
期	の	理解する。				について調べ、思考・判断し、レポート	課題
中	特	・生物のもつ共通性は				で表現する。	実験活動
間	徴	共通の祖先に由来する				生物と生物でないものを見分け、その判	授業態度
		ことを理解する。				断理由について「生物の共通性」をもと	
		・生物が,細胞からでき				に説明できる。	
		ているという共通性が				顕微鏡を用いて、細胞の大きさを測定で	
		見られることを確かめ				きる。ミクロメーターについて説明でき	
		る。原核細胞と真核細				る。	
		胞の違いを知る。				Ⅲ: クラスメイトと協力して、グループ	
		・顕微鏡の使い方と顕				で答えを導き出す。生物の多様性と共通	
		微鏡観察				性に関心をもち,主体的に学習に取り組	
						める。	
						授業中の態度、提出物	
1	生	第2節					定期考査
学	物	エネルギーと代謝	\circ	\circ	\circ	I:生命活動にはエネルギーが必要であ	小テスト
期	の	・生命活動にはエネル				り、そのエネルギーは ATP から供給さ	課題
期	特	ギーが必要であり, そ				れていることを理解している。	実験活動
末	徴	のエネルギーはATPか				ATP が生命活動にエネルギーを供給す	授業態度

		ら供給されていること				るしくみについて理解している。	
		を理解する。				Ⅱ:ヒトがエネルギーを取り入れる方法	
		・ATP が生命活動にエ				について説明できる。	
		ネルギーを供給するし				 Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		くみについて理解す					
		る。					
		 ・「1日の消費エネルギ					
		 一の算出」を行い,自分					
		 自身が 1 日で消費する					
		エネルギーの量を知					
		る。					
		第 3 節					
		呼吸と光合成	0	0		 I:呼吸・光合成の過程でATPが合成さ	
		・呼吸・光合成の過程で				れることを理解している。	
		ATP が合成されること				酵素の触媒作用と基質特異性について	
		を理解する。				理解している。	
		・酵素の触媒作用と基				生体内の化学反応が、酵素のはたらきに	
		質特異性について理解				よって進行していることを理解してい	
		する。				3.	
		´・' ・生体内の化学反応が,				°° Ⅱ:カタラーゼの触媒作用によって過酸	
		酵素のはたらきによっ				化水素の分解が促進されることについ	
		て進行していることを				て、対照実験との比較に基づいて考察で	
		理解する。				きる。	
		→五八十) · □ 。				でる。 植物が有機物を得る方法について説明	
						できる。	
						【こる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物	
						Ⅲ・汉未中の忠反、近山物	
		第1節					
	遺	第1郎 遺伝情報と DNA	0	0	0	 I : DNA の構造および塩基の相補性を	
	伝	・DNA の構造および塩				理解している。	
	子	基の相補性を理解す				DNA の塩基配列が遺伝情報となってい	
2	ナと	基の相補性を埋解す				DNA の塩基配列が遺伝情報となっている。	定期考査
学	こそ	る。 ・DNA の塩基配列が遺				ることを壁解している。 DNA の塩基配列にはさまざまなパター	小テスト
期		・DNA の塩基配列が退 伝情報となっているこ					課題
中	のは	佐情報となっているこ				ンが生じることを理解している。 Ⅱ:生物の細胞内に含まれる DNA を抽	実験活動
間		とを理解する。 ・DNA の構造の模式図					授業態度
	た。	*DNA の構造の模式図 をもとに, DNA が 4 種				出できる。 DNAの構造の増学図をまとに、DNAが	
	らき					DNAの構造の模式図をもとに、DNAが 4. 種類の複其からなること。 複其の結合	
	き	類の塩基からなるこ				4種類の塩基からなること、塩基の結合	
		と,塩基の結合はAと				は A と T, G と C の間で起こるという	

T, G と C の間で起こ 規則性に気づき,説明できる。 るという規則性を理解 Ⅲ:授業中の態度、提出物 する。 第2節 遺伝情報の複製と分配 \bigcirc ○ I: DNA が半保存的複製という方法に ・DNA が半保存的複製 よって正確に複製されることを理解し という方法によって正 ている。 確に複製されることを 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、 分配されることを理解している。 理解する。 Ⅱ:複製前後の DNA の模式図を比較し、 体細胞分裂の過程で DNA が複製され,分配 DNA の正確な複製には塩基の相補性が されることを理解す 利用されていることに気づき,説明でき る。 る。 ・複製前後の DNA の 各時期の細胞数の割合から細胞周期に 模式図を比較し, DNA おける各時期の時間を推定できる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物 の正確な複製には塩基 の相補性が利用されて いることを理解する。 各時期の細胞数の割 合から細胞周期におけ る各時期の時間を推定 できることを理解す る。 第3節 ○ I: DNA の遺伝情報をもとにタンパク \bigcirc 遺伝情報の発現 \circ 質が合成される, 転写・翻訳の過程を理 ・DNA の遺伝情報をも とにタンパク質が合成 解している。 される, 転写・翻訳の過 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺 伝子が発現していることを理解してい 程を理解する。 ・分化した細胞では,細 る。 胞ごとに異なる遺伝子 Ⅱ:アミノ酸配列と、それを指定する が発現していることを DNA の塩基配列を示した資料をもと 理解する。 に、塩基3個がアミノ酸1個に対応して いること, 塩基3個の配列が同じであれ ・アミノ酸配列と, それ を指定する DNA の塩 ば同じアミノ酸が指定されることに気 基配列を示した資料を づき、説明できる。 もとに、塩基3個がア 同じ遺伝情報をもつ受精卵から, 異なる

形やはたらきをもつ細胞が分化するこ

ミノ酸 1 個に対応して

		いること, 塩基 3 個の				とに気づき、説明できる。	
		配列が同じであれば同				とに刻つき,説明できる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		に列が向して <i>め</i> れは向 じアミノ酸が指定され				: 技未中の態度、旋山物	
		ることを理解する。					
		・同じ遺伝情報をもつ					
		受精卵から,異なる形 やはたらきをもつ細胞					
		が分化することを理解する。					
		y る。					
		第1節					
		体内での情報伝達と調	0	0	\circ	I:体内での情報伝達が,からだの状態	
		節				の調節に関係していることを理解して	
		・体内での情報伝達が,				いる。	
		からだの状態の調節に				自律神経系と内分泌系が、からだを調節	
		関係していることを理				するしくみを理解している。	
		解する。				 II:運動によって心拍数が増加するしく	
		・自律神経系と内分泌				みを考察し,説明できる。	
		系が、からだを調節す				運動によってからだに変化が起こった	
		るしくみを理解する。				理由を考察できる。	
	ヒ	・運動によって心拍数				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
	ト	が増加するしくみを理					
	0)	解する。					定期考査
2 学	体	運動によってからだ					ルテスト
子期	内	に変化が起こった理由					
期期	環	を考察する。					課題 実験活動
末	境						授業態度
	0)	第2節					1文未忠及
	維	体内環境の維持のしく	0	0	\circ	I:自律神経系と内分泌系のはたらきに	
	持	み				よって血糖濃度が調節されるしくみを	
		・自律神経系と内分泌				理解している。	
		系のはたらきによって				糖尿病の原因を理解している。	
		血糖濃度が調節される				Ⅱ:健康な人の食事の前後における血糖	
		しくみを理解する。				濃度・インスリン濃度のグラフをもと	
		・糖尿病の原因を理解				に、血糖濃度とインスリン分泌の関係に	
		する。				気づき、説明できる。	
		・健康な人の食事の前				健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃	
		後における血糖濃度・				度・インスリン濃度のグラフの比較に基	
		インスリン濃度のグラ				づいて,糖尿病患者の血糖濃度が低下し	
		フをもとに, 血糖濃度				ない理由を考察し、説明できる。	

		とインスリン分泌の関				Ⅲ:授業中の態度、提出物
		係を理解する。				
		・健康な人と糖尿病患				
		者の食後の血糖濃度・				
		インスリン濃度のグラ				
		フの比較に基づいて,				
		糖尿病患者の血糖濃度				
		が低下しない理由を理				
		解する。				
		第3節				
		免疫のはたらき	\circ	\circ	\circ	I:自然免疫・適応免疫のしくみと,そ
		・自然免疫・適応免疫の				れにはたらく細胞の役割を理解してい
		しくみと、それにはた				る。
		らく細胞の役割を理解				免疫記憶のしくみを理解している。
		する。				免疫のはたらきが低下したり過敏にな
		・免疫記憶のしくみを				ったりすることで起こる病気や、免疫の
		理解する。				しくみを利用した医療について理解し
		・免疫のはたらきが低				ている。
		下したり過敏になった				Ⅱ:細菌に感染した部位の顕微鏡写真を
		りすることで起こる病				もとに、免疫のはたらきを考察できる。
		気や, 免疫のしくみを				同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗
		利用した医療について				体産生量のグラフから, 抗体産生の速さ
		理解する。				や抗体量の違いを読み取り、説明でき
		・細菌に感染した部位				る。
		の顕微鏡写真をもと				免疫の学習内容をもとに、未知の病原体
		に、免疫のはたらきを	\circ	\circ	\circ	に対する免疫のはたらきを考察し、自分
		考察する。				の考えを述べることができる。
		・同じ抗原が 2 回体内				Ⅲ:授業中の態度、提出物
		に侵入したときの抗体				
		産生量のグラフから,				
		抗体産生の速さや抗体				
		量の違いを読み取り,				
		理解する。				
	生	第1節				
3	物	植生と遷移	\circ	\circ	\circ	I:いろいろな植生とその特徴を理解し
学	\mathcal{O}	いろいろな植生とそ				ている。
期	多	の特徴を理解する。				植生の遷移の過程と、遷移が進行する要
1 1	様	・植生の遷移の過程と,				因について理解している。

性 遷移が進行する要因に ついて理解する。 生 態 系

身近な植生にはどの ような特徴をもつもの があるかを調べる。

・遷移の過程を示した 資料をもとに、遷移の 過程で裸地から低木林 に移り変わる要因, 植 生の樹種が交代する要 因について理解する。

第2節

植生の分布とバイオー │○

 \bigcirc

 \bigcirc

・世界および日本に見 られるさまざまなバイ オームが, 気温と降水 量の違いに起因して成 立していることを理解 する。

・日本の各地域でどの ようなバイオームが成 立する可能性があるか を推測する。

・気温・降水量と陸上の おもなバイオームの関 係を示した資料をもと に,森林・草原・荒原の いずれになるかを決め る要因を理解する。

・日本の気候の特徴を もとに、日本に分布す るバイオームについて 理解する。

・標高の高い場所で森 林が見られない理由を 理解する。

Ⅱ:遷移の過程を示した資料をもとに, 遷移の過程で裸地から低木林に移り変 わる要因,植生の樹種が交代する要因に ついて考察し,説明できる。

長い年月をかけて進行する植生の遷移 を調べるには、どのような方法が考えら れるか、自分の考えをまとめることがで きる。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

I:世界および日本に見られるさまざま なバイオームが, 気温と降水量の違いに 起因して成立していることを理解して いる。

Ⅱ:日本の各地域でどのようなバイオー ムが成立する可能性があるかを推測し、 表現できる。

気温・降水量と陸上のおもなバイオーム の関係を示した資料をもとに、森林・草 原・荒原のいずれになるかを決める要因 に気づき、説明できる。

日本の気候の特徴をもとに、日本に分布 するバイオームについて考察し, 説明で きる。

標高の高い場所で森林が見られない理 由を考察し,説明できる。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

第3節

生態系と生物の多様性

- 生態系がどのように 構成されているのかを 理解する。
- ・生態系において種多 様性が維持されるしく みを理解する。
- ・身近な土壌に生息している生物の種類を確かめる。
- ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき,ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し,理解する。

第4節

生態系のバランスと保 〇 全

 \bigcirc

 \bigcirc

- ・生態系のバランスが 保たれているとはどの ような状態かを理解す る。
- ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。
- ・水質と生息する生物 の関係について考察す る。
- ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。
- ・外来生物の移入前後 の在来魚の漁獲量の変 化を示した資料をもと

○ ○ I:生態系がどのように構成されている のかを理解している。

> ・生態系において種多様性が維持される しくみを理解している。

> Ⅱ:身近な土壌に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。

生態系における個体数の変化を調べた 実験結果に基づき,ある生物が種多様性 に対して果たす役割を考察し,説明でき る。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

I:生態系のバランスが保たれていると はどのような状態かを理解している。

生態系の保全のために, どのような活動 が行われているかを理解している。

Ⅱ:水質と生息する生物の関係について 考察し、表現できる。

生活排水の流入による生物の個体数と 水質の変化のグラフをもとに,自然浄化 のしくみを考察し,説明できる。

外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量 の変化を示した資料をもとに,外来生物 が在来魚に与えた影響を考察し,説明で きる。

生態系への影響が予想される開発行為 について、さまざまな観点・立場で考え、 話し合い、解決策を模索することができ る。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

に,外来生物が在来魚		
に与えた影響を考察		
し、理解する。		

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 化学基礎」	」(東京書	詩籍)				
副教材等	「ニューアチーブ	化学基	礎」(東京書籍)				

1 学習の到達目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

基本を覚えて、コツをつかむとわかりやすくなる科目です。原子や化学反応などの基礎知識の理解から 計算能力まで学び、身近な物質や身の回りの事象を化学的に捉えられるようにしていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則など を理解し、身につける。観察、 実験の基本操作を習得し、計画 的な実施、結果の記録や整理、 資料の活用の仕方を身につけ る。	自然の事物・現象の中に問題を 見出し、見通しを持って観察、 実験などを行い、その結果を解 釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評価方法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポ ートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートや レポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
期 1 学 期 中 間	-	1章 化学とは何か・センス できたいで といいで は できる				II:教科書などを用いて、身の回りの物質について調べ、思考・判断し、レポートで表現する II:グループで答えを導き出す。 I:混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を理解している。 II:混合物の分離について、どのような性質によって分離されたかを科学的に考察している。 III:実験や授業中の態度、提出物 I:炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。元素の同素体について、違いについて科学的に説明できる。 II:炎色反応の色から水溶液に含まれる元素を科学的に考察している。 III:実験や授業中の態度、提出物	定小課実授自一期テ題験業己ト査ト動度価が
		・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。					

		- total all more	_	_	_	- It fields to a second	
		3節 物質の三態	\circ	0	0	I:状態変化には粒子の熱運動が関係し	
		・身近な水以外の物質				ていることを理解している。	
		にも三態があることに				Ⅱ:粒運動と物質の三態変化を探究し、	
		気づく。				これらの関係性を見いだして考察して	
		・拡散が熱運動による				いる。	
		ことを理解する。				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		・状態変化による体積					
		の変化に気づく。					
		2編 物質の構成					
		1 章 原子の構成と元					
		素の周期表					
		1節 原子の構造	\circ	0	0	I:原子の構造及び陽子、中性子、電子	
		・物質を構成する粒子				の性質を理解している。	
		が原子であることに気				Ⅱ:同位体について、説明できる。	
		づき、原子の大きさや				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		構造について知る。					
		・原子の構造から陽子、					
		中性子、電子の性質を					
		理解する。					
		質量数が陽子の数と					
		中性子の数であること					
		がわかり、同じ原子で					定期考査
1	物	あっても質量数の異な					小テスト
学	質	るものがあることに気					課題
期	の	づく。					実験活動
期	構	-					授業態度
末	成	2 節 電子配置と周期	0	0	0	I:原子番号1~20までの代表的な典型	自己評価シ
		表				元素の電子配置について理解している。	- ⊦
		・原子のモデルを用い				元素の周期律及び原子の電子配置と周	
		て原子核の周囲に電子				期表の族と周期都の関係について理解	
		殻があることに気づ				している。	
		<. <.				Ⅱ:元素の周期律について規則性を見い	
		・電子配置で電子殻へ				だして表現している。元素の性質につい	
		の電子の収まり方を知				て考察している。	
		る。				Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
		。 ・最外殻電子と価電子					
		を知る。					
		を かる。 ・ 電子配置は原子番号					
		の順に規則正しく変化					
		することを理解する。					

		・元素の性質の規則性について考察する。 2章 化学結合 1 結合・とと、イオンンのでは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力		0	I:イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。イオン結合およびイオン結合でできた物質の性質を理解している。 II:元素の周期律とイオン化エネルギーの関係性を見いだし表現できる。 III:授業中の態度、提出物	
2 学 期 中 間	物質の構成と物質の変化	2節 分子と共有結合・共有結合の形成、分理解告・共有結合の形成、ないないないでは、これを開きるの形成についる。ののでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は			I:共有結合を電子配置と関連付けて理解している。分子からなる物質の性質を理解している。 Ⅲ:物質の極性と溶解性の関係性を予想し、関係性を見いだし表現できる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物	定期考な、課題、大量を受ける。 では、おりますが、では、おりますが、では、おりますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、

3 節 金属と金属結合 ○ ○ ○ □ 1:金属の性質及び金属結合を理解して いる。 □ 1:金属の性質及び金属結合を理解して いる。 □ 1:金属とその用途について、それらは					
子が規則正しく配列し でできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまい がわかり、金属結合の 仕組みを理解する。 ・金属の性質について 理解する。 ・身近に使われている 金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質 の分類 ・結合の種類から物質 の大まかな性質につい て分類し考察する。 ・周期表の分類と結合 の種類との間に、どの ような関係性が見られ るか考える。 1 章 物質量と化学反 応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量につい いて理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量 のそれぞれが表す値を	3節 金属と金属結合 (0 0	0	I:金属の性質及び金属結合を理解して	
でできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 「II:化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 「II:技業中の態度、提出物	・金属は、金属元素の原			いる。	
とを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量・原子の相対質量について理解する。・同位体と原子量の関係を考察する。・同位体と原子量の関係を考察する。・同位体と原子量の関係を考察する。・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	子が規則正しく配列し			Ⅱ:金属とその用途について、それらは	
・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の 仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・身近に使われている 金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・同位体と原子量、式量のそれぞれが表す値を	てできた結晶であるこ			身のまわりでどのように使われている	
がわかり、金属結合の 仕組みを理解する。 ・金属の性質について 理解する。 ・身近に使われている 金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 ・お合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類と問に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子よ分子量、式量のそれぞれが表す値を	とを知る。			という視点で考えようとしている。	
・ 全属の性質について 理解する。 ・ 全属の性質について 理解する。 ・ 身近に使われている 金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質 の分類 ・ 結合の種類から物質 の か 大まかな性質について 大変 達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。	・自由電子のふるまい			Ⅲ:授業中の態度、提出物	
・金属の性質について 理解する。 ・身近に使われている 金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量について理解している。 「II:相対質量と原子量について理解している。」 「II:相対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「II:根対質量と原子量について理解している。」 「III:根対質量と原子量について理解している。」 「III:根対質量と原子量に可能性が見解する。」 「III:根対質量と原子量に可能性が見解する。」 「III:根対質量と原子量に対域を表現する。」 「III:根対質量に対域を表現する。」 「III:根対質量と原子量に対域を表現する。」 「III:根対質量と原子量に対域を表現する。」 「III:根対質量を表現する。」 「III:根対質量性が見解する。」 「III:根対質量性が見解する。」 「III:根対質量性が見解する。」 「III:根対質量性が見解する。」 「III:根対質性が見解する。」 「III:根対質量性が見解する。」 「III:根対質量性が見解する。」 「IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	がわかり、金属結合の				
理解する。 ・身近に使われている 金属および合金の成 分、それらの用途や性 質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質 の分類 ・結合の種類から物質 の大まかな性質につい て分類し考察する。 ・周期表の分類と結合 の種類との間に、どの ような関係性が見られ るか考える。 1 章 物質量と化学反 応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解している。 III: 根学結合と物質の分類について、友 達と話し合いながら規則性や関係性を 解釈して表現しようという視点で考え ようとしている。 III: 授業中の態度、提出物 III: 根対質量と原子量について理解している。 III: 根対質量と原子量について現解している。 III: 根対質量と原子量について理解している。 III: 根対質量と原子量に可能を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を	仕組みを理解する。				
・身近に使われている 金属および合金の成 分、それらの用途や性 質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質 の分類 ・結合の種類から物質 の大まかな性質につい て分類し考察する。 ・周期表の分類と結合 の種類との間に、どの ような関係性が見られ るか考える。 1 章 物質量と化学反 応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量につ いて理解する。 ・同位体と原子量の関 係を考察する。 ・同位体と原子量の関 係を考察する。 ・原子量、分子量、式量 のそれぞれが表す値を	・金属の性質について				
金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類 ・結合の種類から物質 の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	理解する。				
分、それらの用途や性質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類 の分類 ・結合の種類から物質の大まかな性質について、方達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 □ は、一方の類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	・身近に使われている				
質を調べて発表する。 4 節 化学結合と物質の分類 ・結合の種類から物質の大まかな性質について、方達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	金属および合金の成				
4 節 化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 ・ 周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・ ○式量 ・ 原子の相対質量について理解する。 ・ 同位体と原子量の関係を考察する。 ・ 原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	分、それらの用途や性				
の分類 ・結合の種類から物質 の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1章 物質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	質を調べて発表する。				
の分類 ・結合の種類から物質 の大まかな性質につい て分類し考察する。 ・周期表の分類と結合 の種類との間に、どの ような関係性が見られ るか考える。 1 章 物質量と化学反 応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解して いて理解する。 ・同位体と原子量の関 係を考察する。 ・原子量、分子量、式量 のそれぞれが表す値を					
・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1章 物質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	4 節 化学結合と物質		0	Ⅱ:化学結合と物質の分類について、友	
の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	の分類			達と話し合いながら規則性や関係性を	
て分類し考察する。 ・周期表の分類と結合 の種類との間に、どの ような関係性が見られ るか考える。 1 章 物質量と化学反 応式 1節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解している。 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を III:授業中の態度、提出物 に対して に対し	・結合の種類から物質			解釈して表現しようという視点で考え	
 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解している。 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を 	の大まかな性質につい			ようとしている。	
の種類との間に、どの ような関係性が見られ るか考える。 1 章 物質量と化学反 応式 1 節 原子量・分子量・ 式量 ・原子の相対質量について理解している。 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	て分類し考察する。			Ⅲ:授業中の態度、提出物	
ような関係性が見られるか考える。 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・ ○ 式量 ・原子の相対質量について理解している。 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	・周期表の分類と結合				
るか考える。 1 章 物質量と化学反 応式 1 節 原子量・分子量・	の種類との間に、どの				
1 章 物質量と化学反 応式 1 節 原子量・分子量・ ○	ような関係性が見られ				
応式 1 節 原子量・分子量・	るか考える。				
1節 原子量・分子量・ ○ I:相対質量と原子量について理解している。 II:担対質量と原子量について理解している。 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III: 授業中の態度、提出物 III:授業中の態度、提出物 III: 授業中の態度、提出物 III: 授業中の態度 III: II: 授業中の態度 III: II: II: II: II: II: II: II: II: I	1 章 物質量と化学反				
式量	応式				
 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を Ⅲ:授業中の態度、提出物 	1節 原子量・分子量・(0	0	I:相対質量と原子量について理解して	
いて理解する。 ・同位体と原子量の関 係を考察する。 ・原子量、分子量、式量 のそれぞれが表す値を	式量			いる。	
・同位体と原子量の関係を考察する。・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	・原子の相対質量につ			 Ⅲ:授業中の態度、提出物	
係を考察する。 ・原子量、分子量、式量 のそれぞれが表す値を	いて理解する。				
・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を	・同位体と原子量の関				
のそれぞれが表す値を	係を考察する。				
	•原子量、分子量、式量				
理解する。	のそれぞれが表す値を				
	理解する。				

	l		1	l	I		Г 1
		2節物質量	0	0	0	I:物質量と粒子、質量、気体の体積の	
		・物質量とその単位の				関係について理解している。	
		mol の関係、さらに原				Ⅱ:物質量と粒子、質量、気体の体積に	
		子量・分子量・式量との				ついて、友達と話し合いながら見通しを	
		関係やモル質量との関				もって観察を行い、得られた結果を分析	
		係がわかり、それらの				した活動を行っている。	
		単位変換を理解する。				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		・物質量と気体の体積					
		との関係がわかり、そ					
		れらの単位変換を理解					
		する。気体の密度と分					
		子量、空気の平均分子					
		量について理解する。					
		・物質量を中心とした					
		量的関係を理解する。					
		・実験観察を通して、1					
		mol の気体の体積につ					
		いて考察する。					
		3節 溶液の濃度	0	0	0	I:モル濃度について理解している。	
		・モル濃度による溶液				Ⅱ:水溶液の調整について、友達と話し	
		の濃度の表し方を理解				合いながら確認し、誤ったガラス器具の	
		する。				使い方で起こる現象についての問題を	
		・質量パーセント濃度				見いだす活動を行っている。	
		とモル濃度の違いを考				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		える。					
							定期考査
2	物	4 節 化学反応の表し	0		0	I:化学反応式やイオン反応式について	小テスト
学	質	方				理解している。	課題
期	0)	・化学反応式やイオン				Ⅲ:授業中の態度、提出物	実験活動
期	変	反応式の書き方やそれ					授業態度
末	化	が表している内容を理					自己評価シ
		解する。					- ⊦
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
		5 節 化学反応式の表			0	I:化学反応式が化学反応に関与する物	
		す量的関係				質とその量的関係を表すことを見いだ	
		・化学反応式の係数が				して理解している。	
		表している量的関係を				Ⅱ:化学反応における量的関係につい	
		考える。				て、化学反応式の係数が物質量の比を表	
1		づんる。	Ī	Ī		「「山丁以心」、「「「「「「「「「」」、「「」」、「「」」、「「」」、「「」」、「「」」	

・化学反応の表す量的関係について発表す				していることを見出そうとしている。 Ⅲ:授業中の態度、提出物	
る。 ・化学変化に伴う質量 変化に注目した化学の				III. 1文末 下り 歴	
基本法則を知る。 2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質について理解する。・アレー ニウスの酸・塩基の定	0	0	0	I:酸と塩基の性質及び定義を理解している。 II:酸と塩基の強弱と電離度の関係性を 予想し、実験などを通じて関係性を見い	
義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義 を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。				だし表現できる。 Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
2節 水素イオン濃度とpH ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。・実験観察を通して、外のできる。・実験観察を通して、外のではな物質のpHの変化を比較し考える。	0	0	0	I:水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度やpHで表せることを理解している。pH指示薬について理解している。 Ⅱ:身近のまわりの物質のpHを測定し、 友達と話し合いながら様々な比較を加えて考えようとしている。 Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
3 節 中和反応と塩の 生成・酸と塩基が完全に中 和するときの変化を化	0	0	0	I:酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び塩の水溶液について理解している。 II:身近のまわりの物質のpHを測定し、	

		学反応式で理解する。				様々な比較を加えて考えようとしてい	
		・酸と塩基が完全に中				る。	
		和したときの塩の水溶				Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
		液が中性になるとは限					
		らないことがわかる。					
		・実験観察を通して、塩					
		の水溶液の pH を測定					
		する。その塩をつくる					
		もとになった酸、塩基					
		の強弱を比較して考察					
		する。					
		<i>,</i> 2 °					
		4節 中和滴定	0	0	\circ	│ │ Ⅰ:酸と塩基の中和反応に関与する物質	
		・中和の条件は、酸から				の量的関係について理解している。	
		生じる H+の物質量と				M 量 的 関 床 に り い て 生 搾 し て い る。 II : 器 具 の 扱 い 方 や 溶 液 の 調 製 方 法 な ど	
		生じる H の物質量と 塩基から生じる OH -				中和滴定操作における基本的な技術を	
		の物質量が等しくなる				習得するとともに、実験などを通じて結	
		ことだとわかる。				果を分析し解釈することができる。	
		・中和滴定に用いる器				Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
		具の使い方がわかり、					
		中和滴定の実験操作を					
		理解する。					
		・実験観察を通して基					
		本的な技能から食酢の					
		濃度を求め、得られた					
		結果を分析して中和反					
		応の量的関係を理解す					
		る。					
		・酸と塩基の組み合わ					
		せによる滴定曲線を比					
		較し、適切な指示薬の					
		使い分けを理解する。					
		3章 酸化還元反応					定期考査
	物	1節 酸化と還元	0	0	0	I:酸化と還元が電子の授受によること	小テスト
3	質	・酸化と還元は常に同				を理解している。	課題
学	\mathcal{O}	時に起こることを知				Ⅱ:酸化と還元の定義について、友達と	実験活動
期	変	る。				話し合いながら確認し、酸化数の増減に	授業態度
	化	・酸素原子や水素原子				ついて見いだす活動を行っている。	自己評価シ
		が関係していない反応				Ⅲ:授業中の態度、提出物	ート

についても、酸化と還 元が電子の授受によっ て統一的に説明できる ことを理解する。 反応前後の酸化数の増 減により、酸化と還元 が確認できることを理 解する。 2 節 酸化剤と還元剤 □ \bigcirc \bigcirc I:酸化還元反応式の反応式について理 ・代表的な酸化剤、還元 解している。 剤としては、過マンガ Ⅱ:酸化還元滴定操作における基本的な ン酸カリウムや過酸化 技術を習得するとともに、実験などを通 じて結果を分析し解釈することができ 水素、ヨウ化カリウム であることを知る。 る。 ・酸化還元反応の化学 Ⅲ:授業中の態度、提出物 反応式の作ることがで き、この反応の量的関 係を理解する。 ・酸化還元滴定に用い る器具の使い方がわか り、実験操作を理解す る。 3 節 金属の酸化還元 □ \bigcirc I:金属のイオン化傾向について理解し \bigcirc 反応 ている。 Ⅱ:金属の陽イオンへのなりやすさを比 ・実験観察を通して金 属の陽イオンへのなり 較測定し、友達と話し合いながら科学的 やすさを比較し、金属 に考察している。 Ⅲ:授業中の態度、提出物 の反応性に違いがある ことを知る。 ・金属と空気、水、酸な どの反応性の違いは、 金属のイオン化傾向と 深い関係があることを 理解する。

	4 節 酸化還元反応の	0	0	0	I:電池の構造やしくみ及び金属の製錬	
	応用				について理解している。	
	・実験観察を通して、金				Ⅱ:電池について構造とその用途につい	
	属のイオン化傾向と電				て、友達と話し合いながらそれらは身の	
	流の流れる向きを比較				まわりでどのように使われているとい	
	し関係性を考える。				う視点で考えようとしている。	
	・身近に使われている				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
	実用電池の構造、それ					
	らの用途や特徴を知					
	る。					
	・金属の製錬には酸化					
	還元反応が関わってい					
	ることを知る。					
	終章 化学が拓く世界	0	0	0	I : 学んできた事柄が日常生活や社会を	
	・化学基礎で学んでき				支えている科学技術と結びついている	
	たことが日常生活や社				ことを理解する。	
	会生活を支えている科				Ⅱ:日常生活や社会を支えている科学技	
	 学技術と結びついてい				術について、友達と話し合い、その用途	
	ることを理解する。				や社会課題に対する解決策などを様々	
	, , 0				な視点で考察している。	
					Ⅲ:授業中の態度、提出物	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	選択等	必修		
教科書	「新編 生物基礎	礎」(数研出版)							
コロギケナナケケ	「新編 生物基礎	サポー	トノート」(数研出版)						
副教材等 「学習ノート 生物基礎」(数研出版)									

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。 生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

	百百四 (百四至年6日四万五)		
観 点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則など を理解し、身につける。観察、 実験の基本操作を習得し、計画 的な実施、結果の記録や整理、 資料の活用の仕方を身につけ る。	自然の事物・現象の中に問題を 見出し、見通しを持って観察、 実験などを行い、その結果を解 釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評価方法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポ ートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートや レポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
		第1節					
		生物の多様性と共通性	\circ	\circ	\circ	I:系統樹を正しく読み取ることができ	
		さまざまな哺乳類の				る。	
		比較に基づいて、生物				生物が「細胞からできている」,「遺伝情	
		が生息環境に適した形				報として DNA をもっている」,「生命活	
		態や機能をもっている				動にはエネルギーが必要」などの共通性	
		ことを理解する。				をもつことを理解している。	
		・生物が「細胞からでき				生物のもつ共通性は共通の祖先に由来	
		ている」,「遺伝情報と				することを理解している。	
		して DNA をもってい				原核細胞と真核細胞の違いを理解して	
		る」,「生命活動にはエ				いる。	
1	生	ネルギーが必要」など				顕微鏡が扱える。	定期考査
学	物	の共通性をもつことを				Ⅱ:教科書などを用いて、生物の多様性	小テスト
期	の	理解する。				について調べ、思考・判断し、レポート	課題
中	特	・生物のもつ共通性は				で表現する。	実験活動
間	徴	共通の祖先に由来する				生物と生物でないものを見分け、その判	授業態度
		ことを理解する。				断理由について「生物の共通性」をもと	
		・生物が,細胞からでき				に説明できる。	
		ているという共通性が				顕微鏡を用いて、細胞の大きさを測定で	
		見られることを確かめ				きる。ミクロメーターについて説明でき	
		る。原核細胞と真核細				る。	
		胞の違いを知る。				Ⅲ: クラスメイトと協力して、グループ	
		・顕微鏡の使い方と顕				で答えを導き出す。生物の多様性と共通	
		微鏡観察				性に関心をもち,主体的に学習に取り組	
						める。	
						授業中の態度、提出物	
1	生	第2節					定期考査
学	物	エネルギーと代謝	\circ	\circ	\circ	I:生命活動にはエネルギーが必要であ	小テスト
期	の	・生命活動にはエネル				り、そのエネルギーは ATP から供給さ	課題
期	特	ギーが必要であり, そ				れていることを理解している。	実験活動
末	徴	のエネルギーはATPか				ATP が生命活動にエネルギーを供給す	授業態度

		ら供給されていること				るしくみについて理解している。	
		を理解する。				Ⅱ:ヒトがエネルギーを取り入れる方法	
		・ATP が生命活動にエ				について説明できる。	
		ネルギーを供給するし				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		くみについて理解す					
		る。					
		・「1 日の消費エネルギ					
		ーの算出」を行い,自分					
		自身が 1 日で消費する					
		エネルギーの量を知					
		る。					
		-					
		第3節					
		呼吸と光合成	0	0	0	I:呼吸・光合成の過程で ATP が合成さ	
		・呼吸・光合成の過程で				れることを理解している。	
		ATP が合成されること				酵素の触媒作用と基質特異性について	
		を理解する。				理解している。	
		・酵素の触媒作用と基				生体内の化学反応が、酵素のはたらきに	
		質特異性について理解				よって進行していることを理解してい	
		する。				る。	
		・生体内の化学反応が,				II:カタラーゼの触媒作用によって過酸	
		酵素のはたらきによっ				化水素の分解が促進されることについ	
		て進行していることを				て、対照実験との比較に基づいて考察で	
		理解する。				きる。	
		エル / 9。				植物が有機物を得る方法について説明	
						できる。	
						Ⅲ:授業中の態度、提出物	
						血. 汉朱中沙态及、淀山物	
		第1節					
	遺	遺伝情報と DNA	0	0		I: DNA の構造および塩基の相補性を	
	伝	・DNA の構造および塩				理解している。	
	子	基の相補性を理解す				DNA の塩基配列が遺伝情報となってい	
2	ナと	基の相補性を理解 9 る。				DNA の温差配列が退仏情報となっていることを理解している。	定期考査
学	こそ	。 ・DNA の塩基配列が遺				DNA の塩基配列にはさまざまなパター	小テスト
期	っ の	伝情報となっているこ				ンが生じることを理解している。	課題
中	は	とを理解する。				Ⅱ:生物の細胞内に含まれる DNA を抽	実験活動
間	はた	・DNA の構造の模式図				出できる。	授業態度
	たら	*DNA の構造の模式図 をもとに、DNA が 4 種				DNA の構造の模式図をもとに, DNA が	
	りき	類の塩基からなるこ				4 種類の塩基からなること、塩基の結合	
	C	類の塩 差 から なる こ と, 塩 基 の 結 合 は A と				はAとT,GとCの間で起こるという	
		こ, 塩 生ツ 加口 は A こ				ranci, u C U V用(他につこい)	

T, G と C の間で起こ 規則性に気づき,説明できる。 るという規則性を理解 Ⅲ:授業中の態度、提出物 する。 第2節 遺伝情報の複製と分配 \bigcirc ○ I: DNA が半保存的複製という方法に ・DNA が半保存的複製 よって正確に複製されることを理解し という方法によって正 ている。 確に複製されることを 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、 分配されることを理解している。 理解する。 Ⅱ:複製前後の DNA の模式図を比較し、 体細胞分裂の過程で DNA が複製され,分配 DNA の正確な複製には塩基の相補性が されることを理解す 利用されていることに気づき,説明でき る。 る。 ・複製前後の DNA の 各時期の細胞数の割合から細胞周期に 模式図を比較し, DNA おける各時期の時間を推定できる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物 の正確な複製には塩基 の相補性が利用されて いることを理解する。 各時期の細胞数の割 合から細胞周期におけ る各時期の時間を推定 できることを理解す る。 第3節 ○ I: DNA の遺伝情報をもとにタンパク \bigcirc 遺伝情報の発現 \circ 質が合成される, 転写・翻訳の過程を理 ・DNA の遺伝情報をも とにタンパク質が合成 解している。 される, 転写・翻訳の過 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺 伝子が発現していることを理解してい 程を理解する。 ・分化した細胞では,細 る。 胞ごとに異なる遺伝子 Ⅱ:アミノ酸配列と、それを指定する が発現していることを DNA の塩基配列を示した資料をもと 理解する。 に、塩基3個がアミノ酸1個に対応して いること, 塩基3個の配列が同じであれ ・アミノ酸配列と, それ を指定する DNA の塩 ば同じアミノ酸が指定されることに気 基配列を示した資料を づき、説明できる。 もとに、塩基3個がア 同じ遺伝情報をもつ受精卵から, 異なる

形やはたらきをもつ細胞が分化するこ

ミノ酸 1 個に対応して

		いること, 塩基 3 個の				とに気づき、説明できる。	
		配列が同じであれば同				とに刻つき,説明できる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		に列が向して <i>め</i> れは向 じアミノ酸が指定され				: 技未中の態度、旋山物	
		ることを理解する。					
		・同じ遺伝情報をもつ					
		受精卵から,異なる形 やはたらきをもつ細胞					
		が分化することを理解する。					
		y る。					
		第1節					
		体内での情報伝達と調	0	0	\circ	I:体内での情報伝達が,からだの状態	
		節				の調節に関係していることを理解して	
		・体内での情報伝達が,				いる。	
		からだの状態の調節に				自律神経系と内分泌系が、からだを調節	
		関係していることを理				するしくみを理解している。	
		解する。				 II:運動によって心拍数が増加するしく	
		・自律神経系と内分泌				みを考察し,説明できる。	
		系が、からだを調節す				運動によってからだに変化が起こった	
		るしくみを理解する。				理由を考察できる。	
	ヒ	・運動によって心拍数				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
	ト	が増加するしくみを理					
	0)	解する。					定期考査
2 学	体	運動によってからだ					ルテスト
子期	内	に変化が起こった理由					
期期	環	を考察する。					課題 実験活動
末	境						授業態度
	0)	第2節					1文未忠及
	維	体内環境の維持のしく	0	0	\circ	I:自律神経系と内分泌系のはたらきに	
	持	み				よって血糖濃度が調節されるしくみを	
		・自律神経系と内分泌				理解している。	
		系のはたらきによって				糖尿病の原因を理解している。	
		血糖濃度が調節される				Ⅱ:健康な人の食事の前後における血糖	
		しくみを理解する。				濃度・インスリン濃度のグラフをもと	
		・糖尿病の原因を理解				に、血糖濃度とインスリン分泌の関係に	
		する。				気づき、説明できる。	
		・健康な人の食事の前				健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃	
		後における血糖濃度・				度・インスリン濃度のグラフの比較に基	
		インスリン濃度のグラ				づいて,糖尿病患者の血糖濃度が低下し	
		フをもとに, 血糖濃度				ない理由を考察し、説明できる。	

		とインスリン分泌の関				Ⅲ:授業中の態度、提出物
		係を理解する。				
		・健康な人と糖尿病患				
		者の食後の血糖濃度・				
		インスリン濃度のグラ				
		フの比較に基づいて,				
		糖尿病患者の血糖濃度				
		が低下しない理由を理				
		解する。				
		第3節				
		免疫のはたらき	0	0	0	I:自然免疫・適応免疫のしくみと,そ
		・自然免疫・適応免疫の				れにはたらく細胞の役割を理解してい
		しくみと、それにはた				る。
		らく細胞の役割を理解				免疫記憶のしくみを理解している。
		する。				免疫のはたらきが低下したり過敏にな
		・免疫記憶のしくみを				ったりすることで起こる病気や、免疫の
		理解する。				しくみを利用した医療について理解し
		・免疫のはたらきが低				ている。
		下したり過敏になった				Ⅱ:細菌に感染した部位の顕微鏡写真を
		りすることで起こる病				もとに、免疫のはたらきを考察できる。
		気や、免疫のしくみを				同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗
		利用した医療について				体産生量のグラフから,抗体産生の速さ
		理解する。				や抗体量の違いを読み取り、説明でき
		・細菌に感染した部位				る。
		の顕微鏡写真をもと				免疫の学習内容をもとに、未知の病原体
		に、免疫のはたらきを	\circ	\circ	0	に対する免疫のはたらきを考察し、自分
		考察する。				の考えを述べることができる。
		・同じ抗原が 2 回体内				Ⅲ:授業中の態度、提出物
		に侵入したときの抗体				
		産生量のグラフから,				
		抗体産生の速さや抗体				
		量の違いを読み取り,				
		理解する。				
	生	第1節				
3	生物	植生と遷移	0	0	0	I:いろいろな植生とその特徴を理解し
学	123 (D)	・いろいろな植生とそ				ている。
期	多	の特徴を理解する。				植生の遷移の過程と、遷移が進行する要
7,41	様	・植生の遷移の過程と、				因について理解している。
	141	単二-マンズ型1グマノル型1生に、				DIC / CITH U CV O

性 生 態 系

遷移が進行する要因に ついて理解する。

- 身近な植生にはどの ような特徴をもつもの があるかを調べる。
- ・遷移の過程を示した 資料をもとに、遷移の 過程で裸地から低木林 に移り変わる要因, 植 生の樹種が交代する要 因について理解する。

第2節

植生の分布とバイオー │○

 \bigcirc

 \bigcirc

- ・世界および日本に見 られるさまざまなバイ オームが, 気温と降水 量の違いに起因して成 立していることを理解 する。
- ・日本の各地域でどの ようなバイオームが成 立する可能性があるか を推測する。
- ・気温・降水量と陸上の おもなバイオームの関 係を示した資料をもと に,森林・草原・荒原の いずれになるかを決め る要因を理解する。
- ・日本の気候の特徴を もとに、日本に分布す るバイオームについて 理解する。
- ・標高の高い場所で森 林が見られない理由を 理解する。

Ⅱ:遷移の過程を示した資料をもとに, 遷移の過程で裸地から低木林に移り変 わる要因,植生の樹種が交代する要因に ついて考察し,説明できる。

長い年月をかけて進行する植生の遷移 を調べるには、どのような方法が考えら れるか、自分の考えをまとめることがで きる。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

I:世界および日本に見られるさまざま なバイオームが, 気温と降水量の違いに 起因して成立していることを理解して いる。

Ⅱ:日本の各地域でどのようなバイオー ムが成立する可能性があるかを推測し、 表現できる。

気温・降水量と陸上のおもなバイオーム の関係を示した資料をもとに、森林・草 原・荒原のいずれになるかを決める要因 に気づき、説明できる。

日本の気候の特徴をもとに、日本に分布 するバイオームについて考察し, 説明で きる。

標高の高い場所で森林が見られない理 由を考察し,説明できる。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

第3節

生態系と生物の多様性

- 生態系がどのように 構成されているのかを 理解する。
- ・生態系において種多 様性が維持されるしく みを理解する。
- ・身近な土壌に生息している生物の種類を確かめる。
- ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき,ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し,理解する。

第4節

生態系のバランスと保 〇 全

 \bigcirc

 \bigcirc

- ・生態系のバランスが 保たれているとはどの ような状態かを理解す る。
- ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。
- ・水質と生息する生物 の関係について考察す る。
- ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。
- ・外来生物の移入前後 の在来魚の漁獲量の変 化を示した資料をもと

○ ○ I:生態系がどのように構成されている のかを理解している。

> ・生態系において種多様性が維持される しくみを理解している。

> Ⅱ:身近な土壌に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。

生態系における個体数の変化を調べた 実験結果に基づき,ある生物が種多様性 に対して果たす役割を考察し,説明でき る。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

I:生態系のバランスが保たれていると はどのような状態かを理解している。

生態系の保全のために, どのような活動 が行われているかを理解している。

Ⅱ:水質と生息する生物の関係について 考察し、表現できる。

生活排水の流入による生物の個体数と 水質の変化のグラフをもとに,自然浄化 のしくみを考察し,説明できる。

外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量 の変化を示した資料をもとに,外来生物 が在来魚に与えた影響を考察し,説明で きる。

生態系への影響が予想される開発行為 について、さまざまな観点・立場で考え、 話し合い、解決策を模索することができ る。

Ⅲ:授業中の態度、提出物

に,外来生物が在来	魚		
に与えた影響を考	察		
し、理解する。			

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	選択等	必修		
教科書	「新編 化学基礎」(東京書籍)								
可止本件十十六六	「ニューアチーブ 化学基礎」(東京書籍)								
副教材等	「セミナー 化学	基礎+化	学」(第一学習社)						

1 学習の到達目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

基本を覚えて、コツをつかむとわかりやすくなる科目です。原子や化学反応などの基礎知識の理解から 計算能力まで学び、身近な物質や身の回りの事象を化学的に捉えられるようにしていきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則など を理解し、身につける。観察、 実験の基本操作を習得し、計画 的な実施、結果の記録や整理、 資料の活用の仕方を身につけ る。	自然の事物・現象の中に問題を 見出し、見通しを持って観察、 実験などを行い、その結果を解 釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評価方法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポ ートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートや レポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
期 1 学 期 中 間	-	1章 化学者 (化でである) (本のではははまます。 (本のではははまます。 (本のではないである) (本のではないである。) (本のではないではないである。) (本のではないである。) (本のではないである。) (本のではないである。) (本のではないではないではないである。) (本のではないである。) (本のではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない		1		II:教科書などを用いて、身の回りの物質について調べ、思考・判断し、レポートで表現する II:グループで答えを導き出す。 I:混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を理解している。 II:混合物の分離について、どのような性質によって分離されたかを科学的に考察している。 III:実験や授業中の態度、提出物 I:炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。元素の同素体について、違いについて科学的に説明できる。Ⅱ:炎色反応の色から水溶液に含まれる元素を科学的に考察している。Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	定小課実授自一期テ題験業己ト考ス 活態評価値
		生成があることを理解する。					
						I:態変化には粒子の熱運動が関係して	

			_	_	_		1
		3節 物質の三態	0	0	0	いることを理解している。	
		• 身近な水以外の物質				Ⅱ:粒運動と物質の三態変化を探究し、	
		にも三態があることに				これらの関係性を見いだして考察して	
		気づく。				いる。	
		・拡散が熱運動による				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		ことを理解する。					
		・状態変化による体積					
		の変化に気づく。					
		2編 物質の構成					
		1 章 原子の構成と元					
		素の周期表					
		1節 原子の構造	\circ	0	\circ	I:原子の構造及び陽子、中性子、電子	
		・物質を構成する粒子				の性質を理解している。	
		が原子であることに気				Ⅱ:同位体について、説明できる。	
		づき、原子の大きさや				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		構造について知る。					
		・原子の構造から陽子、					
		中性子、電子の性質を					
		理解する。					
		・質量数が陽子の数と					
		中性子の数であること					t the to t
		がわかり、同じ原子で					定期考査
1	物	あっても質量数の異な					小テスト
学	質	るものがあることに気					課題
期	0	づく。					実験活動
期	構						授業態度
末	成	2 節 電子配置と周期	0	0	0	I:原子番号 1~20 までの代表的な典型	自己評価シ
		表				元素の電子配置について理解している。	- ⊦
		・原子のモデルを用い				元素の周期律及び原子の電子配置と周	
		て原子核の周囲に電子				期表の族と周期都の関係について理解	
		殻があることに気づ				している。	
		< ∘				Ⅱ:元素の周期律について規則性を見い	
		・電子配置で電子殻へ				だして表現している。元素の性質につい	
		の電子の収まり方を知				て考察している。	
		る。				Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
		・最外殻電子と価電子					
		を知る。					
		・電子配置は原子番号					
		の順に規則正しく変化					
		か順に規則正しく変化することを理解する。					
		りることと生胜りる。					

		・元素の性質の規則性について考察する。 2章 化学結合 1 結合・とと、イオンンのでは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力		0	I:イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。イオン結合およびイオン結合でできた物質の性質を理解している。 II:元素の周期律とイオン化エネルギーの関係性を見いだし表現できる。 III:授業中の態度、提出物	
2 学 期 中 間	物質の構成と物質の変化	2節 分子と共有結合・共有結合の形成、分子と共有結合の形成、分で構造式についる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			I:共有結合を電子配置と関連付けて理解している。分子からなる物質の性質を理解している。 Ⅲ:物質の極性と溶解性の関係性を予想し、関係性を見いだし表現できる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物	定期考な、課題、大量を受ける。 では、おりますが、では、おりますが、では、おりますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、できますが、

・金属は、金子が規則にてを知りたる・りかれる・が組金属の・理解・身に付金	を属元素の原 Eしく配あることの は晶であるまったの 金属する。 と解すこれている	0	0	0	I:金属の性質及び金属結合を理解している。 II:金属とその用途について、それらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 III:授業中の態度、提出物	
子が規則正 てでを知る。 ・自かかる は は ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	Eしく配列し 吉晶であるこ 一のあるまい 金属お合の 全解する。 性質について Eわれている				Ⅱ:金属とその用途について、それらは 身のまわりでどのように使われている という視点で考えようとしている。	
てできた紹 とを知る。 ・自 まで がわかり、 仕組みを明 ・金属の性 理解する。 ・身近に使	き晶であるこ このふるまい 金属結合の 全解する。 性質について ごわれている				身のまわりでどのように使われている という視点で考えようとしている。	
とを知る。 ・自由電子 がわかり、 仕組みを理 ・金属の性 理解する。 ・身近に使	このふるまい 金属結合の 2解する。 上質について ごわれている				という視点で考えようとしている。	
・自由電子がわかり、 仕組みを理・金属の性理解する。・身近に使	金属結合の 2解する。 性質について ごわれている					
がわかり、 仕組みを理 ・金属の性 理解する。 ・身近に使	金属結合の 2解する。 性質について ごわれている				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
仕組みを理・金属の性理解する。・身近に使	上解する。 上質について ごわれている					
・金属の性理解する。・身近に使	き質について					
理解する。・身近に使	 					
・身近に使						
全属おと						
亚海初多	び合金の成					
分、それら	の用途や性					
質を調べて	発表する。					
4 節 化学	単結合と物質		\circ	\circ	Ⅱ:化学結合と物質の分類について、友	
の分類					達と話し合いながら規則性や関係性を	
・結合の種	種類から物質				解釈して表現しようという視点で考え	
の大まかな	は性質につい				ようとしている。	
て分類し考	察する。				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
周期表の	分類と結合					
の種類との	間に、どの					
ような関係	※性が見られ					
るか考える	0.					
1 章 物質	重と化学反					
応式						
1節 原子	量・分子量・	\circ		\circ	I:相対質量と原子量について理解して	
式量					いる。	
・原子の相	目対質量につ				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
いて理解す	-る。					
・同位体と	:原子量の関					
係を考察す	-る。					
・原子量、	分子量、式量					
のそれぞれ	いが表す値を					
理解する。						

	1		l	1	1		
		2節物質量	0	0	0	I:物質量と粒子、質量、気体の体積の	
		・物質量とその単位の				関係について理解している。	
		mol の関係、さらに原				Ⅱ:物質量と粒子、質量、気体の体積に	
		子量・分子量・式量との				ついて、友達と話し合いながら見通しを	
		関係やモル質量との関				もって観察を行い、得られた結果を分析	
		係がわかり、それらの				した活動を行っている。	
		単位変換を理解する。				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		・物質量と気体の体積					
		との関係がわかり、そ					
		れらの単位変換を理解					
		する。気体の密度と分					
		子量、空気の平均分子					
		量について理解する。					
		・物質量を中心とした					
		量的関係を理解する。					
		・実験観察を通して、1					
		mol の気体の体積につ					
		いて考察する。					
		3節 溶液の濃度	0	0	0	I:モル濃度について理解している。	
		・モル濃度による溶液				Ⅱ:水溶液の調整について、友達と話し	
		の濃度の表し方を理解				合いながら確認し、誤ったガラス器具の	
		する。				使い方で起こる現象についての問題を	
		・質量パーセント濃度				見いだす活動を行っている。	
		とモル濃度の違いを考				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		える。					
							定期考査
2	物	4 節 化学反応の表し	0		0	I:化学反応式やイオン反応式について	小テスト
学	質	方				理解している。	課題
期	0	・化学反応式やイオン				Ⅲ:授業中の態度、提出物	実験活動
期	変	反応式の書き方やそれ					授業態度
末	化	が表している内容を理					自己評価シ
		解する。					ート
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
		5 節 化学反応式の表			0	I:化学反応式が化学反応に関与する物	
		す量的関係				質とその量的関係を表すことを見いだ	
		・化学反応式の係数が				して理解している。	
		表している量的関係を				Ⅱ:化学反応における量的関係につい	
		考える。				て、化学反応式の係数が物質量の比を表	
		つんる。				し、旧子区心丸の体数が物具里の比を衣	

・化学反応の表す量的 関係について発表す				していることを見出そうとしている。 Ⅲ:授業中の態度、提出物	
る。 ・化学変化に伴う質量 変化に注目した化学の 基本法則を知る。					
2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質について理解する。・アレーニウスの酸・塩基の定 義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義 を理解する。	0	0	0	I:酸と塩基の性質及び定義を理解している。 Ⅱ:酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見いだし表現できる。 Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。					
2節 水素イオン濃度とpH ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを通過して、外側のpHやあでのpHやの変化を比較し考える。	0	0	0	I:水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度やpHで表せることを理解している。pH指示薬について理解している。 Ⅱ:身近のまわりの物質のpHを測定し、 友達と話し合いながら様々な比較を加えて考えようとしている。 Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
3 節 中和反応と塩の 生成 ・酸と塩基が完全に中 和するときの変化を化	0	0	0	I:酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び塩の水溶液について理解している。 II:身近のまわりの物質のpHを測定し、	

		学反応式で理解する。				様々な比較を加えて考えようとしてい	
		・酸と塩基が完全に中				る。	
		和したときの塩の水溶				Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
		液が中性になるとは限					
		らないことがわかる。					
		・実験観察を通して、塩					
		の水溶液の pH を測定					
		する。その塩をつくる					
		もとになった酸、塩基					
		の強弱を比較して考察					
		する。					
		<i>,</i> 2 °					
		4節 中和滴定	0	0	\circ	│ │ Ⅰ:酸と塩基の中和反応に関与する物質	
		・中和の条件は、酸から				の量的関係について理解している。	
		生じる H+の物質量と				V 量の関係に フィーC 互辞している。 II : 器具の扱い方や溶液の調製方法など	
		生じる H の物質量と 塩基から生じる OH-				中和滴定操作における基本的な技術を	
		の物質量が等しくなる				習得するとともに、実験などを通じて結	
		ことだとわかる。				果を分析し解釈することができる。	
		・中和滴定に用いる器				Ⅲ:実験や授業中の態度、提出物	
		具の使い方がわかり、					
		中和滴定の実験操作を					
		理解する。					
		・実験観察を通して基					
		本的な技能から食酢の					
		濃度を求め、得られた					
		結果を分析して中和反					
		応の量的関係を理解す					
		る。					
		・酸と塩基の組み合わ					
		せによる滴定曲線を比					
		較し、適切な指示薬の					
		使い分けを理解する。					
		3章 酸化還元反応					定期考査
	物	1節 酸化と還元	0	\circ	\circ	I:酸化と還元が電子の授受によること	小テスト
3	質	・酸化と還元は常に同				を理解している。	課題
学	\mathcal{O}	時に起こることを知				Ⅱ:酸化と還元の定義について、友達と	実験活動
期	変	る。				話し合いながら確認し、酸化数の増減に	授業態度
	化	・酸素原子や水素原子				ついて見いだす活動を行っている。	自己評価シ
		が関係していない反応				Ⅲ:授業中の態度、提出物	ート

についても、酸化と還 元が電子の授受によっ て統一的に説明できる ことを理解する。 反応前後の酸化数の増 減により、酸化と還元 が確認できることを理 解する。 2 節 酸化剤と還元剤 □ \bigcirc \bigcirc I:酸化還元反応式の反応式について理 ・代表的な酸化剤、還元 解している。 剤としては、過マンガ Ⅱ:酸化還元滴定操作における基本的な ン酸カリウムや過酸化 技術を習得するとともに、実験などを通 じて結果を分析し解釈することができ 水素、ヨウ化カリウム であることを知る。 る。 ・酸化還元反応の化学 Ⅲ:授業中の態度、提出物 反応式の作ることがで き、この反応の量的関 係を理解する。 ・酸化還元滴定に用い る器具の使い方がわか り、実験操作を理解す る。 3 節 金属の酸化還元 □ \bigcirc I:金属のイオン化傾向について理解し \bigcirc 反応 ている。 Ⅱ:金属の陽イオンへのなりやすさを比 ・実験観察を通して金 属の陽イオンへのなり 較測定し、友達と話し合いながら科学的 やすさを比較し、金属 に考察している。 Ⅲ:授業中の態度、提出物 の反応性に違いがある ことを知る。 ・金属と空気、水、酸な どの反応性の違いは、 金属のイオン化傾向と 深い関係があることを 理解する。

	4 節 酸化還元反応の	0	0	0	I:電池の構造やしくみ及び金属の製錬	
	応用				について理解している。	
	・実験観察を通して、金				Ⅱ:電池について構造とその用途につい	
	属のイオン化傾向と電				て、友達と話し合いながらそれらは身の	
	流の流れる向きを比較				まわりでどのように使われているとい	
	し関係性を考える。				う視点で考えようとしている。	
	・身近に使われている				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
	実用電池の構造、それ					
	らの用途や特徴を知					
	る。					
	・金属の製錬には酸化					
	還元反応が関わってい					
	ることを知る。					
	終章 化学が拓く世界	0	0	0	I : 学んできた事柄が日常生活や社会を	
	・化学基礎で学んでき				支えている科学技術と結びついている	
	たことが日常生活や社				ことを理解する。	
	会生活を支えている科				Ⅱ:日常生活や社会を支えている科学技	
	 学技術と結びついてい				術について、友達と話し合い、その用途	
	ることを理解する。				や社会課題に対する解決策などを様々	
	, , 0				な視点で考察している。	
					Ⅲ:授業中の態度、提出物	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	選択等	必修				
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)										
コロギケナナケケ	「新編 生物基礎 サポートノート」(数研出版)										
副教材等	「リード Light 生物基礎」(数研出版)										

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。 生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

	百百四 (百四至年6日四万五)		
観 点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則など を理解し、身につける。観察、 実験の基本操作を習得し、計画 的な実施、結果の記録や整理、 資料の活用の仕方を身につけ る。	自然の事物・現象の中に問題を 見出し、見通しを持って観察、 実験などを行い、その結果を解 釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評価方法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポ ートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートや レポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		Ι	П	Ш		
		第1節					
		生物の多様性と共通性	\circ	\circ	\circ	I:系統樹を正しく読み取ることができ	
		さまざまな哺乳類の				る。	
		比較に基づいて、生物				生物が「細胞からできている」、「遺伝情	
		が生息環境に適した形				報として DNA をもっている」、「生命活	
		態や機能をもっている				動にはエネルギーが必要」などの共通性	
		ことを理解する。				をもつことを理解している。	
		・生物が「細胞からでき				生物のもつ共通性は共通の祖先に由来	
		ている」、「遺伝情報と				することを理解している。	
		して DNA をもってい				原核細胞と真核細胞の違いを理解して	
		る」、「生命活動にはエ				いる。	
1	生	ネルギーが必要」など				顕微鏡が扱える。	定期考査
学	物	の共通性をもつことを				Ⅱ:教科書などを用いて、生物の多様性	小テスト
期	の	理解する。				について調べ、思考・判断し、レポート	課題
中	特	・生物のもつ共通性は				で表現する。	実験活動
間	徴	共通の祖先に由来する				生物と生物でないものを見分け、その判	授業態度
		ことを理解する。				断理由について「生物の共通性」をもと	
		・生物が、細胞からでき				に説明できる。	
		ているという共通性が				顕微鏡を用いて、細胞の大きさを測定で	
		見られることを確かめ				きる。ミクロメーターについて説明でき	
		る。原核細胞と真核細				る。	
		胞の違いを知る。				Ⅲ:クラスメイトと協力して、グループ	
		・顕微鏡の使い方と顕				で答えを導き出す。生物の多様性と共通	
		微鏡観察				性に関心をもち、主体的に学習に取り組	
						める。	
						授業中の態度、提出物	
	_						
1	生	第2節					定期考査
学	物	エネルギーと代謝	0	0	0	I:生命活動にはエネルギーが必要であ	小テスト
期	0	・生命活動にはエネル				り、そのエネルギーは ATP から供給さ	課題
期	特	ギーが必要であり、そ				れていることを理解している。	実験活動
末	徴	のエネルギーはATPか				ATP が生命活動にエネルギーを供給す	授業態度

		ら供給されていること				るしくみについて理解している。	
		を理解する。				Ⅱ:ヒトがエネルギーを取り入れる方法	
		・ATP が生命活動にエ				について説明できる。	
		ネルギーを供給するし				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		くみについて理解す					
		る。					
		・「1 日の消費エネルギ					
		ーの算出」を行い、自分					
		自身が 1 日で消費する					
		エネルギーの量を知					
		る。					
		-					
		第3節					
		呼吸と光合成	0	0	0	I:呼吸・光合成の過程で ATP が合成さ	
		・呼吸・光合成の過程で				れることを理解している。	
		ATP が合成されること				酵素の触媒作用と基質特異性について	
		を理解する。				理解している。	
		・酵素の触媒作用と基				生体内の化学反応が、酵素のはたらきに	
		質特異性について理解				よって進行していることを理解してい	
		する。				る。	
		・生体内の化学反応が、				II:カタラーゼの触媒作用によって過酸	
		酵素のはたらきによっ				化水素の分解が促進されることについ	
		て進行していることを				て、対照実験との比較に基づいて考察で	
		理解する。				きる。	
		エル / 9。				植物が有機物を得る方法について説明	
						できる。	
						Ⅲ:授業中の態度、提出物	
						血. 汉朱中沙态及、淀山物	
		第1節					
	遺	遺伝情報と DNA	0	0		I: DNA の構造および塩基の相補性を	
	伝	・DNA の構造および塩				理解している。	
	子	基の相補性を理解す				DNA の塩基配列が遺伝情報となってい	
2	ナと	基の相補性を理解 9 る。				DNA の温差配列が退仏情報となっていることを理解している。	定期考査
学	こそ	。 ・DNA の塩基配列が遺				DNA の塩基配列にはさまざまなパター	小テスト
期	て の	伝情報となっているこ				ンが生じることを理解している。	課題
中	は	とを理解する。				Ⅱ:生物の細胞内に含まれる DNA を抽	実験活動
間	はた	・DNA の構造の模式図				出できる。	授業態度
	たら	*DNA の構造の模式図 をもとに、DNA が 4 種				DNA の構造の模式図をもとに、DNA が	
	りき	類の塩基からなるこ				4 種類の塩基からなること、塩基の結合	
	C	類の塩墨がらなること、塩基の結合はAと				はAとT、GとCの間で起こるという	
	<u> </u>	こ、塩医が加口はAC				14.4.4.1、はこしの同く地におこいり	

T、G と C の間で起こ 規則性に気づき、説明できる。 るという規則性を理解 Ⅲ:授業中の態度、提出物 する。 第2節 遺伝情報の複製と分配 \bigcirc ○ I: DNA が半保存的複製という方法に ・DNA が半保存的複製 よって正確に複製されることを理解し という方法によって正 ている。 確に複製されることを 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、 分配されることを理解している。 理解する。 Ⅱ:複製前後の DNA の模式図を比較し、 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配 DNA の正確な複製には塩基の相補性が されることを理解す 利用されていることに気づき、説明でき る。 る。 ・複製前後の DNA の 各時期の細胞数の割合から細胞周期に 模式図を比較し、DNA おける各時期の時間を推定できる。 Ⅲ:授業中の態度、提出物 の正確な複製には塩基 の相補性が利用されて いることを理解する。 各時期の細胞数の割 合から細胞周期におけ る各時期の時間を推定 できることを理解す る。 第3節 ○ I: DNA の遺伝情報をもとにタンパク \bigcirc 遺伝情報の発現 \circ 質が合成される、転写・翻訳の過程を理 ・DNA の遺伝情報をも とにタンパク質が合成 解している。 される、転写・翻訳の過 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺 伝子が発現していることを理解してい 程を理解する。 ・分化した細胞では、細 る。 胞ごとに異なる遺伝子 Ⅱ:アミノ酸配列と、それを指定する が発現していることを DNA の塩基配列を示した資料をもと 理解する。 に、塩基3個がアミノ酸1個に対応して ・アミノ酸配列と、それ いること、塩基3個の配列が同じであれ を指定する DNA の塩 ば同じアミノ酸が指定されることに気 基配列を示した資料を づき、説明できる。 もとに、塩基3個がア 同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる

形やはたらきをもつ細胞が分化するこ

ミノ酸 1 個に対応して

		いること、塩基3個の				とに気づき、説明できる。	
		配列が同じであれば同				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
		じアミノ酸が指定され					
		ることを理解する。					
		・同じ遺伝情報をもつ					
		受精卵から、異なる形					
		やはたらきをもつ細胞					
		が分化することを理解					
		する。					
		 体内での情報伝達と調	0	0	0	I:体内での情報伝達が、からだの状態	
		節				の調節に関係していることを理解して	
		 ・体内での情報伝達が、				いる。	
		からだの状態の調節に				自律神経系と内分泌系が、からだを調節	
		 関係していることを理				するしくみを理解している。	
		解する。				Ⅱ:運動によって心拍数が増加するしく	
		・自律神経系と内分泌				みを考察し、説明できる。	
		系が、からだを調節す				運動によってからだに変化が起こった	
		るしくみを理解する。				理由を考察できる。	
	ヒ	・運動によって心拍数				Ⅲ:授業中の態度、提出物	
	ト	が増加するしくみを理					
	の	解する。					
2	体	- ・運動によってからだ					定期考査
学	内	に変化が起こった理由					小テスト
期	環	を考察する。					課題
期	境						実験活動
末	の	 第 2 節					授業態度
	維	体内環境の維持のしく	0	0	0	I:自律神経系と内分泌系のはたらきに	
	持	み				よって血糖濃度が調節されるしくみを	
		 ・自律神経系と内分泌				理解している。	
		系のはたらきによって				糖尿病の原因を理解している。	
		血糖濃度が調節される				Ⅱ:健康な人の食事の前後における血糖	
		しくみを理解する。				濃度・インスリン濃度のグラフをもと	
		・糖尿病の原因を理解				に、血糖濃度とインスリン分泌の関係に	
		する。				気づき、説明できる。	
		・健康な人の食事の前				健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃	
		後における血糖濃度・				度・インスリン濃度のグラフの比較に基	
		インスリン濃度のグラ				づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下し	
		フをもとに、血糖濃度				ない理由を考察し、説明できる。	

		,				
		とインスリン分泌の関				Ⅲ:授業中の態度、提出物
		係を理解する。				
		・健康な人と糖尿病患				
		者の食後の血糖濃度・				
		インスリン濃度のグラ				
		フの比較に基づいて、				
		糖尿病患者の血糖濃度				
		が低下しない理由を理				
		解する。				
		第3節				
		免疫のはたらき	0	0	0	I:自然免疫・適応免疫のしくみと、そ
		・自然免疫・適応免疫の				れにはたらく細胞の役割を理解してい
		しくみと、それにはた				る。
		らく細胞の役割を理解				免疫記憶のしくみを理解している。
		する。				免疫のはたらきが低下したり過敏にな
		・免疫記憶のしくみを				ったりすることで起こる病気や、免疫の
		理解する。				しくみを利用した医療について理解し
		・免疫のはたらきが低				ている。
		下したり過敏になった				Ⅱ:細菌に感染した部位の顕微鏡写真を
		りすることで起こる病				もとに、免疫のはたらきを考察できる。
		気や、免疫のしくみを				同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗
		利用した医療について				体産生量のグラフから、抗体産生の速さ
		理解する。				や抗体量の違いを読み取り、説明でき
		・細菌に感染した部位				る。
		の顕微鏡写真をもと				免疫の学習内容をもとに、未知の病原体
		に、免疫のはたらきを	0	0	0	に対する免疫のはたらきを考察し、自分
		考察する。				の考えを述べることができる。
		・同じ抗原が 2 回体内				Ⅲ:授業中の態度、提出物
		に侵入したときの抗体				
		産生量のグラフから、				
		抗体産生の速さや抗体				
		量の違いを読み取り、				
		理解する。				
	生	第1節				
3	物	植生と遷移	0	0	0	I:いろいろな植生とその特徴を理解し
学	の	・いろいろな植生とそ				ている。
期	多	の特徴を理解する。				植生の遷移の過程と、遷移が進行する要
	様	・植生の遷移の過程と、				因について理解している。
	INIC	個土の造りの過程と				

性 遷移が進行する要因に Ⅱ:遷移の過程を示した資料をもとに、 遷移の過程で裸地から低木林に移り変 ついて理解する。 身近な植生にはどの わる要因、植生の樹種が交代する要因に 生 ような特徴をもつもの ついて考察し、説明できる。 態 系 があるかを調べる。 長い年月をかけて進行する植生の遷移 ・遷移の過程を示した を調べるには、どのような方法が考えら 資料をもとに、遷移の れるか、自分の考えをまとめることがで 過程で裸地から低木林 きる。 に移り変わる要因、植 Ⅲ:授業中の態度、提出物 生の樹種が交代する要 因について理解する。 第2節 植生の分布とバイオー │○ \bigcirc \bigcirc I:世界および日本に見られるさまざま なバイオームが、気温と降水量の違いに ・世界および日本に見 起因して成立していることを理解して られるさまざまなバイ いる。 オームが、気温と降水 Ⅱ:日本の各地域でどのようなバイオー 定期考査 ムが成立する可能性があるかを推測し、 量の違いに起因して成 小テスト 立していることを理解 表現できる。 課題 気温・降水量と陸上のおもなバイオーム する。 実験活動 ・日本の各地域でどの の関係を示した資料をもとに、森林・草 授業態度 ようなバイオームが成 原・荒原のいずれになるかを決める要因 に気づき、説明できる。 立する可能性があるか を推測する。 日本の気候の特徴をもとに、日本に分布 するバイオームについて考察し、説明で ・気温・降水量と陸上の おもなバイオームの関 きる。 係を示した資料をもと 標高の高い場所で森林が見られない理 に、森林・草原・荒原の 由を考察し、説明できる。 いずれになるかを決め Ⅲ:授業中の態度、提出物 る要因を理解する。 ・日本の気候の特徴を もとに、日本に分布す るバイオームについて 理解する。 ・標高の高い場所で森 林が見られない理由を 理解する。

第3節

生態系と生物の多様性 I:生態系がどのように構成されている \bigcirc \bigcirc \bigcirc 生態系がどのように のかを理解している。 構成されているのかを 生態系において種多様性が維持される 理解する。 しくみを理解している。 ・生態系において種多 Ⅱ:身近な土壌に生息している生物の種 様性が維持されるしく 類を確かめ、表現できる。 みを理解する。 生態系における個体数の変化を調べた ・身近な土壌に生息し 実験結果に基づき、ある生物が種多様性 ている生物の種類を確 に対して果たす役割を考察し、説明でき かめる。 る。 Ⅲ:授業中の態度、提出物 ・生態系における個体 数の変化を調べた実験 結果に基づき、ある生 物が種多様性に対して 果たす役割を考察し、 理解する。 第4節 生態系のバランスと保〇 \bigcirc \bigcirc I:生態系のバランスが保たれていると はどのような状態かを理解している。 全 生態系の保全のために、どのような活動 ・生態系のバランスが 保たれているとはどの が行われているかを理解している。 ような状態かを理解す Ⅱ:水質と生息する生物の関係について 考察し、表現できる。 る。 ・生態系の保全のため 生活排水の流入による生物の個体数と に、どのような活動が 水質の変化のグラフをもとに、自然浄化 行われているかを理解 のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量 する。 ・水質と生息する生物 の変化を示した資料をもとに、外来生物 の関係について考察す が在来魚に与えた影響を考察し、説明で る。 きる。 生態系への影響が予想される開発行為 ・生活排水の流入によ る生物の個体数と水質 について、さまざまな観点・立場で考え、 の変化のグラフをもと 話し合い、解決策を模索することができ に、自然浄化のしくみ る。 を考察し、理解する。 Ⅲ:授業中の態度、提出物 ・ 外来生物の移入前後

の在来魚の漁獲量の変 化を示した資料をもと に、外来生物が在来魚

に与えた影響を考察 し、理解する。		

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュ I	単位数	2	選択等	必修				
教科書	なし										
副教材等	五線ノート										

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。授業で書き取った旋律や和音は必ず清書してピアノで弾き、歌ってみましょう。リズムや音感など定着します。聴音が出来るようになると、専攻実技の演奏も必ず伸びます。頑張って下さい。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観	 I:知識・技能(技術)	 Ⅱ : 思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点	1 人中城 1文书 (1文/四)	11.心与"刊例"表先	態度
	音楽を聴いて音高、リズム、音	音楽を形づくっている要素の	旋律やリズムなどを捉えて記
観	程などを正しく把握し、音楽を	働きやその効果などを思考・判	譜することに留まらず、音楽性
点	形作っている要素の働き、効果	断している。	豊かな表現の追求に主体的・協
0	などを理解する。		働的に活用しようと意欲的で
趣	音楽を形づくっている要素を		ある。
旨	正しく聴き取り、それを記譜す		
	ることができる。		
評	・学習状況	• 学習状況	• 学習状況
価	• 定期考査	• 定期考査	・発問への対応
方	・発問への対応	・発問への対応	
法			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価		
子期	元	学習内容		する観点		単元(題材)の評価基準	評価方法
刼	名		Ι	П	Ш		

		to to to any to		_			
		高音部譜表	0	0	0	I : 音楽を聴いて音高、リズム、音程な	• 学習状況
		低音部譜表	0	0	0	どを正しく把握し、音楽を形作っている	・定期考査
		(ハ長調、イ短調、				要素の働き、効果などを理解する。	・発問への
	旋	ト長調)				音楽を形づくっている要素を正しく聴	対応
	旋律聴音	拍子				き取り、それを記譜することができる。	
	音	4分の4拍子				Ⅱ:音楽を形づくっている要素の働きや	
		4分の3拍子				その効果などを思考・判断している。	
		8分の6拍子				Ⅲ:旋律やリズムなどを捉えて記譜する	
						ことに留まらず、音楽性豊かな表現の追	
<u> 44.</u>		2 声旋律聴音	0	\circ	0	求に主体的・協働的に活用しようと意欲	
前		大譜表				的である。	
期		(ハ長調、イ短調、					
		ト長調)					
	複旋律	拍子					
	律	4分の4拍子					
	和	 4分の3拍子					
	和音聴音	 8分の6拍子					
	音	 4 声体和音聴音		0	0		
		大譜表					
		(ハ長調)密集配置					
		拍子2分の2拍子					
		高音部譜表	0	0	0	I : 音楽を聴いて音高、リズム、音程な	・学習状況
		 低音部譜表		0	0	どを正しく把握し、音楽を形作っている	・定期考査
		 (ト長調、ホ短調、				 要素の働き、効果などを理解する。	・発問への
	旋	人長調、二短調)				 音楽を形づくっている要素を正しく聴	対応
	旋律聴音	拍子				き取り、それを記譜することができる。	
	音	4分の4拍子				II:音楽を形づくっている要素の働きや	
		4分の3拍子				その効果などを思考・判断している。	
		8分の6拍子				Ⅲ:旋律やリズムなどを捉えて記譜する	
後		2 声旋律聴音	0	0	0	ことに留まらず、音楽性豊かな表現の追	
期		大譜表				求に主体的・協働的に活用しようと意欲	
		(ト長調、ヘ長調)				的である。	
	複	拍子					
	複旋律	4分の4拍子					
	• 和	4分の3拍子					
	和音聴音	8分の6拍子					
	音	4 声体和音聴音		0	0		
		大譜表(ハ長調)					
		密集配置・開離配置					

拍子		
2分の2拍子		

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュⅢ	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	ハノン						

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

ピアノを使用し、視奏を行います。ピアノが不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。基礎的なスケール・カデンツを弾くことにより調性感を養いましょう。また初見では読譜力を養い、連弾では相手の音を聴きながら、一緒に音楽を作り上げる力、表現力を養えるよう頑張って下さい。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ : 思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点	1 : 邓峨 * 1又彤(1又州)	Ⅱ:応与・刊例・衣先	態度
	音楽を形づくっている旋律、フ	楽譜から様々な情報を読み取	楽譜を正しく演奏するだけで
観	レーズなどの要素を読み取り、	り、曲のイメージを表現するこ	なく、その曲に込められた感情
点	演奏する技能を身につけてい	とが出来る。音楽を形づくって	や音楽性豊かな表現の追求に
0	る。	いる要素の働きやその効果な	主体的・協働的に活用しようと
趣	楽譜から様々な情報を読み取	どを思考・判断している。	意欲的である。
計	り、音楽を形作っている要素の		
	働き、効果などを理解する。		
評	• 学習状況	• 学習状況	• 学習状況
価	・定期考査	・定期考査	・発問への対応
方	・発問への対応	・発問への対応	
法			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価		
当期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
州	名		Ι	П	Ш		

	ス	【鍵盤楽器専攻】	\circ	0	\circ	調性、調号を理解している。	• 学習状況
	ケー	全調スケール(4 オク				指番号を正しく弾いている。	• 定期考査
	ル	ターブ)				適正な速度で弾いている。	発問への
		【他専攻】				各自の能力に応じた練習を主体的に行	対応
		調号2つまで(4オク				っている。	
		ターブ)短調は和声短				音色や指の形にも注意して、演奏してい	
		音階と旋律短音階				る。	
前		(スケールはハノン 39					
期		番参照)					
	初	ハ長調の基礎和音を他	0	0	0	スケールの調性を理解・判断し、初見視	
	見	の調性で移調奏				奏につないで演奏が出来る。	
						予見時に、楽譜の情報を読み取り、思考・	
		ハ長調8小節、また4	0	\circ	\circ	判断して演奏しようとしている。また、	
		段程度の様々なジャン				曲のイメージを表現しようとしている。	
		ルの楽曲を数分予見					
		後、初見視奏					
	ス	【鍵盤楽器専攻】	0	0	0	調性、調号を理解している。	• 学習状況
	ケー	全調スケール(4 オク				指番号を正しく弾いている。	• 定期考査
	ル	ターブ)				適正な速度で弾いている。	・発問への
		【他専攻】				各自の能力に応じた練習を主体的に行	対応
		調号4つまで(4オク				っている。	
		ターブ) 短調は和声短				音色や指の形にも注意して、演奏してい	
		音階と旋律短音階				る。	
		(スケールはハノン					
		39 番参照)					
後	連弾	【鍵盤楽器専攻】	0	0	\circ	スケールの調性を理解・判断し、連弾演	
期	炉	主にバロック・古典派				奏につないで演奏が出来る。	
		の協奏曲や管弦組曲な				楽譜から様々な情報を読み取り、曲のイ	
		どを連弾(曲は未定)				メージを表現することが出来る。音楽を	
		【他専攻】				形づくっている要素の働きやその効果	
		古典派のディアベリな				などを思考・判断している。	
		どの連弾曲(曲は未定)				楽譜を正しく演奏するだけでなく、その	
						曲に込められた感情や音楽性豊かな表	
						現の追求に主体的・協働的に活用しよう	
						と意欲的である。	
						アンサンブルを楽しみ、主体的に曲作り	
						に意欲的である。	

教科	音楽専門	科目	音楽理論	単位数	2	選択等	必修	
教科書	なし							
副教材等	楽典練習 115(カワイ出版)							

1 学習の到達目標

音楽理論の基礎となる楽典の知識と、様々な問題を解く力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

皆さんが取るノートが教科書になります。しっかりノートを取りましょう。 分からないことをそのままにせず、積極的に質問し、疑問を解消していきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観	 I:知識・技能(技術)	Ⅱ: 思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点		11.心与"刊例" 农先	態度
観	音楽の基礎的な理論について	音楽理論を表現や鑑賞の学習	楽典を学ぶことで音楽を理論
点	理解するとともに、理解したこ	に活用する思考力、判断力、表	的にとらえて、主体的・協動的
0	とを楽譜によって表す技能を	現力を育成する。	に表現や鑑賞に活かそうとす
趣	身に付ける。		るする態度を養う。
旨			
評	学習状況	学習状況	学習状況
価	発問への対応	発問への対応	発問への対応
方	定期考査	定期考査	
法			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主	に評	価		
期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
朔	名		Ι	П	Ш		

	I :		ı		ı		
1		音部記号	0	\circ	0	音を表す基礎となる音部記号や音名、音	学習態度
学		オクターブ記号	0	\circ	\circ	符などの知識がきちんと身についてい	定期考査
期	基	音名	0	\circ	0	るか確認する。	発問の反応
中	礎	音符と休符	\circ	\circ	\circ		課題
'							
間							
1	基	小節と拍子	0	0	0	拍子の種類を知ることで、テンポの取り	学習態度
学	礎	音程の基礎	0	\circ	0	方などを理解し、自身が演奏している楽	定期考査
期	•					譜についても考察できる。	発問の反応
期	音					音程の知識を身に付け、実際の音と結び	課題
末	程					付けて感じ取れる。	
	音	音程の応用	0	0	0	楽典の練習課題を通じて、応用問題も理	学習態度
2	程	音階	\circ	\circ	\circ	解し解けるようにする。	定期考査
学	•	全音階				音階については、西洋音楽の基本となる	発問の反応
期	音	様々な音階				全音階について確認する。	課題
中	階	近親調				調性について理解し、様々な問題を解く	
間	ک					技量を身に付ける。	
	調						
2	和	和音の種類と転回位置	0	\circ	0	和音の種類を知識としてまず理解し、音	学習態度
学	音	和音記号	0	\circ	\circ	を聞きその違いを感じ取れる。	定期考査
期	•	コードネーム	0	\circ	\circ	楽曲を移調できる。移調楽器についての	発問の反応
期	移	移調と移調楽器	\circ	\circ	\circ	知識を身に付ける。	課題
末	調						
	調	調判定	0	\circ	0	様々な形で楽曲の調判定ができること。	学習態度
	判	旋律				一年を通じて学んできたことの総復習	定期考査
3	定	和音				をして、身に付けたことを確認する。	発問の反応
学	•	その他					課題
期	総	これまでの総合課題	\circ	\circ	\circ		
	復						
	習						
L			·			1	

教科	音楽専門	科目	合唱	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等						

1 学習の到達目標

一緒に声を聴きあいながらハーモニーや音楽を作ることで音楽的協調性を養う。演奏会本番での発表に向けて、生徒同士の意見交換をしながら曲を仕上げていくことで、演奏するだけでなく、練習課程の大切さを学ぶ。また、音楽の表現に必要な呼吸や歌詞の意味をどう表現に活かすのかを習得することで、技術や感性を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

授業で取り扱う楽曲が皆の心に響くよう、また合唱の素晴らしさと楽しさを感じて貰えたらと願っています。表現の仕方や呼吸は合唱だけでなく、自身の専攻の演奏にも通じるところがたくさんあると思いますので、ぜひ活かしてください。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点	1 . 74 199 12 16 (12 11)		態度
	発声や発音など正しい身体の	音楽の構造を分析し、フレーズ	演奏発表の場を年に数回設け、
	使い方ができる。また、音程・	や楽曲全体をどのように表現	その発表に向けて周りと協力
	テンポ・リズム・強弱などの楽	するか考えて演奏できる。歌詞	しながら積極的に作品に向き
観	譜に書かれている要素を正確	の内容をふまえて、音楽表現を	合う意欲がある。練習中におい
点	に読み取り、演奏に活かすこと	考察し、楽曲により相応しい歌	ては、意見交換するなど互いの
の	ができる。	唱を目指すことができる。声や	考えを尊重し、主体的・協働的
趣	互いの声や響きをよく聴いて	伴奏の表現上の特徴をふまえ	に表現力を高め合おうと意欲
旨	感じ、ハーモニーを作ることが	て作品を解釈し、音楽を形づく	的である。
	できる。	っている要素を活かしながら	
		演奏を追求するとともに、表現	
		の多様性を学ぶことができる。	
評	・学習状況	・学習状況	• 学習状況
価	・実技試験	・実技試験	・発問への対応
方		・発問への対応	
法			
上に	- 示す観点に基づいて、学習のまと	まりごとに評価し、各学期に通信	言票で提示、学年末に 5 段階の評

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

3)4	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
		• 聖歌	0	0	\circ	I:礼拝時の毎月の聖歌に取り組み、音	実技試験
		4月「花祭りの歌」				楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体	学習態度
		5月「宗祖降誕会」				をどのように表現するか考えて演奏で	練習状況
		6月「相愛学園歌」				きる。発声や発音など正しい身体の使い	発問の反応
		7月「盆会の歌」				方ができる。また、音程・テンポ・リズ	
	田田	8月「衆会」				ム・強弱などの楽譜に書かれている要素	
	聖歌	9月「ひかりあふれて」				を正確に読み取り、演奏に活かすことが	
	٠ ك	その他、法要での聖歌				できる。互いの声や響きをよく聴いて感	
٠٠.	ス					じ、ハーモニーを作ることができる。	
前期	大阪	・ピース大阪演奏曲	\circ	\circ	\circ	Ⅱ:歌詞の内容をふまえて、音楽表現を	
州	•	「Every day, Happy				考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふま	
	期	day」				えて作品を解釈し、音楽を形づくってい	
	定期演奏会	「瑠璃色の地球」				る要素を活かしながら表現できる。	
	云	「ふるさと」				Ⅲ:定期演奏会での演奏曲では、発表に	
						向けて周りと協力しながら積極的に作	
		• 定期演奏会演奏曲				品に向き合おうという意欲がある。練習	
		「青い鳥」	\circ	\circ	\circ	中においては、意見交換するなど互いの	
		「相愛学園歌」				考えを尊重し、表現力を高め合おうと意	
						欲的である。	実学練発 「実対では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
	Ha	• 聖歌	\circ	\circ	\circ	I:礼拝時の毎月の聖歌に取り組み、音	実技試験
	聖歌	10月「聖夜」				楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体	学習態度
	· 模	11月「みほとけは」				をどのように表現するか考えて演奏で	練習状況
	模範演	12月「成道の歌」				きる。発声や発音など正しい身体の使い	発問の反応
後	奏	1月「四弘誓願」				方ができる。また、音程・テンポ・リズ	
期	Z. +r	2月「さんだんのうた」				ム・強弱などの楽譜に書かれている要素	
	女コン	3月「芬陀利華」				を正確に読み取り、演奏に活かすことが	
	ンサ	その他、法要での聖歌				できる。互いの声や響きをよく聴いて感	
	 - -					じ、ハーモニーを作ることができる。	
		・コーラスコンクール	\circ	\circ	\circ	Ⅱ:歌詞の内容をふまえて、音楽表現を	

	模範演奏曲				考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふま	
					えて作品を解釈し、音楽を形づくってい	
	・乙女コンサート演奏	0	0	0	る要素を活かしながら表現できる。	
	曲				Ⅲ:乙女コンサートでの演奏曲では、発	
					表に向けて周りと協力しながら積極的	
					に作品に向き合おうという意欲がある。	
					練習中においては、意見交換するなど互	
					いの考えを尊重し、表現力を高め合おう	
					と意欲的である。	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	選択等	必修			
教科書	「高校生の音楽 1」(教育芸術社)									
副教材等	白表紙聖歌集、ノ	ート、プ	リント、プリント用フラッ	ットファイ	ハ					

1 学習の到達目標

- ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽に触れることで、感性を高め、豊かな情操を養う。
- ・より専門的な音楽の基礎を学ぶ。個性豊かに表現する力を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

音楽に触れることにより、音楽の美しさや楽しさを感じ取り、心豊かに生活できることを願っています。 楽典の分野から合唱曲などを理解し、難しい分野もありますが色々な音楽を楽しみましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点			態度
	【表現】	【表現】	【表現・鑑賞】
	歌唱表現に関わる曲想と音楽	音楽を形づくっている要素	主体的・協働的に歌唱・鑑賞の
	の構造や歌詞、文化的・歴史的	や要素同士の関連を知覚し、	学習活動に取り組もうとして
	背景との関わりや言葉の特性	自己のイメージをもって歌	いる。
	と曲種を理解している。曲にふ	唱表現を創意工夫すること	
	さわしい発声、言葉の発音、身	やどのように表すかについ	
		て表現意図をもっている。	
左 日	体の使い方などの技能を身に	【鑑賞】	
観	つけている。	知覚したことと感受したこと	
点	【鑑賞】	との関わりについて考えると	
0	鑑賞に関わる音楽の特徴と文	ともに、曲や演奏に対する評価	
趣	化的・歴史的背景、他の芸術と	とその根拠について考え、音楽	
旦	の関わり、我が国や郷土の伝統	のよさや美しさを自ら味わっ	
	音楽の種類とそれぞれの特徴	て聴いている。	
	を理解している。	【共通事項】	
	【共通事項】	音楽を形づくっている要素や	
	音楽を形づくっている要素及	要素同士の関連を知覚し、それ	
	び音楽に関する用語や記号な	らの働きを感受しながら、知覚	
		したことと感受したこととの	
	どについて、音楽における働き	関わりについて考えている。	
	と関わらせて理解している。		
評	定期考査、歌唱テスト、ワーク	定期考査、ワークシート、小テ	小テストの結果、ワークシート
価	シート、小テスト	スト	の内容で評価。また、積極的に

方		歌唱に取り組む態度や発問に
法		対する反応と発言、提出物の内
		容で評価。

4 年間指導計画

- ※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度
- ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学	単		主	に評	価		
子期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
刔	名		Ι	П	Ш		
	合	合唱	0	0	0	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを	学習態度
	唱	「翼をください」他				持って表現する。	定期テスト
	斉	斉唱・独唱	\circ	0	\circ	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景	歌唱テスト
	唱	「Caro mio ben」				との関わりや言葉の特性と曲種を理解	定期テスト
		(イタリア語)				している。曲にふさわしい発声、イタリ	
		他				ア語の発音を理解し、表現している。	
	鑑	鑑賞	\circ	0	0	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高	ワークシー
1	賞	バロック時代の音楽				め、バロック時代の特徴を聴き分けるこ	ト・定期考査
学		(バッハ、ヘンデル、ヴ				とができる。	
期		ィヴァルディ)					
							小テスト
	楽	楽典	\circ	0	0	音部記号や音符・休符を理解し、読譜に	定期テスト
	典	音部記号、日本音名・ド				適応できる。	
		イツ音名、音符・休符、					
		拍子					
	聖	聖歌(毎月の歌・礼拝の			\bigcirc	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り	学習態度
	歌	歌・降誕会法要の歌・学				組もうとしている。	丁日
	н/\	園歌)					
	合	合唱	0	0	0	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを	学習態度
	唱	コーラスコンクール曲				持って表現する。	定期テスト
		他				主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り	
						組もうとしている。	

2 学 期	斉唱	斉唱・独唱曲 「野ばら」 (ドイツ語・日本語)	0	0	0	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景 との関わりや言葉の特性と曲種を理解 している。曲にふさわしい発声、ドイツ 語の発音を理解し、表現している。	歌唱テスト定期テスト
	鑑賞	鑑賞 古典派時代の音楽(モ ーツァルト、ベートー ヴェン、ハイドン)	0	0	0	西洋音楽の時代背景を理解し、関心を高め、古典派時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽典	楽典 音程(幹音・派生音)	0	0	0	第1学期に学習した音部記号から音と音の幅を数えることができる。音程の種類 を理解している。	
	聖歌	聖歌 (毎月の歌)			0	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度
	合唱	合唱・斉唱 「さびしいカシの木」 「乾杯の歌」他	0	0	0	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを 持って表現している。	学習態度定期テスト
3 学 期	鑑賞	鑑賞 ロマン派・近代現代時 代の音楽 (シューベル ト、ショパン、ヴェルデ ィ)	0	0	0	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高め、ロマン派・近代現代時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽典	楽典 音階 (調号)	0	0	0	各調性を理解し、#やりなどの調号を理解。初出の楽譜の調性を見分けることができる。	小テスト 定期テスト
	聖歌	聖歌 (毎月の歌)			0	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り 組もうとしている。	学習態度

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	選択等	必修			
教科書	「高校生の音楽 1」(教育芸術社)									
副教材等	白表紙聖歌集、ノ	ート、プ	リント、プリント用フラッ	ットファイ	ハ					

1 学習の到達目標

- ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽に触れることで、感性を高め、豊かな情操を養う。
- ・より専門的な音楽の基礎を学ぶ。個性豊かに表現する力を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

音楽に触れることにより、音楽の美しさや楽しさを感じ取り、心豊かに生活できることを願っています。 楽典の分野から合唱曲などを理解し、難しい分野もありますが色々な音楽を楽しみましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観	I :知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点	【表現】	【表現】	態度 【表現・鑑賞】
観点の趣旨	歌唱表現に関わる地想と音楽の構造や歌詞、文化的葉の関わりや言葉の関わりや言葉の関わりや言葉を理解している。強重を理解している。というなどのでは、というなどのでは、というなどのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	音楽を形づくの関連を知覚し、 の関連を知覚し、 の関連を知りの の関連をもするに のように を表現 のように を表現 のように のように のとと の関連を のように のように のように のまの のとと の関連を のように のとと の関連を のように の関連を のまの のまの	主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

≐ π;	定期考査、歌唱テスト、ワーク	定期考査、ワークシート、小テ	小テストの結果、ワークシート
評	シート、小テスト	スト	の内容で評価。また、積極的に
価			歌唱に取り組む態度や発問に
方			対する反応と発言、提出物の内
法			容で評価。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学	単		主	に評	価		
子期	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
刔	名		Ι	П	Ш		
	合	合唱	0	0	0	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを	学習態度
	唱	「翼をください」他				持って表現する。	定期テスト
	斉	斉唱・独唱	0	0	0	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景	歌唱テスト
	唱	「Caro mio ben」				との関わりや言葉の特性と曲種を理解	定期テスト
	(イタリア語)					している。曲にふさわしい発声、イタリ	
		他				ア語の発音を理解し、表現している。	
	鑑	鑑賞	\circ	0	0	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高	
1	賞	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				め、バロック時代の特徴を聴き分けるこ	ト・定期考査
学		(バッハ、ヘンデル、ヴ				とができる。	
期		ィヴァルディ)					
			_				小テスト
	楽	楽典	0	0	0	音部記号や音符・休符を理解し、読譜に	定期テスト
	典	音部記号、日本音名・ド				適応できる。	
		イツ音名、音符・休符、					
		拍子					
	ĦΠ	即職 (年日の職 対兵の				→ 壮 幼 - 幼科幼児藤明の学羽江利に乗り	兴羽松本
	聖	聖歌(毎月の歌・礼拝の歌・礼拝の歌・吟歌の歌・ヴ			0	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り	学習態度
	歌	歌・降誕会法要の歌・学				組もうとしている。	
-	_	園歌)				歌却の中京と無根1 ウコのノナーバケ	公 33
	合品	合唱	0	0	0	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを	
	唱	コーラスコンクール曲				持って表現する。	定期テスト

		 他				主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り	
						組もうとしている。	
2	斉	斉唱・独唱曲	0	0	\circ	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景	歌唱テスト
学	唱	「野ばら」				との関わりや言葉の特性と曲種を理解	定期テスト
期	ョ						足別ノヘト
刔		(ドイツ語・日本語)				している。曲にふさわしい発声、ドイツ	
						語の発音を理解し、表現している。	
	鑑	鑑賞				再兴立水の吐瓜北見た 四 級 1	ロ・カミル
		•	0		0	西洋音楽の時代背景を理解し、関心を高	ワークシー
	賞	古典派時代の音楽(モ				め、古典派時代の特徴を聴き分けること	ト・定期考査
		ーツァルト、ベートー				ができる。	
		ヴェン、ハイドン)					
	\ 4 4	\t\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\					11
	楽	楽典	0		0	第1学期に学習した音部記号から音と音	
	典	音程(幹音・派生音)				の幅を数えることができる。音程の種類	正期アスト
						を理解している。	
	聖	即略 (毎日の略)				→	学 羽船
	至歌	聖歌(毎月の歌)			0	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り	学習態度
		△四 →四				組もうとしている。	24 22 45 24
	合品	合唱・斉唱	0	0	0	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを	
	唱	「さびしいカシの木」				持って表現している。	定期テスト
		「乾杯の歌」他					
	/m/	Nucl. Alfr					H 4.3
	鑑	鑑賞	0	0	0	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高	ワークシー
	賞	ロマン派・近代現代時				め、ロマン派・近代現代時代の特徴を聴	ト・定期考査
3		代の音楽(シューベル				き分けることができる。	
学		ト、ショパン、ヴェルデ					
期		イ)					
		who II					
	楽	楽典	0	0	0	各調性を理解し、井やりなどの調号を理	
	典	音階(調号)				解。初出の楽譜の調性を見分けることが	定期テスト
						できる。	
	聖	聖歌 (毎月の歌)			0	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り	学習態度
	歌					組もうとしている。	

教科	外国語	科目	英語	単位数	5	選択等	必修			
教件	(英語)	17 [コミュニケーションI	平位奴		医八子	北修			
教科書	Grove English Co	mmunica	ation I (文英堂)							
	Grove English Communication I 授業ノート(文英堂)									
	Grove English Communication1 I ワークブック(文英堂)									
副教材等	英単語ターゲット 1400 (旺文社)									
一 副教的寺	MY WAY 総合英語(三省堂)									
	MY WAY 総合英語 文法&ワーク(三省堂)									
	オンライン英会話 chatty									

1 学習の到達目標

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて、使用される語句や文などにおいて、多くの支援を活用することによって、表現できる力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

英語に接する時間が長ければ長いほど、力がつきます。

予習を必ずしましょう。

家庭学習として、英語を声に出して、発音練習を繰り返しましょう。

意味のわからない単語があったら、どんどん辞書で意味調べをしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観	 I:知識・技能(技術)	Ⅱ: 思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点	1 . 八中明 12月已 (3又7円)	11.心与"刊例" 汉先	態度
	外国語の4技能(話す、書く、	場面・目的・状況に応じて、日	他者を尊重し、聞き手・読み手・
	読む)について、実際のコミュ	常的な話題から時事問題や社	話し手・書き手に配慮しなが
5- H	ニケーションにおいて活用で	会問題まで幅広い話題につい	ら、外国語で聞いたり読んだり
観点	きる知識・技能を身に付けてい	て、情報や考えなどを外国語で	したことを活用して、自分の意
点	る。外国語の働きや役割などを	的確に理解したり適切に伝え	見や考えなどを表現しようと
趣	理解している。	合ったりしている。聞いたり読	している。言語やその情景にあ
旨		んだりしたことなどを活用し	る文化に対する関心を持って、
Ħ		て、自分の意見や考えなどを話	自律的、主体的に外国語を用い
		したり書いたりして表現して	てコミュニケーションを図ろ
		いる。	うとしている。
評	・学習状況	・学習状況	・学習状況
価	・確認テスト	・確認テスト	・確認テスト
方	・定期考査	・定期考査	• 定期考査

法	・発問への対応	・発問への対応	・発問への対応
		・オンライン英会話	・オンライン英会話

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

224	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
-		Lesson1 <grove></grove>	0	0	0	I:時制、基本的な文構造、様々な名詞	学習態度
1		$Lesson2\!<\!Grove\!>$	\circ	\circ	\circ	の働きをする表現を理解する。	確認テスト
学		文型	\circ	\circ	\circ	II:Listening、dictation で内容が把握	発問への反
期中		時制(進行形等)				できているか。	応
		<my way=""></my>			\circ	Ⅲ:課題について、またオンライン英会	課題
間		オンライン英会話				話で自分の考えを伝える。	
1		Lesson3 <grove></grove>	0	0	0	I:目的語の働きをする that 節、完了時	学習態度
学		$Lesson 4 {<} Grove {>}$	\circ	\circ	\circ	制、文型を理解する。	確認テスト
力期		時制(完了形)	\circ	\circ	\circ	II:Listening、dictation で内容が把握	発問への反
期		<my way=""></my>				できているか。	応
末		オンライン英会話			\circ	Ⅲ:課題について、またオンライン英会	課題
/K						話で自分の考えを伝える。	
		${\rm Lesson 5}{<}{\rm Grove}{>}$	\circ	\circ	\circ	I:関係詞、to 不定詞、助動詞を含む受	学習態度
2		$Lesson6\!<\!Grove\!>$	\circ	\circ	\circ	け身、名詞を修飾する分詞の使い方を理	確認テスト
学		助動詞 <my way=""></my>	\circ	\circ	\circ	解する。	発問への反
期		オンライン英会話			\circ	II:Listening、dictation で内容が把握	応
中						できているか。	課題
間						Ⅲ:課題について、またオンライン英会	
						話で自分の考えを伝える。	
		${\rm Lesson7}{<}{\rm Grove}{>}$	\circ	\circ	\circ	I:形式主語構文、文型、動詞の後が	学習態度
2		$Lesson8 {<} Grove{>}$	0	0	\circ	「O+to 不定詞」 になる形、比較表現を理	確認テスト
学		動詞の態	\circ	\circ	\circ	解する。	発問への反
期		<MY WAY $>$				II:Listening、dictation で内容が把握	応
期		オンライン英会話			\circ	できているか。	課題
末						Ⅲ:課題について、またオンライン英会	
						話で自分の考えを伝える。	
		Lesson9 <grove></grove>	\circ	\circ	\circ	I : 関係副詞、仮定法、完了進行形を理	学習態度

3	不定詞< MY WAY >	0	0	0	解する。	確認テスト
学	オンライン英会話	0	0	\circ	II:Listening、dictation で内容が把握	発問への反
期					できているか。	応
					Ⅲ:課題について、またオンライン英会	課題
					話で自分の考えを伝える。	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科専攻選択コース シラバス

教科	外国語	科目	ブラッシュアップ	ップ単位数		選択等	必修				
教件	(英語)	行日	English	中征剱	1	医扒子	必修				
教科書	なし	なし									
	MY WAY マイウェイ総合英語(三省堂)										
副教材 MY WAY マイウェイ総合英語 文法&ワーク (三省堂)											
	プリントなど										

1 学習の到達目標

英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなど を的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。英文法を中心に問題演習を重ね、目標 とする英語検定の級に合格する。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

基礎的な語彙力と文法力を高めて、読む・聞く・書く・話すことでの4技能を高められるように取り組みましょう。積極的に英語検定の受験をして、より高い受験級の合格を目指しましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	外国語の4技能(話す、書く、 読む)について、実際のコミュ ニケーションにおいて活用で きる知識・技能を身に付けてい る。外国語の働きや役割などを 理解している。	場面・目的・状況に応じて、日 常的な話題から時事問題や社 会問題まで幅広い話題につい て、情報や考えなどを外国語で 的確に理解したり適切に伝え 合ったりしている。聞いたり読 んだりしたことなどを活用し て、自分の意見や考えなどを話 したり書いたりして表現して いる。	他者を尊重し、聞き手・読み 手・話し手・書き手に配慮しな がら、外国語で聞いたり読んだ りしたことを活用して、自分の 意見や考えなどを表現しよう としている。言語やその情景に ある文化に対する関心を持っ て、自律的、主体的に外国語を 用いてコミュニケーションを 図ろうとしている。
評価方法	・学習状況・確認テスト・発問への対応	・学習状況・確認テスト・発問への対応・英検の結果	・学習状況・確認テスト・発問への対応・英検の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について〇をつけている。

学			主	主に評価			
期	単元名	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
79 1			Ι	П	Ш		
			0	0	0	I:時制、進行形、未来表現の形・使い方	学習態度
1		動詞の種類と時制①				を理解する。	確認テスト
学	安					完了形、完了進行形、文の要素、第 1	発問への反応
期	第一章	動詞の種類と時制②				文型~第 5 文型、There[Here]+be 動詞	課題
中	第二章	<my way="" 総合英語=""></my>				+主語について理解する。	
間						Ⅱ:英作文等、英語で表現する力を養う。	
						Ⅲ:課題について、自分の考えを伝える。	
4			\circ	0	0	I:英語の総合的な文法力、読み、書く能	学習態度
1 学	第三章	助動詞				力、話す能力を養う。	確認テスト
		<my way="" 総合英語=""></my>				基本的な助動詞と、「助動詞+have+過	発問への反応
期						去分詞」について理解する。	課題
期土	英検	英語検定団体受験対策				Ⅱ:英作文等、英語で表現する力を養う。	
末						Ⅲ:課題について、自分の考えを伝える。	
			\circ	\circ	0	I:英語の総合的な文法力、読み、書く能	学習態度
						力、話す能力を養う。	確認テスト
2	本や	艾莉拉宁田 比亞齡 拉笙				基本的な受動態の形や by を使わない	発問への反応
学	英検	英語検定団体受験対策				受動態、いろいろな受動態の形(句動	課題
期	쓛Ⅲ	巫卦此				詞、完了形、進行形)について理解す	
中	第四章	受動態				る。	
間		< MY WAY 総合英語>				Ⅱ:Listening で内容が把握できているか。	
						英作文等、英語で表現する力を養う。	
						Ⅲ:課題について、自分の考えを伝える。	
			\circ	\circ	0	I:基本的な不定詞(名詞的用法、形容詞	学習態度
						的用法、副詞的用法)や自動詞+不定	確認テスト
						詞、SVO+不定詞、疑問詞+不定詞、	発問への反応
2	<i>***</i>	→				いろいろな形の不定詞(進行形、受動	課題
学	第五章	不定詞				態、完了形、否定形)を理解する。	英検の結果
期	第六章	動名詞				基本的な動名詞やいろいろな形の動	
期		< MY WAY 総合英語>				名詞(否定形、受動態、完了形、意味	
末						上の主語)を理解する。	
						Ⅱ: 英作文等、英語で表現する力を養う。	
						Ⅲ:課題について、自分の考えを伝える。	

	第七章	分詞	\circ	\circ	\circ	I:基本的な分詞(現在分詞や過去分詞)や	学習態度
3		< MY WAY 総合英語>				知覚動詞・使役動詞と分詞、分詞構	確認テスト
学						文を理解する。	発問への反応
期						Ⅱ:英作文等、英語で表現する力を養う。	課題
						Ⅲ:課題について、自分の考えを伝える。	英検の結果

2024 年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語コミュニケーションI	単位数	4	選択等	必修			
教科書	Grove English Co	mmunica	ation I (文英堂)							
	Grove English Communication I FILL-IN NOTEBOOK 授業ノート(文英堂)									
百川 <i>本</i> 4+十十 <i>左</i> 5	Grove English Communication I ワークブック(文英堂)									
副教材等 英単語ターゲット 1400 (旺文社)										
	CHATTY 英会話									

1 学習の到達目標

- ア 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図 を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- イ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図 を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- ウ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え 合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
- エ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- オ 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

英文中の基礎文法や内容を理解していき、情報を的確に整理しながら英語を学びましょう。読む、聞く、話す、書くことで4技能をそれぞれ駆使して英語を学んでいきましょう。間違いや失敗を恐れずに積極的に英語を使う姿勢を大事にしていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
	外国語の音声や語彙,表現,文	コミュニケーションを行う目	
	法, 言語の働きなどの理解を深	的や場面, 状況などに応じて,	外国語の背景にある文化に対
観	めるとともに,これらの知識	日常的な話題や社会的な話題	する理解を深め、聞き手、読み
点	を, 聞くこと, 読むこと, 話す	について,外国語で情報や考え	手, 話し手, 書き手に配慮しな
0	こと, 書くことによる実際のコ	などの概念や要点,詳細,話し	がら, 主体的, 自律的に外国語
趣	ミュニケーションにおいて、目	手や書き手の意図などを的確	を用いてコミュニケーション
旦	的や場面、状況などに応じて適	に理解したり、これらを活用し	を図ろうとする態度を身に付
	切に活用する技能を身に付け	て適切に表現したり伝え合っ	けている.
	ている.	たりする力を身に付けている.	
評価方法	小テスト・定期考査	小テスト・定期考査 オンライン英会話	授業中の活動,発表 オンライン英会話 課題の提出 など

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容		る観		単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名	7 11 7 1	I	П	Ш	170 (213) - 11 1142	H 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
1 学 期		Lesson 1 Communication with People Around the World	0	0	0	 [題材・内容] ・日常表現におけるしぐさについて知る。 ・よいコミュニケーションのために何が必要であるかを理解する。 ・コミュニケーションについて意見を交換したり、説明したりする。 [文型・文法事項] 主部と述部 / 「S+V」「S+V+C」「S+V+O」/現在・過去・未来を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。 	学習態度確認テスト発問への反応課題
为 中間		Lesson 2 Pets and Humans: Together Through Time	0	0	0	[題材・内容] ・人気のあるペットについて知る. ・長い歴史における人間とペットの関係の変化について理解する. ・ペットや動物について意見を交換する. [文型・文法事項] 名詞句 / to 不定詞(名詞的用法) / 動名詞を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする.	
		Lesson 3 Musubi—Ties and	0	0	0	[題材・内容]・日常のさまざまなシーンにおける結び	学習態度 確認テスト
		Knots				について知る.	発問への反
1						・古来、日本人が結びに込めたさまざま	応
学						な願いについて理解する.	課題
期						・結びについて意見を交換したり、意味	
期						を説明したりする.	
末					0	[文型・文法事項]「S+V+O1+O2」 / 「S+V+O+C」 / 進行形を理解して、聞いたり、読んだり、	

		ı	ı			
					書いたり, 話したりする.	
	Lesson 4	0	0	0	 [題材・内容]	
	The power of				・キノコを用いたいろいろな料理につい	
	Mushrooms				て知る。	
	Wushrooms					
					・自然界においてキノコが果たす役割に	
					ついて理解する.	
					・日本の森やキノコなどについて意見を	
					交換する.	
					「李刑、李沙東百]	
					[文型・文法事項]	
					現在完了形 / 過去完了形 / 「S+V+O	
					(=that 節)」を理解して、聞いたり、	
					読んだり、書いたり、話したりする.	
	Lesson 5	0	0	\circ	[題材・内容]	学習態度
	Braille Neue:				・日常生活で見られる点字等の工夫につ	確認テスト
	Connecting Dots with				いて知る.	発問への反
	Lines				- ・点字とデザインについて読み取る.	応
					 ・デザインについて意見を交換したり,	課題
					インタビューに答えたりする.	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
					 「文型・文法事項]	
					受け身 / 分詞の形容詞的用法 / 助動詞	
					を含む受け身 / to 不定詞(形容詞的用	
2					法)を理解して、聞いたり、読んだり、	
学					書いたり, 話したりする.	
期						
中						
間	Lesson 6	0	0	\circ	[題材・内容]	
	Is This Meat Real or				・日本人の好きな代表的な料理について	
	Fake?				知る.	
					・食糧問題・環境問題を解決するために	
					 代替肉の果たす役割について理解する.	
					・食料品生産の新しい技術について意見	
					を交換したり、インタビューに答えたり	
					,	
					する.	
					F (TT)	
					[文型・文法事項]	
					関係代名詞(主格) / to 不定詞(副詞的	

	Lesson 7	0	0	0	用法) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what を理解して, 聞いたり, 読んだり, 書いたり, 話したりする. [題材・内容]	学習態度
2 学	Plastic Polluting Our Oceans				 ・日本のペットボトルの年間出荷本数の 推移について知る。 ・プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響について理解する。 ・プラスチックごみが環境に与える影響について意見を交換する。 「文型・文法事項」 比較 / 「It is+~ (for~) + to 不定詞」/ 「S+V+O1+O2 (=that 節) / 「S+V+O+to 不定詞」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。 	確認テスト 発 問 へ の 反 応 課題
期末	Lesson 8 Manga: A Global Hit!	0	0	0	 [題材・内容] ・マンガで用いられる独特な表現について知る。 ・世界に広がる日本のマンガ文化について理解する。 ・マンガについて意見を交換したり、会話したりする。 [文型・文法事項] 	
					「S+V+O+ C(=原形不定詞)」 / 「It is+ 形容詞 [名詞] +that 節」 / 「S+V+O(=疑問詞節など)」 / 「S+V+O+C(=現在分 詞)を理解して, 聞 いたり, 読 んだり, 書 いたり, 話 したりす る.	
3 学 期	Lesson 9 The Mysteries and Secrets of Petra	0	0	0	[題材・内容]・諸外国の文化の側面を知る。・ペトラ遺跡の歴史 ・文化について理解する。	学習態度 確認テスト 発問への反 応

Lesson 10 Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference	0	0	0	 ・ペトラ遺跡の謎について意見を交換する。 [文型・文法事項] 関係副詞(when, where) / 関係副詞(why, how) / 仮定 法過去 / 完了進行形を理解 して, 聞いたり, 読んだり, 書いたり, 話したりする。 「題材・内容] ・諸外国の文化の側面を知る。 ・ペトラ遺跡の歴史・文化について理解する。 	課題
Make a Difference				・ペトラ遺跡の謎について意見を交換する. [文型・文法事項] 関係副詞(when, where) / 関係副詞 (why, how) / 仮定 法過去 / 完了進行形を理解 して, 聞い たり, 読んだり, 書 いたり, 話したりする.	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語コミュニケーション I	単位数	5	選択等	必修						
教科書	New Edition Grove English Communication I (文英堂)												
	新ユメタン 0 (アルク)												
可以本化十十六六	英単語ターゲット 1900(旺文社)												
副教材等	Sprinter English Grammar in 33 stages(数研出版)												
	チャート式 基礎からの新総合英語 (数研出版)												

1 学習の到達目標

日頃から小テストを実施することにより短期的な目標をもち、それを継続していくことで英語学習を習慣化していきます。そして、中学の既習事項を確認しながら基本事項をしっかりとおさえ、長文読解・英文法などを総合的に学習します。説明、評論、物語、随筆などあらゆる形態の文章を読みすすめることで、英文に自体に慣れ大意を理解できること、また速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方ができるようになることを目指します。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

授業内でたくさんの英文に触れ、語彙力を伸ばすとともに、付随する様々な事柄に関心を持ち、自らすす んで探究する姿勢をもちましょう。言語学習は、毎日継続して関わり習慣化していくことが大切です。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ: 思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点	1 . 邓峨 12形 (1277)	II. 心与、刊例、衣先	態度
	外国語の4技能(話す、書く、	日常的な話題から時事問題や	言語やその背景にある文化に
	聞く、読む)を実践すべく、そ	社会問題まで幅広い話題につ	対する関心を持って、自律的、
観	の土台となる知識・技能を身に	いて、情報や考えなどを外国語	主体的に外国語を用いてコミ
点	付けている。外国語の学習を通	で的確に理解したり適切に伝	ュニケーションを図ろうとし
の	じて、言語の働きや役割などを	え合ったりしている。聞いたり	ている。
趣	理解している。	読んだりしたことなどを活用	
旨		して、自分の意見や考えなどを	
		話したり書いたりして表現し	
		ている。	
評	・提出課題	・プレゼン、発表	・プレゼン、発表
価	・学習状況	・定期考査	・オンライン英会話
方	・確認テスト	・提出課題	・発問への対応
法	・定期考査	・確認テスト	・課題への取り組み、積極性

上記に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I: 知識・技能 II: 思考・判断・表現 III: 主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について \bigcirc をつけている。

	単		主	に評	価		
学	元	学習内容	す	る観	点	単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		I	П	Ш		
						[題材・内容]	学習態度
						「言語学習の重要性について。」	MetaMoji 学習
						「第二言語としての英語習得の意義。」	単語テスト
						・本文の大意を理解し設問に答える。	単元テスト
						・与えられたテーマに関する内容を発	中間考査
		1) 1				表・共有する。	オンライン英会話
1		1) Language and	0	0	\circ	・文法事項を理解し発展問題にも対応で	
学		Culture				きるようにする。	
期中		2) That's your opinion				・相手の意見を理解し、自分の意見を英	
中		オンライン英会話				語で積極的に相手に伝える。	
間		英語検定対策				[文型・文法事項]	
						・文の種類	
						・文型「S+V」「S+V+C」「S+V+O」	
						$\lceil S+V+O1+O2 \rfloor \lceil S+V+O+C \rfloor$	
						・基本時制(現在、過去、未来)、進行形	
						・前置詞と接続 as の用法。	
						[題材・内容]	学習態度
						「アメリカと日本の差異について考察	MetaMoji 学習
						し、自国の文化と慣習を振り返る。」	単語テスト
						「現代のロボットと人の関わり方。」	単元テスト
						「自転車の歴史に関する説明。」	期末考査
1		3) English English				・本文の大意を理解し設問に答える。	オンライン英会話
学		4) 広がるロボットの	\circ	0	\circ	・与えられたテーマに関する内容を発	
期		用途				表・共有する。	
期		5) 自転車の進化				・文法事項を理解し発展問題にも対応で	
末		6) ペットを買う理由				きるようにする。	
		オンライン英会話				・相手の意見を理解し、自分の意見を英	
		模試対策				語で積極的に相手に伝える。	
		英語検定対策				[文型・文法事項]	
						完了形 (現在完了形/過去完了形/未来	
						完了形/完了進行形)	
						助動詞	

2 学 期 中 間	7) 大統領の日 8) 環境のためにできること 9) 人生を楽しむには 10) 奇妙な漂流記 オンライン英会話	0	0	0	「ジョージ・ワシントンの誕生日にまつわる説明文」 「浪費が与える環境への影響」 「世界と比較する日本人の労働時間」 「プラスチック製の玩具漂流事件」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] 受動態(否定文/疑問文) 不定詞(名詞的用法/形容詞的用法/副詞的用法/形式主語/原形不定詞「S+V+O+C(=原形不定詞)」)	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査 オンライン英会話
2 学 期 期 末	11) サイとロバの友情 12)ヘリコプターペア レント 13)「彼女たち」の短い が裕福な生涯 14) 大衝撃音の正体 は? オンライン英会話 模試対策 英語検定対策				[題材・内容] 「非常に異なった生き物間で関係が作り上げられる事例」 「ヘリコプターペアレントと呼ばれる子どもを管理・監視する両親の実態」「ショーウィンドウに並ぶマネキンについて」 「インドネシアで起こった噴火音が3,200キロメートル離れた場所に到達した事例」 ・本文の大意を理解し設問に答える。・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] 動名詞 分詞(現在分詞/過去分詞) /分詞構文(「〜なので」、「〜するとき」)/ 数量表現	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査 オンライン英会話

					[題材・内容]	学習態度
					「外見から与えられる偏見の目につい	MetaMoji 学習
					て考え、議論する」	単語テスト
					「月の誕生説についての考察文」	単元テスト
	15) 小さな偏見				「庁舎建設をめぐる問題」	学年末考査
	16) 月の誕生	\circ	\circ	\circ	・本文の大意を理解し設問に答える。	オンライン英会話
3	17) 正直な官僚				・与えられたテーマに関する内容を発	
学	オンライン英会話				表・共有する。	
期	模試対策				・文法事項を理解し発展問題にも対応で	
别	英語検定対策				きるようにする。	
					・相手の意見を理解し、自分の意見を英	
					語で積極的に相手に伝える。	
					[文型・文法事項]	
					関係詞/関係副詞/仮定法/仮定法過	
					去・仮定法過去完了/関係副詞の非制限	
					用法	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語(英語)	科目	論理・表現 I	単位数	2	選択等	必修				
教科書	EARTHRISE English Logic and Expression I Standard(数研出版)										
可以为什么	Listening Labora	tory Basi	cα(数研出版)								
副教材等	Listening Labora	tory Basi	с В (数研出版)								

1 学習の到達目標

(1) 話すこと「やり取り]

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を 活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用 しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと ができるようにする。

(2) 話すこと [発表]

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を 活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用 しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝える ことができるようにする。

(3) 書くこと

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を 活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張など を論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
 - (4) 聞くこと

毎時間にリスニング用副教材を用いて、基礎的なリスニング力を修得する。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

積極的にスピーチ、プレゼンテーションディベート、ディスカッションを英語でするためには、まずは文 法力や語彙力の修得により、正しい英文を発信できるかが大切です。文法事項や語彙を確認しながら、教 科書を勉強していきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	習得すべき知識や重要な概念 等を理解している。それらを既 有の知識及び技能と関連付け たり活用したりする中で、概念 等として理解したり、技能を習 得したりしている。	知識及び技能を活用して課題 を解決する等のために必要な 思考力、判断力、表現力等を身 に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思 考力、判断力、表現力等を身に 付けたりすることに向けた粘 り強い取組の中で、自らの学習 を調整しようとしている。
評価方法	・提出課題・学習状況・確認テスト・定期考査	・ディスカッション、発表・提出課題・確認テスト・定期考査	・ディスカッション、発表・発問への対応・課題への取り組み、積極性

上記に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度 ※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において 特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学	単元	学習内容	主に評価する観点			単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名	7 []	I	П	Ш	7,55 (C)13,7 (F) [ACA 1	A 1 1123 12
1 学 期 中 間		Part 1: Basic Expressions Lesson 1 Communication with People Around the World	0	0	0	[題材・内容] 「紹介」をテーマに、5つの文型を用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) クラスメートに名前と住んでいる場所、中学校のときのクラブ活動について質問し合う。 B. Speak (Presentation) クラスメートについての発表を20秒程度で行う。 C. Write 40 語程度で自己紹介文を書く。	

Lesson 2	\circ	\circ	\circ	[題材・内容]	
How do you spend				「週末の過ごし方」をテーマに、動詞の	学習態度
your weekend?				現在形・過去形・未来を表す表現を用い	MetaMoji 学習
				て表現する。各3領域につき以下を目標	単語テスト
				とする。	単元テスト
				A. Speak (Interaction)	週末課題
				自分が週末にしたことについてクラス	中間考査
				メートとやりとりして、情報を伝え合	
				う。	
				B. Speak (Presentation)	
				自分が週末にしたことについて20秒程	
				度で発表する。	
				C. Write	
				自分の休日の予定に関するテキストメ	
				ッセージを 30 語程度で書く。	
Lesson 3	0	\circ	0	[題材・内容]	
Where did you go on				「旅行」をテーマに、完了形(現在完了	
vacation?				形/過去完了形)を用いて表現する。各	
				3領域につき以下を目標とする。	
				A. Speak (Interaction)	
				「これまで自分が訪れた場所の中で最	
				もよかった場所」についてクラスメート	
				とやりとりして、情報を伝え合う。	
				B. Speak (Presentation)	
				「これまで自分が訪れた場所の中で最	
				もよかった場所」について20秒程度で発	
				表する。	
				C. Write	
				「最近自分が行った旅行に関するブロ	
				グ」を 40 語程度で書く。	
Lesson 4	0	0	0	[題材・内容]	
How can I get there?				「道案内」「謝罪のメール」をテーマに、	
				助動詞can、may、must、have toを用い	
				て表現する。各3領域につき以下を目標	
		\circ	\circ	とする。	
				A. Speak (Interaction)	
				クラスメートとルートを案内するロー	
				ルプレイを行う。	
				B. Speak (Presentation)	

1			l	Γ	
				謝罪のメール文を 40 語程度で書く。	
Losson 5				[顆粒•内容]	
come with me:					学習態度
				·	
					MetaMoji 学習
					単語テスト
				•	単元テスト
					週末課題
					期末考査
				_	
				プレイをクラスで実演する。	
				る文章を 30 語程度で書く。	
Lesson 6			0	[題材・内容]	
dapanese					
				•	
				•	
				ルを 40 語程度で書く。	
Lesson 7	0	0	0	[題材・内容]	
Plastic Polluting Our				・日本のペットボトルの年間出荷本数の	
Oceans				 推移について知る。	
				・プラスチックごみが海や海洋生物に与	
				ラス製郷について珊姫士ス	
				んの影響について理解する。	
	Plastic Polluting Our	Lesson 6 Something really Japanese Lesson 7 Plastic Polluting Our	Lesson 6 Something really Japanese Lesson 7 Plastic Polluting Our	Would you like to come with me? Lesson 6 Something really Japanese Lesson 7 Plastic Polluting Our	Losson 5 Would you like to come with me? Description Pastic Polluting Our Oceans Description Descriptio

					について意見を交換する。	
					[文型・文法事項]	
					比較/It is+~ (for~) + to不定詞/	
					S+V+O1+O2 (=that節)	
					/S+V+O+to 不定詞」を理解して、聞いた	
					り、読んだり、書いたり、話したりする	
2						
学					[題材・内容]	
期	Lesson 8	0	0	0	「学校生活」をテーマに、〈want+O+	学習態度
中	Let's enjoy school life!				to do〉, 〈let[make]+O+do〉などを用	MetaMoji 学習
間					いて表現する。各3領域につき以下を目	単語テスト
					標とする。	単元テスト
					A. Speak (Interaction)	週末課題
					部活動に関してクラスメートとインタ	
					ビューし合う。	
					B. Speak (Presentation)	
					部活動に関するインタビューの会話を	
					クラスで実演する。	
					C. Write	
					ジャップ ジャップ	
					程度で書く。	
					性反く盲へ。	
					[題材・内容]	
	Lesson 9	0	0	0	「環境問題」をテーマに、doing (動名詞)	
					を用いて表現する。各3領域につき以下	
	Are you eco-friendly?					
					を目標とする。	
					A. Speak (Interaction)	
					環境保護のためにできることについて	
					クラスメートとやり取りして、情報を伝	
					え合う。	
					B. Speak (Presentation)	
					環境保護のために自分がしていること	
					について30秒程度で発表する。	
					C. Write	
					環境保護についてのスピーチ原稿を 40	
					語程度で書く。	

	Lesson 10			0	[題材・内容]	
					「スポーツ」をテーマに、doing/done(分	
	What sports do you like?				詞)を用いて表現する。各3領域につき以	
	like:				下を目標とする。	
					A. Speak (Interaction)	
					スポーツイベントについてクラスメー	
					ハ	
					B. Speak (Presentation)	
					スポーツイベントについてのインタビ	
					ューの会話をクラスで実演する。	
					C. Write	
					6. ***********************************	
					ログを 40 語程度で書く。	
	Lesson 11			0	 [題材・内容]	
	That's new to me!				さまざまな国の労働時間や祝日の数」	
					「野菜とくだものの違い」をテーマに、	
					$\langle \sec + O + doing \rangle$, strictly speaking \uparrow	学習態度
2					どを用いて表現する。各3領域につき以	MetaMoji 学習
学					 下を目標とする。	単語テスト
期					A. Speak (Interaction)	単元テスト
期					 さまざまな国の労働時間や祝日の数に	週末課題
末					一ついての情報をもとに、クラスメートと	期末考査
					やり取りしてその情報を伝え合う。	
					B. Speak (Presentation)	
					さまざまな国の労働時間や祝日の数に	
					ついて30秒程度で発表する。	
					C. Write	
					野菜とくだものの違いについてのパラ	
					グラフを 40 語程度で書く。	
	Lesson 12	0	0	0	[題材・内容]	
	Which Nobel Prize				「日本人のノーベル賞受賞者」「自分が	
	winner do you adm	ire			尊敬する人物」をテーマに、who、which	
	most?				などを用いて表現する。各3領域につき	
					以下を目標とする。	
					A. Speak (Interaction)	
					ノーベル賞受賞者についてクラスメー	
					トとやりとりして、情報を伝え合う。	
					B. Speak (Presentation)	

					自分が選んだノーベル賞受賞者につい	
					て20秒程度で発表する。	
					C. Write	
					C. write 自分の尊敬する人についてのパラグラ	
					フを 30 語程度で書く。	
	T 10					
	Lesson 13	0	0	0	[題材・内容]	
	I'm interested in				「歴史的な人物・建物」をテーマに、	
	history				when、where、howなどを用いて表現す	
					る。各3領域につき以下を目標とする。	
					A. Speak (Interaction)	
					歴史上の偉人についてクラスメートと	
					やりとりして、情報を伝え合う。	
					B. Speak (Presentation)	
					自分が選んだ歴史上の偉人について30	
					秒程度で発表する。	
					C. Write	
					日本の歴史的建造物について紹介する	
					パラグラフを 40 語程度で書く。	
	Lesson 14	0	0	0	[題材・内容]	
	Various countries				「世界の国々」をテーマに、as as	
	around the world				er[more $\sim\sim$] , not as as , est[most	
					などを用いて表現する。各 3 領域につき	
					以下を目標とする。	
					A. Speak (Interaction)	
					自分が行きたい国などについてクラス	
					メートとやりとりして、情報を伝え合	学習態度
					う。	MetaMoji 学習
3					B. Speak (Presentation)	単語テスト
学					自分が行きたい国などについて 30 秒程	単元テスト
期					度で発表する。	週末課題
					C. Write	週不課題 学年末考査
					2 つの都市の気候の違いについて説明す	于 十八万里
					るレポートを 40 語程度で書く。	
	Lesson 15	0	0	0	[題材・内容]	
	What job are you				「未来の自分」をテーマに、IfI 過去形	
	interested in?				[were] \sim , I would [could], If I had	
					done \sim 、I would [could] have done t	
					どを用いて表現する。各3領域につき以	

	下を目標とする。	
	A. Speak (Interaction)	
	自分が興味のある職業についてクラス	
	メートとやりとりして、情報を伝え合	
	う。	
	B. Speak (Presentation)	
	自分が興味のある職業について30秒程	
	度で発表する。	
	C. Write	
	26 歳の自分自身を想像して説明する文	
	章を 40 語程度で書く。	

[※]上記以外にも副教材としてのリスニング演習と、特進コースとして大学入試に対応するための基礎学力強化 を、補充教材を用いて行う。

2024年度 相愛高等学校 1年 音楽科 シラバス

【高校共通】

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	未来へつなぐ 家	庭基礎	365		(教育図書	書)	
	未来へつなぐ 家	庭基礎	365 マスターノート		(教育図書	書)	
副教材等	家庭科 55 デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ (教育図書)						
	ファイル(プリン	ト保存用)				

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に地域の生活を想像する資質・能力の育成を目指す。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

家庭生活に関心を持ち、問題意識を持って生活して欲しい。座学・実習を通して学んだ知識や技術を実生活の中で幅広く役に立ててください。

授業では自分では知らなかった新しい発見を追求し、常に新鮮な気持ちで臨んでください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など に関する知識や技術を総合的 に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など について生活の充実向上を図 るための課題を見いだし、その 解決を目指して思考を深め、適 切に判断し、工夫し創造する能 力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など について関心をもち、その充実 向上を目指して主体的に取り 組むとともに、実践的な態度を 身に付けている。
評価方法	行動観察、定期考査、製作品、 ワークシート、ワーク、 レポート など	行動観察、定期考査、製作品、 ワークシート、ワーク、 レポート など	行動観察、ワークシート、 ワーク、レポート、 発問への反応 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ:知識・技能 Ⅱ:思考・判断・表現 Ⅲ:主体的に学習に取り組む態度

学	単元	学習内容		に評る観		単元(題材)の評価基準	評価方法		
期	名	1 81 10	l			十九 (松州) 9月 岡坐十	日		
	衣 生 活	《実習》 聖典入れ製作	0		0	・高校生活で使用する聖典入れ製作を通 して、生活に役立つ物作りを主体的に取 り組もうとしている。	実技作品 行動観察 ワークシー ト		
1 学 期	生活設計1・自立	【A編】 第1章 生涯の生活設計1 1あなたの将来は? 第2章 青年期の自立と家族・ 家庭 1自立への一歩 2家族・家庭 3将来の自分の家庭	0	0	0	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・青年期の5つの自立について理解している。 ・職業の種類や意義についても理解し、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の一生をどう送るか、将来を想像しながら自分の問題として捉えようとしている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
	高 齢 社 会	第4章 高齢期の生活と福祉 1高齢期とは? 2高齢化する日本を生 きる	0	0		・高齢化が進む現状や高齢者を取り巻く 社会について知り、関心を持つ。 ・高齢者の立場に立って、未来の自分の 生活として捉え、意欲的に学習に取り組 もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
	保育	第3章 子どもの生活と保育 1子どもの成長の特徴 2子どもとかかわる 《実習》調理実習①	0	0	0	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義や文化について理解している。 ・子どもを取り巻く環境整備や社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・幼児食の調理実習を通して、調理の安全、衛生について関心を持ち、基礎的な技術を身に付けている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
夏休み	課題	ホームプロジェクト	0	0	0	・衣食住、保育、生活時間など自分に関 心のあることをテーマに設定し、解決に 向けて実践することができる。	レポート 発表		
2 学期	保育	3 これからの子育て 《実習》保育実習 子どものおもちゃ作り	0	0	0	・子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関りが重要であることが理解している。 ・子どもの遊びの意義を理解し、幼児に適したおもちゃ作りに取り組もうとしている。	行動観察 実技作品 ワークシー ト		

						・自分が将来、保育に関わる存在である	
						ことを理解し、積極的に関わろうとして	
						いる。	
						・自分の食生活に関心を持つことができ	
		第1章 食生活と健康				3.	
	食	1なぜ、ごはんを食べる				・栄養素の働きを理解し、バランスのと	行動観察
	生	σ?	0	0	0	れた食生活へつなげることができる。	ワーク
	活	2何を食べているの?				・調理に関する基本的な技術を身に付	定期考査
		3 安全に食べよう				け、食事のマナーについても理解しよう	
		《実習》調理実習②				としている。	
		第2章 衣生活と健康				・衣服の素材、性能などが理解できる。	
		1 衣服の役割				・衣服の製造には多くのエネルギーが使	<i>t</i> = -1 <i>t</i> = -1
	衣		(われることを知ることができる。	行動観察
	生	2 今後の衣生活	\circ	0		・衣服の原料から廃棄までの流れを知	ワーク
	活					り、環境などの知識を生かして、自分の	定期考査
						衣生活を改善しようとしている。	
		第3章 住生活と環境				・住宅の機能について理解し、住まいの	行動観察
	住	1住まいとは				計画の仕方を工夫し実践しようとして	作品
	生	2 住まいを計画する		\circ	0	いる。	ワークシー
	活	《実習》平面計画				・住居の安全性や防災についての知識を	F
		3持続可能な住まい				身に付けている。	定期考査
		【C編】					
		第 1 章生活のおける経				・生涯を見通した経済計画について必要	
	経	済の計画				な情報の収集や整理が適切にできる。	
	済	1将来に向けての家計					
		2 将来の経済計画				・将来の経済的なリスクについて、考え	
	消	第 2 章				ようとしている。	
3	費	消費生活と意思決定					行動観察
学	行	1 かしこい消費者にな	0	0	0	・消費者問題について自分ごととして捉	ワーク
期	動	ろう				えることができる。	定期考査
	•	第 3 章持続可能なライ					
	環	フスタイルと環境				・環境についての基礎的な知識を身に付	
	境	1 未来の地球環境は大				けている。	
		丈夫?				・SDGsと日々の生活とを関連付ける	
		2私たちにできること				ことができる。	
		は何だろう?					/
	生	生涯の生活設計 2				・経済的な自立に向けて、短期的な経済	行動観察
	活	1 自分の人生を豊かに	\circ	0	0	設計、長期的な経済設計が立てられるよ	ワークシー
	設	しよう				うになる。	

計	2 ライフプランニング		・自分らしいライフスタイルの実現を目	班活動での
2	《実習》ライフサイク		指して、自分の将来について具体的に考	取り組み
	ルゲーム		えようとしている。	定期考査

2024年度 相愛高等学校 1年 専攻選択コース シラバス

【高校共诵】

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	2	選択等	必修	
教科書	未来へつなぐ 家	庭基礎	365		(教育図書	書)		
	未来へつなぐ 家	庭基礎		(教育図書)				
副教材等	家庭科 55 デジタル	レ+資料集	テンツ	(教育図書)				
	ファイル(プリント保存用)							

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に地域の生活を想像する資質・能力の育成を目指す。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

家庭生活に関心を持ち、問題意識を持って生活して欲しい。座学・実習を通して学んだ知識や技術を実生活の中で幅広く役に立ててください。

授業では自分では知らなかった新しい発見を追求し、常に新鮮な気持ちで臨んでください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など に関する知識や技術を総合的 に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など について生活の充実向上を図 るための課題を見いだし、その 解決を目指して思考を深め、適 切に判断し、工夫し創造する能 力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など について関心をもち、その充実 向上を目指して主体的に取り 組むとともに、実践的な態度を 身に付けている。
評価方法	行動観察、定期考査、製作品、 ワークシート、ワーク、 レポート など	行動観察、定期考査、製作品、 ワークシート、ワーク、 レポート など	行動観察、ワークシート、 ワーク、レポート、 発問への反応 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ:知識・技能 Ⅱ:思考・判断・表現 Ⅲ:主体的に学習に取り組む態度

学	単元	学習内容		に評る観		単元(題材)の評価基準	評価方法		
期	名	1 81 10	l			十九 (松州) 9月 岡坐十	日		
	衣 生 活	《実習》 聖典入れ製作	0		0	・高校生活で使用する聖典入れ製作を通 して、生活に役立つ物作りを主体的に取 り組もうとしている。	実技作品 行動観察 ワークシー ト		
1 学 期	生活設計1・自立	【A編】 第1章 生涯の生活設計1 1あなたの将来は? 第2章 青年期の自立と家族・ 家庭 1自立への一歩 2家族・家庭 3将来の自分の家庭	0	0	0	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・青年期の5つの自立について理解している。 ・職業の種類や意義についても理解し、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の一生をどう送るか、将来を想像しながら自分の問題として捉えようとしている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
	高齢社会	第4章 高齢期の生活と福祉 1高齢期とは? 2高齢化する日本を生 きる	0	0		・高齢化が進む現状や高齢者を取り巻く 社会について知り、関心を持つ。 ・高齢者の立場に立って、未来の自分の 生活として捉え、意欲的に学習に取り組 もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
	保育	第3章 子どもの生活と保育 1子どもの成長の特徴 2子どもとかかわる 《実習》調理実習①	0	0	0	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義や文化について理解している。 ・子どもを取り巻く環境整備や社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・幼児食の調理実習を通して、調理の安全、衛生について関心を持ち、基礎的な技術を身に付けている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
夏休み	課題	ホームプロジェクト	0	0	0	・衣食住、保育、生活時間など自分に関 心のあることをテーマに設定し、解決に 向けて実践することができる。	レポート 発表		
2 学期	保育	3 これからの子育て 《実習》保育実習 子どものおもちゃ作り	0	0	0	・子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関りが重要であることが理解している。 ・子どもの遊びの意義を理解し、幼児に適したおもちゃ作りに取り組もうとしている。	行動観察 実技作品 ワークシー ト		

						・自分が将来、保育に関わる存在である	
						ことを理解し、積極的に関わろうとして	
						いる。	
						・自分の食生活に関心を持つことができ	
		第1章 食生活と健康				3.	
	食	1なぜ、ごはんを食べる				・栄養素の働きを理解し、バランスのと	行動観察
	生	σ?	0	0	0	れた食生活へつなげることができる。	ワーク
	活	2何を食べているの?				・調理に関する基本的な技術を身に付	定期考査
		3 安全に食べよう				け、食事のマナーについても理解しよう	
		《実習》調理実習②				としている。	
		第2章 衣生活と健康				・衣服の素材、性能などが理解できる。	
		1 衣服の役割				・衣服の製造には多くのエネルギーが使	<i>t</i> = -1 <i>t</i> = -1
	衣		(われることを知ることができる。	行動観察
	生	2 今後の衣生活	\circ	0		・衣服の原料から廃棄までの流れを知	ワーク
	活					り、環境などの知識を生かして、自分の	定期考査
						衣生活を改善しようとしている。	
		第3章 住生活と環境				・住宅の機能について理解し、住まいの	行動観察
	住	1住まいとは				計画の仕方を工夫し実践しようとして	作品
	生	2 住まいを計画する		\circ	0	いる。	ワークシー
	活	《実習》平面計画				・住居の安全性や防災についての知識を	F
		3持続可能な住まい				身に付けている。	定期考査
		【C編】					
		第 1 章生活のおける経				・生涯を見通した経済計画について必要	
	経	済の計画				な情報の収集や整理が適切にできる。	
	済	1将来に向けての家計					
		2 将来の経済計画				・将来の経済的なリスクについて、考え	
	消	第 2 章				ようとしている。	
3	費	消費生活と意思決定					行動観察
学	行	1 かしこい消費者にな	0	0	0	・消費者問題について自分ごととして捉	ワーク
期	動	ろう				えることができる。	定期考査
	•	第 3 章持続可能なライ					
	環	フスタイルと環境				・環境についての基礎的な知識を身に付	
	境	1 未来の地球環境は大				けている。	
		丈夫?				・SDGsと日々の生活とを関連付ける	
		2私たちにできること				ことができる。	
		は何だろう?					/
	生	生涯の生活設計 2				・経済的な自立に向けて、短期的な経済	行動観察
	活	1 自分の人生を豊かに	\circ	0	0	設計、長期的な経済設計が立てられるよ	ワークシー
	設	しよう				うになる。	

計	2 ライフプランニング		・自分らしいライフスタイルの実現を目	班活動での
2	《実習》ライフサイク		指して、自分の将来について具体的に考	取り組み
	ルゲーム		えようとしている。	定期考査

2024年度 相愛高等学校 1年 特進コース シラバス

【高校共涌】

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	2	選択等	必修	
教科書	未来へつなぐ 家	庭基礎		(教育図書)				
	未来へつなぐ 家	庭基礎	365 マスターノート		(教育図書	書)		
副教材等	家庭科 55 デジタノ	レ+資料集	テンツ	(教育図書)				
	ファイル(プリン	ト保存用						

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に地域の生活を想像する資質・能力の育成を目指す。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

家庭生活に関心を持ち、問題意識を持って生活して欲しい。座学・実習を通して学んだ知識や技術を実生活の中で幅広く役に立ててください。

授業では自分では知らなかった新しい発見を追求し、常に新鮮な気持ちで臨んでください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I:知識・技能	Ⅱ:思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む 態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など に関する知識や技術を総合的 に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など について生活の充実向上を図 るための課題を見いだし、その 解決を目指して思考を深め、適 切に判断し、工夫し創造する能 力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子ども や高齢者との関わりと福祉、消 費生活、衣食住、生活設計など について関心をもち、その充実 向上を目指して主体的に取り 組むとともに、実践的な態度を 身に付けている。
評価方法	行動観察、定期考査、製作品、 ワークシート、ワーク、 レポート など	行動観察、定期考査、製作品、 ワークシート、ワーク、 レポート など	行動観察、ワークシート、 ワーク、レポート、 発問への反応 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ:知識・技能 Ⅱ:思考・判断・表現 Ⅲ:主体的に学習に取り組む態度

学	単元	学習内容		に評る観		単元(題材)の評価基準	評価方法		
期	名	1 81 10	l			十九 (松州) 9月 岡坐十	日		
	衣 生 活	《実習》 聖典入れ製作	0		0	・高校生活で使用する聖典入れ製作を通 して、生活に役立つ物作りを主体的に取 り組もうとしている。	実技作品 行動観察 ワークシー ト		
1 学	生活設計1・自立	【A編】 第1章 生涯の生活設計1 1あなたの将来は? 第2章 青年期の自立と家族・ 家庭 1自立への一歩 2家族・家庭 3将来の自分の家庭	0	0	0	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・青年期の5つの自立について理解している。 ・職業の種類や意義についても理解し、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の一生をどう送るか、将来を想像しながら自分の問題として捉えようとしている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
期	高齢社会	第4章 高齢期の生活と福祉 1高齢期とは? 2高齢化する日本を生 きる	0	0		・高齢化が進む現状や高齢者を取り巻く 社会について知り、関心を持つ。 ・高齢者の立場に立って、未来の自分の 生活として捉え、意欲的に学習に取り組 もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
	保育	第3章 子どもの生活と保育 1子どもの成長の特徴 2子どもとかかわる 《実習》調理実習①	0	0	0	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義や文化について理解している。 ・子どもを取り巻く環境整備や社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・幼児食の調理実習を通して、調理の安全、衛生について関心を持ち、基礎的な技術を身に付けている。	行動観察 ワーク ワークシー ト 定期考査		
夏休み	課題	ホームプロジェクト	0	0	0	・衣食住、保育、生活時間など自分に関 心のあることをテーマに設定し、解決に 向けて実践することができる。	レポート 発表		
2 学期	保育	3 これからの子育て 《実習》保育実習 子どものおもちゃ作り	0	0	0	・子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関りが重要であることが理解している。 ・子どもの遊びの意義を理解し、幼児に適したおもちゃ作りに取り組もうとしている。	行動観察 実技作品 ワークシー ト		

						・自分が将来、保育に関わる存在である	
						ことを理解し、積極的に関わろうとして	
						いる。	
						・自分の食生活に関心を持つことができ	
		第1章 食生活と健康				3.	
	食	1なぜ、ごはんを食べる				・栄養素の働きを理解し、バランスのと	行動観察
	生	σ?	0	0	0	れた食生活へつなげることができる。	ワーク
	活	2何を食べているの?				・調理に関する基本的な技術を身に付	定期考査
		3 安全に食べよう				け、食事のマナーについても理解しよう	
		《実習》調理実習②				としている。	
		第2章 衣生活と健康				・衣服の素材、性能などが理解できる。	
		1 衣服の役割				・衣服の製造には多くのエネルギーが使	<i>t</i> = -1 <i>t</i> = -1
	衣		(われることを知ることができる。	行動観察
	生	2 今後の衣生活	\circ	0		・衣服の原料から廃棄までの流れを知	ワーク
	活					り、環境などの知識を生かして、自分の	定期考査
						衣生活を改善しようとしている。	
		第3章 住生活と環境				・住宅の機能について理解し、住まいの	行動観察
	住	1住まいとは				計画の仕方を工夫し実践しようとして	作品
	生	2 住まいを計画する		\circ	0	いる。	ワークシー
	活	《実習》平面計画				・住居の安全性や防災についての知識を	F
		3持続可能な住まい				身に付けている。	定期考査
		【C編】					
		第 1 章生活のおける経				・生涯を見通した経済計画について必要	
	経	済の計画				な情報の収集や整理が適切にできる。	
	済	1将来に向けての家計					
		2 将来の経済計画				・将来の経済的なリスクについて、考え	
	消	第 2 章				ようとしている。	
3	費	消費生活と意思決定					行動観察
学	行	1 かしこい消費者にな	0	0	0	・消費者問題について自分ごととして捉	ワーク
期	動	ろう				えることができる。	定期考査
	•	第 3 章持続可能なライ					
	環	フスタイルと環境				・環境についての基礎的な知識を身に付	
	境	1 未来の地球環境は大				けている。	
		丈夫?				・SDGsと日々の生活とを関連付ける	
		2私たちにできること				ことができる。	
		は何だろう?					/
	生	生涯の生活設計 2				・経済的な自立に向けて、短期的な経済	行動観察
	活	1 自分の人生を豊かに	\circ	0	0	設計、長期的な経済設計が立てられるよ	ワークシー
	設	しよう				うになる。	

計	2 ライフプランニング		・自分らしいライフスタイルの実現を目	班活動での
2	《実習》ライフサイク		指して、自分の将来について具体的に考	取り組み
	ルゲーム		えようとしている。	定期考査

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	教養	科目	吹奏楽	単位数	1	選択等	選択
教科書	なし						
副教材等	楽器・楽譜						

1 学習の到達目標

- ・演奏を通じて自己表現が出来るようになる。
- ・楽器への知識を深め演奏技術を高める。
- ・楽曲への理解を深められるようになる。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

演奏することにより、自己表現する力を身につけ聴いて頂く方に感動を伝えられるようになりましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ : 思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む
点	1 . 邓峨 12形 (127/11)	11. 心气、刊图、衣先	態度
観	・演奏する楽器に関心を持	・楽曲や時代背景について知識	・発言等を積極的に行う。
点	つ。	を深め、自らの演奏技術によっ	・自ら技術向上の為にどの様な
0	・意欲的に音質向上に向け取	て表現する。	トレーニングをしたら良いの
趣	り組む。	・楽譜に書かれている楽語につ	かを考えられるようになる。
計		いて理解を深める。	
評	・実技(演奏会)により評価。	・実技(演奏会)により評価。	• 学習状況
価	• 学習状況	• 学習状況	・発問への対応
方	・発問への対応	・発問への対応	
法			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単		主に記	平価		
,	元	学習内容	する観点		単元(題材)の評価基準	評価方法
期	名		І П	Ш		

		基礎練習	0	\circ	\circ	よりよい音色をだせるようにトレーニ	学習状況
1	_	音程や音色のチェック				ングする。	実技試験
学	合					曲を通じて、ただ演奏するのではなく、	
期	奏					音楽表現を豊かにし、自分が伝えたい音	
						楽を演奏できるようにする。	
2		曲に応じて効果的な練	0	0	\circ	音価について理解し、楽譜に忠実な演奏	学習状況
学	合	習方法や時代背景を学				が出来るようになる。	実技試験
子期	奏	\$				フレージングについて学び、より高度な	
朔						演奏が出来るようになる。	
3		楽曲をアナリーゼし、	\circ	0	0	1 学期・2 学期で学んだことを総合的に	学習状況
学	合	楽語について理解を深				生かした演奏が出来るようになる。	実技試験
当期	奏	める				アンサンブル力を高める。	
刔						合奏曲はその都度決定します。	

2024年度 相愛高等学校 1年 普通科 特進コース シラバス

教科	教養	科目	吹奏楽	単位数	1	選択等	選択
教科書	なし						
副教材等	楽器・楽譜						

1 学習の到達目標

- ・演奏を通じて自己表現が出来るようになる。
- ・楽器への知識を深め演奏技術を高める。
- ・楽曲への理解を深められるようになる。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

演奏することにより、自己表現する力を身につけ聴いて頂く方に感動を伝えられるようになりましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観	I : 知識・技能(技術)	Ⅱ : 思考・判断・表現	Ⅲ:主体的に学習に取り組む	
点	1 . 邓峨 12形 (127/11)	11. 心气、刊图、衣先	態度	
観	・演奏する楽器に関心を持	・楽曲や時代背景について知識	・発言等を積極的に行う。	
点	つ。	を深め、自らの演奏技術によっ	・自ら技術向上の為にどの様な	
0	・意欲的に音質向上に向け取	て表現する。	トレーニングをしたら良いの	
趣	り組む。	・楽譜に書かれている楽語につ	かを考えられるようになる。	
計		いて理解を深める。		
評	・実技(演奏会)により評価。	・実技(演奏会)により評価。	• 学習状況	
価	• 学習状況	• 学習状況	・発問への対応	
方	・発問への対応	・発問への対応		
法				

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I:知識・技能 II:思考・判断・表現 III:主体的に学習に取り組む態度

学	単	単		平価		評価方法
芽期	元	学習内容	する観点		単元(題材)の評価基準	
	名		І П	Ш		

1 学 期		基礎練習	0	\circ	\circ	よりよい音色をだせるようにトレーニ	学習状況
	^	音程や音色のチェック				ングする。	実技試験
	合					曲を通じて、ただ演奏するのではなく、	
	奏					音楽表現を豊かにし、自分が伝えたい音	
						楽を演奏できるようにする。	
2 学 期		曲に応じて効果的な練	0	0	\circ	音価について理解し、楽譜に忠実な演奏	学習状況
	合	習方法や時代背景を学				が出来るようになる。	実技試験
	奏	\$				フレージングについて学び、より高度な	
						演奏が出来るようになる。	
3 学 期		楽曲をアナリーゼし、	\bigcirc	\circ	0	1 学期・2 学期で学んだことを総合的に	学習状況
	合	楽語について理解を深				生かした演奏が出来るようになる。	実技試験
	奏	める				アンサンブル力を高める。	
						合奏曲はその都度決定します。	